

口とも唱へ、京坂地方より來るもの、紀見嶺を踰ね、學文路村より登りて不動坂に達し、以て一心院谷より入るなり、此の道は迂回するものなれども、不動坂口に比ぶれば峻しからず、熊野口は熊野より、龍神口は龍神より來るものにして、共に險峻なり、斯くのごとくにして大門に達すべし、以下項を別けてこれを解かん。

大門 高野山寺域の入口にして建坪百二十坪あり、天晴るゝの日は和歌山市街を煙靄の裡に望むことを得べし。

金堂 大門より十四五町の間は、大小の僧坊左右に連り、市店は軒を並ぶ、而して金堂は二層の高閣にして、高さ二十五間、周回十三間あり、安置するところの本尊は、丈六金色の藥師如來の坐像にして、空海の作なり、其の傍に大塔あり。

大塔は二層の高閣にして高さ十六丈、十六間四面なり、南天の鐵塔に擬したるものなりと云ふ、寛永八年の創建なりしが、天保十四年火災にか

しり、明治十七年再建の手斧始を行ひ將に成功せんとす。

西塔、東塔 是東西に立ちしが、東塔亦延焼して功未だ成らず。

寶庫 是空海が唐國に於いて得たりし密具の眞蹟及び世に稱するところの三鈷、鐵鉢等を藏す。

以上説き來りし一區を以て、これを壇上と稱す、これより二町ばかり東に行けば、當山の主坊たる金剛峯寺あり。

金剛峯寺

是空海の一山に名づけたる密號にして今の寺地は、第二世

眞然僧正の廟所たりしが、文祿二年豊太閤、准三后天瑞尼公のため之れを寺となしたるものなり、豊臣秀次の生害したるは此の寺なり。

一の橋 是大門より三十有餘町にありて、其の間の左右は西院谷、南

谷、一心院谷、五室谷、千手院谷、本中院谷、小田原谷、蓮花谷、東谷の

十谷に別つ、皆いづれも僧坊ありそれより東は深林にして古杉老檜天を覆ひ、殆ど日曦を見ず、是れ即ち空海入定の地にして奥の院と稱す、二

十町ばかりの間は、無數の墓碕、間なく立ちならぶ、概ね諸侯の墓碕なり。
廟所 空海入定の地に建てたるものにして、其の前に一橋を架す、こ
れを御廟の橋と云ふ、長四間四尺、幅五尺五寸、板橋三十七枚ありて、
金剛界の三十七尊に擬し、板裏に其の種子を書す、罪障深きものは渡る
ことを得ずとぞ、さればにや豊太閣の傑齋といへども畏縮したるものと
見え、夜竊に應其上人を従へて渡り試み、明日束帶して之を渡りしと
云ふ。

玉川 は御廟の橋の架りし川なり、空海の「わすれても汲みやしつら
ん」云々の和歌は此の處を詠みたるなり。

燈籠堂 は御廟の橋を渡りたる所にあり、もとは拜殿なりしが、燈火
の功德莫大なるを以て、空海の設けたる萬燈會の絶えたるを興し、以て
燈籠堂となしたるものなり。

元來高野山の寺域は頗る廣く、これを詳悉するは到底小冊子の盡すこと

能はざるものなれば、此に擲筆することゝなしぬ。

●名倉停車場

○名倉は 妙寺を距ること二哩三十七鎖。

●橋本停車場

○橋本町 は妙寺村と、もに伊都郡内に於ける都邑なり、名倉を距
ること三哩三十四鎖なり。

●隅田停車場

○隅田 は橋本を距ること二哩三十七鎖。

●二見停車場

○二見 は隅田を距ること二哩四十五鎖にして大和に入りて最初の停
車場なり。

●五條停車場

○五條町 は大和守智郡の東隅に位す、一都邑なり、二見を距ること

一哩に満たざるごと一鎖、紀和鐵道の終點にして南和鐵道への連絡驛なり。

梅室院　は宇智村大字小島にあり、此の地もと役小角の靈場にして、養老三年、藤原武智麻呂元正天皇の勅を奉じて造營したるところなり、一千餘年前のものにして其の残れるは二三あるのみ、寺前の清流は、これを宇智川と稱す、水清く、流靜に、更に湍聲を聞かず、よりに音無川の稱あり。



奈良鐵道

●七條(京都)停車場

○七條　は京都市にして之も東海鐵道の部に掲げたれば茲に略す

●伏見停車場 (同上伏見町に在り)

○伏見町　は郡中の一都市なり、當所の記事は既に東海鐵道の部に記載したれば茲に略す

●桃山停車場 (同紀伊郡伏見町宇桃山に在り)

○桃山　は藤の森の東南にして豊太閤の殿舎の舊趾なり桃花頗る多く又梅溪には梅樹夥多あり南に宇治見堂あり巨椋の池淀の川瀬等を眺望なし殊更一勝景なり又墨染寺には墨染櫻あり、欣淨寺は古へ深草の少將の舊蹟にして少將井・少將塚、小町塚等あり

●木幡停車場 (同宇治郡宇治村に在り)

、山和鐵道の終點にして南和鐵道への連絡驛

○木幡

は宇治村に屬し、方寺あり本尊は金銅長一尺三寸許の阿彌陀如來にして古へ泥の邊一口の漁夫彌陀次郎の感得せし所なりと

万福寺 は大字菟道に在り、黄檗派の總本山にして隱元和尚の開基なり境内數多の堂宇は皆壯嚴にして都にも其比を觀ざる巨刹なり、又常光寺(橋寺)興聖寺、三寶戸寺、喜撰岳等あり

●宇治停車場 (同郡宇治町に在り)

○宇治町

は郡の東北に位し宇治川を隔て、菟道と相對す、旅舎割烹店は川に沿ひて檐を列ね光景佳境にして四時茲に逍遙する者多く殊に著名の一勝地たり、平等院、縣神社、橋姫の祠等此地にあり

●新田停車場 (同郡大久保村に在り)

○新田

は長池を距る二哩半弱、寺田村には久世神社あり萬葉集に開木代來背社と云るは蓋し是なるか通過を殊に著名なり

●長池停車場 (同久世郡宮ノ庄村に在り)

○長池

は小村落なり北に久世の鷺坂と云ふあり

●玉水停車場 (同綴喜郡玉水村に在り)

○玉水驛

は大和街道の一驛にして旅舎割烹店軒を列ね稍繁昌す茲に井堤の玉水と稱する名水あり又井手村玉井寺にも玉の井と云ふあり井堤左大臣(橘の諸兄)の館趾東南に在り、井堤の玉河は驛の傍にあり

●柵倉停車場 (同上柵倉村に在り)

○柵倉村

は木津を距る三哩餘、近傍には高倉の宮趾、蟹滿寺、神音寺、泉橋寺、狛の里等あり

○誓願寺

は其南に在り本尊は十一面觀世音脇壇には小野篁作の地藏尊を安置す蓋し聖武天皇の勅願に依ると云ふ此外和泉式部の墓、鹿背山、恭仁の宮趾、瓶の原、柞の杜、國分寺等あり

●木津停車場 (京都府山城國相樂郡木津町に在り)

○木津町

は大和街道の一驛にして商家軒を列ね山城南部の一都會なり

○木幡 是宇治村に屬し、西方寺あり本尊は金銅長一尺三寸許の阿彌陀如來にして古へ淀の邊一口の漁夫彌陀次郎の感得せし所なりと

万福寺 是大字菟道に在り、黄檗派の總本山にして隱元和尚の開基なり境内數多の堂宇は皆壯嚴にして都にも其比を觀ざる巨刹なり、又常光寺(橋寺)興聖寺、三寶戸寺、喜撰岳等あり

●宇治停車場 (同郡宇治町に在り)

○宇治町 是郡の東北に位し宇治川を隔て、菟道と相對す、旅舎割烹店は川に沿ひて檐を列ね光景佳境にして四時茲に逍遙する者多く殊に著名の一勝地たり、平等院、縣神社、橋姫の祠等此地にあり

●新田停車場 (同郡大久保村に在り)

○新田 是長池を距る二哩半弱、寺田村には久世神社あり萬葉集に開木代來背社と云るは蓋し是なるか通過を殊に著名なり

●長池停車場 (同久世郡宮ノ庄村に在り)

○長池 是小村落なり北に久世の鷺坂と云ふあり

●玉水停車場 (同綴喜郡玉水村に在り)

○玉水驛 是大和街道の一驛にして旅舎割烹店軒を列ね稍繁昌す茲に井堤の玉水と稱する名水あり又井手村玉井寺にも玉の井と云ふあり井堤左大臣(橘の諸兄)の館趾東南に在り、井堤の玉河は驛の傍にあり

●棚倉停車場 (同上棚倉村に在り)

○棚倉村 是木津を距る三哩餘、近傍には高倉の宮趾、蟹滿寺、神音寺、泉橋寺、狛の里等あり

○誓願寺 是其南に在り本尊は十一面觀世音脇壇には小野篁作の地藏尊を安置す蓋し聖武天皇の勅願に依ると云ふ此外和泉式部の墓、鹿背山、恭仁の宮趾、瓶の原、柞の杜、國分寺等あり

●木津停車場 (京都府山城國相樂郡木津町に在り)

○木津町 是大和街道の一驛にして商家軒を列ね山城南部の一都會たり

り此地は古へ泉の里又高瀬の里と稱せり、木津川も一名泉川又輪韓川、挑川等の名ありて曾て南都東大寺の大佛殿建立の時用材茲に着せしを以て木津と稱せしとす

大智寺 是東二町許に在り此寺古へ泉川橋破壊せし其柱水底に残しに時々光を放てり是靈木なりとて引揚げ此寺を創建なし初め橋柱寺と云ふ哀堂 是其南に在り俗にアハレ堂と稱す平重衡此河原に於て刑に處せられし時の引導佛なりとす重衡の塚は堂の前に十三層の塔を建り首洗池は堂後に在り又ならずの柿と云ふあり

●奈良停車場 (奈良縣大和國奈良町に在り)

○奈良町 是關西鐵道の奈良驛なり之に接續なして當鐵道の起點とす奈良の記事は既に同鐵道奈良驛の部に掲載せり

●京終停車場

京終 是奈良市街の南端にして奈良停車場を距ること僅に一哩一鎮に

過ぎず

●帶解停車場

帶解 是京終を距ること一哩六鎮。

帶解地藏 帶解村大字今市にあり、俗に帶解寺と稱す。本尊は、佛工春日の作に成りし地藏尊にして、往昔染殿皇后の崇信せられし所なり。皇后嘗て御懷胎あり、三十三ヶ月を經れども、猶は分娩あらせられず、故に種々醫藥を盡し、且つ祈念を凝らしたりしが、毫も其の効なかりき。一夜春日明神の靈夢を蒙りて、當寺の地藏尊に祈念したりしかば、忽ち皇子を誕生し給へり。是れ即ち惟仁親王にして後には清和天皇とぞ申し奉る。爾後皇后深く此の地藏尊に歸依し、新に伽藍を造營し、平産の意によりて、帶解寺の號を賜ひしと云ふ

●櫟の本停車場

櫟の本 是帶解を距ること一哩七十六鎮。

歌塚 櫟の本村大字櫟の本の田間にある一の荒墳にして、これに題して歌塚と云ふ。傳へ云ふ、柿本人麿の墓なりと。人麿は、石見國に於いて死したるは、實なるがごとくなれば、誤傳ならん。

●丹波市停車場

丹波市 は櫟の本を距ること一哩七十六鎖。

石上神社 丹波市の東方山邊村大字布留にあり、祀るところは、十握の御劍にして官幣大社なり。崇神天皇の御宇、伊香色雄命、天神地祇を分ちて、八百萬の群神を祭りしとき、此の神靈を此處に鎮め祀りしと云ふ。

抑も十握の劍と號するは、上古素戔鳴尊、出雲に於いて八岐の大蛇を退治したまひしとき、用ゐられたる御劍にして、一に天の羽斬と稱し、高皇產靈神より饒速日尊に傳はり、爾後神武天皇に傳はりしが、歷朝の神器となれり。崇神天皇に至りて、此に奉祀したるものなり。社殿は壯麗なるにあらずといへども、山に倚りて森林を負ひ、瀟洒にして高潔なり。

域内は三万六千餘坪を有す。

良因寺 一に石上寺又良峰寺と稱す。山邊村にあり。良峰は、僧正遍昭の俗名にして、遍昭嘗て此の寺に寓せしより、此の名あるならん。後、

素性法師も亦、此の寺に住せしことあり。

桃尾の瀧 山邊村大字瀧本の山中にあり。一に布留の瀧と云ふ。高さ七丈餘、幅一丈ばかり。夏時涼を納るゝの勝地なり。此の傍に龍福寺といへる梵刹あり。行基僧正の開基したる所なり。

大和神社 朝和村大字新泉にあり、奈良よりするものは、丹波市にて下車し、櫻井方面よりするものは、柳本にて下車するを順路とす。倭大

國魂命、八千弋神及び御年神を祭れる官幣大社なり。垂仁天皇の二十五年、これを創建したるものなり。境内三千五百餘坪。正殿、拜殿、神饌

所、神樂所、社務所其の他二三の殿社あり。毎年四月一日を以て、例祭

を行ふ。其の儀式壯嚴なり。

二階堂 は丹波市の西方、二階堂村大字二階堂にあり、一名を膳夫寺と云ふ。膳夫姫の創立したる所なり。膳夫姫は、もと一賤女にして澤邊に芹を摘み居たりしが、たま〜聖徳太子のために一幣せられ、抽きんでられて其の妃となりし人なりと云ふ。
手白香皇女陵 朝和村大字山中にあり。仁賢天皇の皇女にして、繼體天皇の皇后、欽明天皇の母后に當らせたまふ。

●柳本停車場

柳本 は丹波市を距ること二哩七鎖。

繼向山 柳本の東方にあり。繼向川の水源なり。大和志に曰く、峰を弓月岳と云ひ、南を檜原山と云ひ、北を穴師山と云ふ。東は初瀬山に連り、西に小孤山あり、珠城と號すと。是等の山嶺の名を詠める古歌多しといへども煩を避けて掲げず。

●三輪停車場

三輪町 は式上郡内に於ける第一の都邑にして初瀬町と伯仲の間にあり。區裁判所出張所、警察署、郡役所等あり。市街には三輪の茶屋と云へる看板を掲ぐるもの多し。蓋し梅川忠兵衛の院本に憑據して附會したるものなるべし。素麵は此の地の名産なり。

三輪山 三輪町の東方に立てる峻拔なる孤峰なり。三諸山又神並山の名を有す。故に動もすれば龍田の三室山及び神南備山と相混ざるものあり。大和志に依れば、山上に不動、薬師、地藏の三石像あり、これを與の不動と云ふとぞ。

大神神社 三輪山の麓に鎮座する大社にして大物主命を祭る。崇神天皇の七年、始めて祭祀するところなり。大和めぐりに曰く、拜殿の上ひくさ山ありて杉多し參詣の人之に向ふて拜すと。即ち社殿は、唯拜殿あるのみにして正殿なし。官幣大社にして毎年四月九日例祭を行ふ。城内の名勝甚だ多しといへども、其の最も著名なるものを擧ぐれば三輪の檜

原、三光谷、玄寶谷、ひろくが谷、神の峰、猪井川、狹井川、淵橋、印の杉、菜摘田、雙本の杉、夫婦石等とす。然れども雙本の杉は、寶永年間の大風のために其の一株を吹倒され、一株は、明治十四年の暴風に折られ、印の杉は安政四年、雷火のために枯稿したり。

緒環塚 大神神社の一の鳥居を出で、右に折れたる街道の傍にあり。舊事記に據れば、大已貴命、生玉依姫に通じたる故事あれども左までとは略しぬ。蓋し塚は、緒環を埋めたる處なるべし。

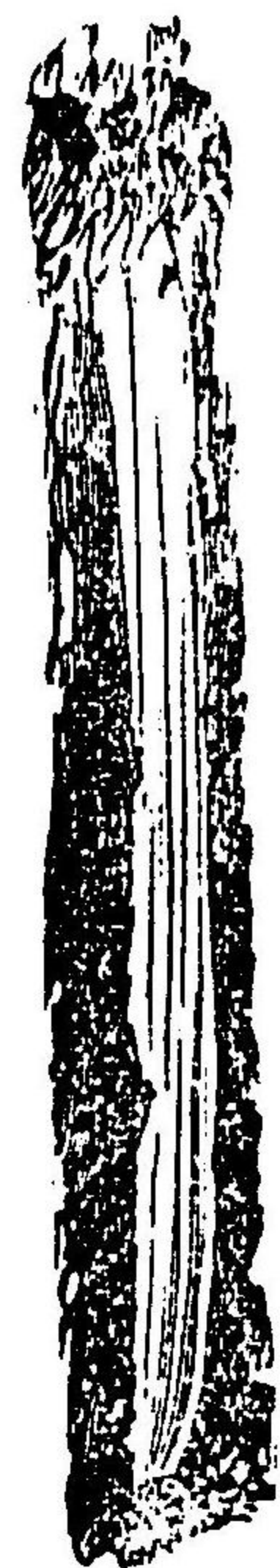
三輪ヶ崎 倭路記に曰く、三輪の町を出離れて、長谷の方へ行くに、三輪山の尾崎あり、これを三輪ヶ崎といふよし、又此邊に山より流れ出づる小溝あり、土人これを佐野の渡と云ふ。此の邊を佐野と云ふにや、亘りとは邊と云ふことにて、渡りにはあらずと云々、其他種々の説あれども略しぬ。

綱越神社 三輪町大字三輪の南方、明神溝の畔にあり、境内廣からず

百襲姫を祭る。姫は、孝元天皇の皇女にして崇神天の姑内親王に當らせたまふ。土人一に呼んで箸墓と稱す。大物主命を怨恨し、箸を以て陰部を貫き、以て薨せりとして、此の名あり、其の事荒唐にして長ければ、此に省さぬ。

瑞籬の宮址 三輪町の東大字金屋にあり、崇神天皇、都を磯城に遷して、これを瑞籬宮と云ふといへるもの、即ち是れなり。

穴師兵主神社 練向村大字穴師にあり。奈良よりすれば柳本停車場に、櫻井よりすれば三輪停車場に下車すべし。傳ふる所に依れば、太古、天神降臨のとき、護齋の鏡三面、鈴一合を身に添へたまひたり。其の中に、一面の鏡と鈴を以て、御食津の神と稱す。穴師の神は即ち是れなりと。域内五千三百餘坪、森樹深く生ひて神さびたり。



山陽鐵道

●神戸停車場 (兵庫縣神戸市東川崎町に在り)

○神戸市 は東海鐵道最終の驛にして同市の記事は既に其部に掲げられたは茲に略す

湊川 は楠正成戦没せし處にして曾て著名なり、此水源は北方諸村の小流相合して一となり八部郡大字石井村に於て千鳥ヶ瀧となり東南して福原町に至る兩岸には松栢繁茂し堤上を今遊園地とす茶亭數軒ありて常に逍遙する者多し、線路は河底を穿ちて下を通過し頗る奇觀たり

●兵庫停車場 (兵庫縣攝津國八部郡林田村に在り)

○兵庫市街 は神戸市の一部にして一に湊西部と稱す湊川を以て神戸市街との境界とするが故に此名あり古へ所謂兵庫の津にして中國街道に衝り治承年中平の清盛安徳天皇を奉じて都を福原(今の神戸停車場近傍)

に造り島を海濱に築きて風濤の害を防ぐ當時は商業繁盛五畿内屈指の賑地なりしが神戸港を互市場として開くに及んで漸次其繁昌を神戸に移し今は稍や衰微の模様あり、市坊七十四、戸數一萬四千二百戸、人口四萬〇三百人、兵庫假留監、兵庫警察分署、尋常師範學校、川崎造船所、山陽鐵道會社、日本精米會社、米穀輸出會社、第六十五銀行、第七十三銀行等は皆濠西部に在りて其他神明町邊には旅籠屋多し

和田神社 是兵庫停車場の東南十三四町字和田崎町に在り縣社にして天御中主神を祭り俗に海上鎮守の神と稱す社殿壯麗、其前に汐入の小灣あり橋を渡れば和田岬の通路なり毎年五月大祭を執行す

和田ノ岬 是和田神社の南五六町の處に斗出せる岬角の名にして岬頭に不動赤色の燈臺あり其東を兵庫港とし西は近く須磨の海濱に接す岬角の西即ち舊砲臺と消毒所との間に和樂園あり數萬坪の砂濱を圍ひ込みて遊園地となし中央に西洋造りの三層樓を築き入口の左に勸商場を設けて

來客の縦覽購買に便す又別に海門館、魚善樓、自由軒等の料理屋ありて園内生洲の魚を捕り生ながら調理して客に薦め且傍ら宿屋を兼ねて客を宿泊せしむ其他海水温浴あり冷浴あり、欄に倚りて釣を垂るべく濱に出で、風を迎ふべく夏日の避暑納涼には亦屈竟の遊び場所なり

築島寺 是停車場の東七町許り島上町築島橋の北畔にあり浄土宗にして本名來迎寺と稱し應保三年平ノ清盛の創建にして本堂に阿彌陀佛を祭る、傳へて言ふ清盛會て築島の舉あり風波荒くして工事の成就せざるを見、人柱を沈めて其成就を謀らんとし旅人を捕へて海に投せんとす僕童大井松王衆の悲みを見るに忍びず自ら犠牲となりて海に沈む後ち如意輪觀音海中に現せしを以て松王の靈來迎の意を探りて來迎寺と名く云々、七堂伽藍は湊川の役に焼失し今は本堂のみを存す

清盛の塔 是名くるもの南逆瀬川町真光寺の南、大藏省米廩の隣りに在りて兵庫停車場より僅かに五六町を隔つ十三層の輪塔にて北條貞時の

建つる所なりと云ふ街衢を隔て、其眞向ふに經正の琵琶塚なるものあれと今は草間に埋もれて見易からず

湊山温泉 是湊川の上流有馬街道より左折せし湊山の麓にあり冷泉にして硫鑿の氣を混じ胃腸加答兒、痛風、子宮病等に効能ありと云ふ其近傍四五軒の茶亭、料理屋あり浴槽は直ちに湊川上流の岸に接し一ノ湯、二ノ湯等の設けありて夏日は浴客群集す

長田神社 是停車場の西十餘町、中國街道より右折せし松林中に在り官幣小社にして事代主命を祭り神功皇后攝政元年の創建なりと云ふ社殿は清麗を盡し且別に攝社末社あり其華表の額は小野道風の書なり、毎年八月大祭を執行し毎月一日小祭を行ふ一日に參詣すれば福を授かると言傳へ元旦の如きは賽人蝟集して頗る雜沓を極む

●須磨停車場 (兵庫縣攝津國八部郡須磨村字西須磨に在り)

○須磨村 是中國街道に方り西須磨、東須磨の稱あり今は自治制に基

き大手、西代、池田等の各村を併せて須磨村と云ふ、戸數一千六百六十戸、人口五千百三十人土地乾燥にして空氣清く脚氣患者の轉地療養に適するを以て夏日は神戸兵庫より此地に來り留まる者多し其海濱を須磨ノ浦と呼び松風湖月、明石と併び稱せらるゝの名所なり

須磨寺 是福祥寺と號し停車場の東四五町の處に在り僧門鏡の開基、光孝天皇仁和二年の創建にして古へは坊舎數十を支配せし巨刹なりしが堂宇傾き伽藍朽ちて今は大に衰頽せり寺寶には青葉の笛、敦盛自筆の和歌、辨慶筆若木櫻の制札其他數品を藏し望みに應じて參詣人に縦覽を許す、近來其寺地近傍を以て公園地になさんとの計畫ありと云ふ

一ノ谷 是源平古戰場として名高き地、停車場の西凡そ三四町の處にありて山は直ちに海岸に迫り其間に溪谷ありて一ノ谷、二ノ谷、三ノ谷と云ふ壽永の昔し安徳天皇が假に皇居を設けられたるは一ノ谷の上鐵柵の峯にして今猶ほ土手跡と覺しきものを存す、山下なる街道の傍らに敦盛

の塔と稱するものあり其形ちは挿繪に示したるが如き五輪の塔にて半は砂中に埋められたれど猶ほ地上に顯はるゝもの凡そ二間の高さ有す其傍らに蕎麥店ありて敦盛蕎麥を賣ぎ高貴の人も往々之を味ふ事あり

境川温泉 一ノ谷の西數町攝津播磨の州界なる境川の邊りに在り山に據りて浴場を設け客室皆な清潔、土地閑靜にして夏日は神戸、明石等より浴客群集す又一ノ谷の麓街道の左傍にも一の海水浴場ありて館を海月館と云ひ夏は海濱を以て游泳場に充て且館内常に温浴の設けあり

●舞子停車場 (兵庫縣播磨國明石郡垂水村字西垂水に在り)

○垂水村 是東西の二村に分れ停車場は西垂水村に在るも其地舞子、濱と近接するが故に舞子停車場と呼ぶ垂水村の戸數千四百三十戸、人口五千〇四十人、垂水の東端に海神社あり國幣中社にて底津少童命、中津少童命、表津少童命を祭り神功皇后攝政元年の創建なり又停車場の東十五町、街道の傍らに二三の割烹店あり家は直ちに沙濱に接し海峡を隔

て、近く淡路島を望み風景真に畫圖に對するが如く夏季避暑客の來り遊
ぶ者多し、瀧ノ茶屋と云ふは即ち是なり

舞子の濱 是停車場の西凡そ七八町の處より始まり東西五六町に渉る
海濱の名にして古松の枝たわみ幹蟠まるもの數千株或ひは起て舞ふが如
きあり或は臥して眠るが如きあり翠色は真砂の白きと相映じ風は軽く梢
を掠め浪は靜かに岸を洗ひ且淡路島の嫣然笑ひを含みて海濱と相對する
ありて其風色の絶佳なる真に天然の美術を盡したるものゝ如し濱の南、
街道に沿ひて龜屋、菊屋等三四軒の割烹店ありて春夏の二季には遊人の
來りて其景を賞する者頗る多し

●明石停車場 (兵庫縣播磨國明石郡明石町に在り)

○明石町 是元と松平氏の城市にして市坊五十八、戸數四千四百五十
戸、人口二萬〇四百人南に明石海峡を擁して水陸の交通共に至便、其北端
深林翁鬱たる處を舊城趾とす、城は元和三年小笠原忠真の築く所廢藩後

之を公園と爲し園中に明石神社を創建し藩祖松平直明の靈を祭る、驛内
に明石郡役所、區裁判所、郵便電信局、警察署、監獄、第五十六銀行、三國銀
行、社寺にては光明寺、長壽院、月照寺、休ノ天神祠、嚴神社等あり例に依
り驛内著名の旅宿を擧れば左の如し

- ふびす屋 (高見 吉衛) 明石町人丸神社前 かご屋 (籠屋 藤吉) 同 字西新町
- 橋本屋 (菅原久右衛門) 同 上 山本屋 (山本善右衛門) 同 上
- 小澤屋 (小澤源右衛門) 同 字西新町 井筒屋 (井筒屋文四郎) 同 上

人丸神社 是停車場の北、舊城趾の山嶺に在りて柿本人麿の靈を祭
り社殿に長七尺の木像を安す創建の年月は詳らかならざれども元は城内
に鎮座せしを藩主松平信之の代に至り此地に移せしものなりと云ふ境内
に盲杖さくら、筆柿、人麿の碑ありて神庫には什寶數個を藏す又社前には
前記戒屋、橋本屋等の旅店ありて樓上よりの眺望殊に宜し

明石海水浴 是停車場の南十町を隔てし所にあり明石港の海濱に在り
一を瀧衝館、一を集樂閣と云ふ館内孰れも温浴場を設け其海岸を以て

水浴場に充つ、此の海峡は潮流の循環交代する處にして水清く浪靜かなるが故に最も婦人小童等の水浴を取るに適し毫も危険の恐れなきものと云ふべし。

●大久保停車場 (兵庫縣播磨國明石郡大久保村に在リ)

○大久保驛 は中國街道に方り明石町を距る一里廿餘町今は町村制に依り近傍九ヶ村を併せて大窪村と稱し驛を字大久保町と云ふ一村の戸數千四百八十戸、人口六千七百七十人、停車場より驛の中央まで六町を隔て驛内郵便局、警察署等あり族舎は大津屋、丸屋を最とす

天郷梅林 は停車場の北凡そ二十町小高き丘の中腹に在りて停車場より人力車を通ず、老梅六百餘株皆な八重の薄紅梅にして花候に至り之を遠望すれば宛から紅氈を敷き連ねたるが如く近ければ身は唯だ彩霞の爲めに包まれたるかの思ひありて人をして花の爲めに酔ひ又花の爲めに狂せしむ其西十餘町の處にも亦金ヶ崎梅林あり梅樹の數は天郷より少くなく風

景も大に劣る所あれども花は天郷と同種類の紅梅にて東西相對して一區の仙境を造れり實に縣下第一の香世界なるべし

○土山停車場 (兵庫縣播磨國加古郡阿閉村并に二見村に跨る)

○土山村 は中國街道の一村落にして停車場は其南端阿閉村の境に在り土山は町村制實施以後他の八小村と共に合併して平岡村と稱し全村の戸數八百二十戸、人口三千五百二十一人、此地より美薺郡三木へ三里、二見港へ三十町兩所への通路は共に平夷にして人力車を驅るに宜し

別府手枕ノ松 は停車場の西南一里十五町別府村住吉神社の境内に在り琴謠に名高き手枕の松是なり古松蜿蜒其枝四方に蔓延して四十歩の面積を覆ひ一見して其靈木たるを知るべし社の創建は詳らかならざるも古へより別府、阿閉の産土神と崇め今に至るまで毎年九月大祭を行ふ、別府村は戸數八百戸ばかり地は海に接して漁人多く其海濱を昔し響の灘と稱せり、村内に旅店二あり一を川口屋、一を加古屋と云ふ

●加古川停車場

(兵庫縣播磨國加古郡加古川町に在り)

○加古川町　は中國街道の一驛にして東は大久保へ三里十町、西は御着驛へ二里廿八町、驛内に加古川郡役所、警察分署、區裁判所出張所、郵便電信局等ありて戸數七百五十戸、人口三千百五十人、町内常住寺に加古ノ松あり初代の樹は既に枯朽し今存在するものは後世植付けしものなりとぞ、古へ此邊りは都て海濱にして萬葉集其他の古書に加古島、加古ノ渡或は加古ノ湊など見えたるは皆此地の名なりと云ふ、夫の播州名所巡り乃ち尾上の松、尾上の鐘、曾根の松、高砂の松、石の寶殿等を巡覽せんとする者は此の停車場にて瀛車を下り曾根の松を最後に廻して同所より阿彌陀停車場に出るを順序とし此の一巡回の人力車賃は凡そ一圓内外ならん、驛内の旅店は升田屋伊平殊に名高し

加古川　は播州三大川の一にして水源を丹波に發し佐治川と云ひ西南流多可郡に入り加東郡瀧野を経て瀧野川と稱し三草、東條、美藁の三川を



合せて印南郡に入り猶は西南に流れ加古川驛の西に於て二流に分れ一は加古郡高砂港に注ぎ一は同郡荒井に至りて海に入る其長さ州界より凡そ十九里、上流瀧野近傍は鮎漁を以て其名高く夏時には避暑かたぐ鮎漁の遊覽に赴く者また多し

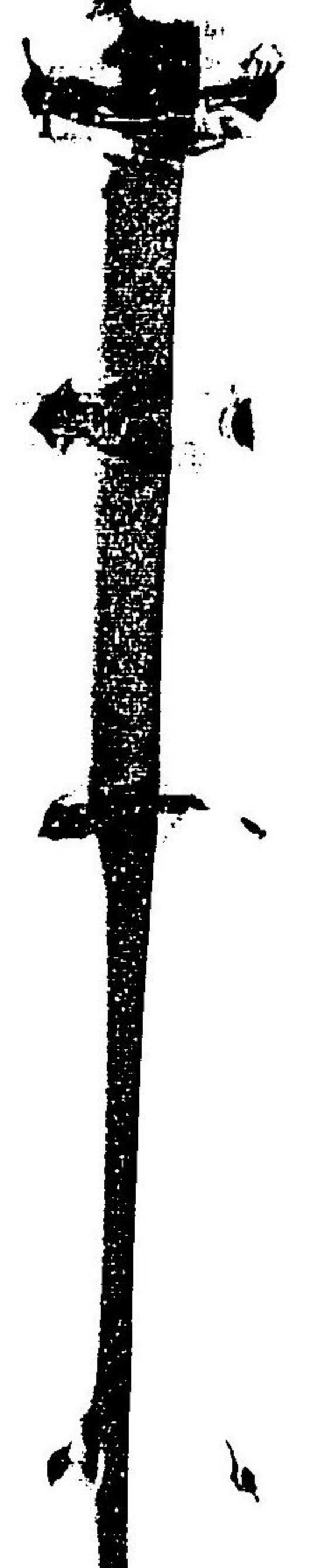
御林寺　は加古川町の東南廿五六町のところにあり加古郡小安村に在り天台宗、僧定惠の開基、靈龜二年藤原宇合の創建なりと云ふ入口に樓門あり之を入れれば正面に九間四方の佛堂ありて藥師如來の像を安置す寺記に曰く用明天皇の十二年乃ち聖德太子十六歳の御時此地に精舎を造營せんとて秦ノ川勝に命じて梵刹を創建せしめ本堂には釋迦三尊の像を安し四柱には八大金剛童子の形を彫み又内陣には太子の像を藏し古へは四天王寺と號せり云々此の本堂は曩に頽廢し今存するものは後年の再營に係り寺内別に護摩堂、觀音堂等あり

尾上神社〔尾上の松〕

は停車場より南の方一里十町ばかりを隔てたり、

同郡尾上村に鎮座する郷社にして住吉明神を祭れり、社殿の前なる小屋掛の中に有名なる尾上の鐘あり昔し神功皇后三韓より持歸り給ひし由言傳ふれども其傳來詳らかならず然れど千年以前に鑄造せし古鐘なるとは疑ふべくもあらず其形ちは高さ三尺二寸、周圍七尺二寸、厚さ二寸許りにして上部に乳子なく龍頭の傍らに竹管の形ちを鑄付け外面は人常に摩擦するが爲めに燦然光りを生じ一見して其奇品なるを知るに足るべし、古鐘と相對して相生の松あり雌雄の兩種一根より生じ枝葉四方にはびこり翠色滴らんとす又社殿の左傍に片枝の松あり其枝東にのみ延びて西方には一枝をも見ず但人名けて「都戀しき片枝の松」と云ふ

高砂神社(高砂の松) 神社は尾上の東凡そ十町高砂町の海濱に在りて素盞鳴命、大貴已命を合祀す社内にある相生の松は一根二幹其形ち尾上の松と相似たれど枝葉は四方に繁茂して彼よりも一層の見榮あり初代の松は天正年中早川の兵士之を伐りて箒と爲し爾後枯朽し了りたるを以



て舊領主池田輝政其枯根の上に神祠を移せし由社記に見たり故に今の松は後年植繼ぎたるものなるべし、高砂町は古へより名ある勝地にして松林遠く海濱に連なり南は一海峡を隔て、阿讃の二州と相對し風景明媚、一町の戸數は凡そ一千二百戸にして漁家最も多し、又寛永年間十五歳にして印度に渡航せし船頭天笠徳兵衛は此地の出生にして今猶ほ其宅趾ありと云ふ

十輪寺 は高砂町の西にあり淨土宗、僧空海の開基、承元元年僧源空の中興せし古刹にして本堂には阿彌陀佛を安し祖師堂には圓光大師の畫像を掲ぐ昔しは眞言宗なりしが故なり、寺寶として七寶の珠數、置文の影多羅葉等を秘藏し又毎年舊曆三月大法會を執行す

曾根天神祠(曾根の松) 社は高砂の西北一里五六町曾根村に在りて天穗日命を祭り之に菅原道實の靈を合祀す延喜元年菅公筑紫へ左遷の砌り船を伊保の港(今の伊保村崎)に寄せ檜笠の岡に登りて四方の景色を眺望

せし事ありしとて社を檜笠の天神とも稱せり社地の東隅、門を入りて右の方に曾根の松あり播州名所の一に數へらるゝ名木にして幹の大さ直径六尺餘、高さ三丈餘、枝葉は四方に繁生して凡そ三百五十坪の面積を覆ひ柱數百本其枝を支ふ、手枕の松、片枝の松、相生の松は共に其名高けれども一見人をして秀群なるに驚かしむるは此松なりとす、傳へて言ふ菅公此地に休憩の際小松の苗を社前に栽ゑて去る後ち蔓りて稀世の大樹となれりと去れど初代の松は既に腐朽し今は社殿の東隣に一祠を營みて古根を祭り此松は乃ち其二代目なるものなり

石の寶殿 是播州名所の内殊に奇異なるものにして生石子神社(郷社)と號し曾根村の東北凡そ二十町印南郡生石村の山腹に在り一大巖石を切抜きて寶殿の形を造り之を横さまにしたるものにて石殿の大さ方三間半、棟二丈六尺、屋根は西に傾き扉は天に面し其上に自から土留まりて二三の稚松を生じ殿の四方は鑿りて窪さが故に常に赤土色の水を湛へ一見

すれば宛から水面に泛もの、如し傳へて言ふ往昔大已貴、少名毘古の二神一夜に石の御殿を造らんとし給へるに事終らずして夜明けければ其儘に打捨て給へるなりと、今は其前に拜殿を設け石殿を以て神体と崇め祭れり、又石の寶殿の南に方れる小山に「觀濤所」の三大字を刻せる巖あり姫路の碩儒永根文峯翁の撰する所にして南方に近く海を望み眺望頗る快濶なり、石の寶殿より阿彌陀停車場まで凡そ三十町、故に寶殿のみ一覽せんとする旅客は同停車場にて汽車を下るを善しとす

●阿彌陀停車場 (兵庫縣播磨國印南郡阿彌陀村大字阿彌陀に在り)

○阿彌陀村 是中國街道に方れる一小村にして村の南端時光寺に阿彌陀の像を祭れるを以て村名に呼び來れり、今は町村制を實施し魚橋生石(石ノ寶殿の在る所)南池、北池、北新山、長尾、地徳の八ヶ村を併せて阿彌陀村と云ひ戸數七百八十五戸人口三千二百四十人を有す石ノ寶殿、曾根の松等を見物せんとする者は此停車場にて汽車を下るべく規定の人力車

賃ありて、これに賃するときは、寶殿、會根の松の兩所を一巡して停車場に歸ることを得べし

時光寺 是阿彌陀村の南端に在り僧時光(源賴經)の開基にして建長元年の創建なり當時は會根村會根神社の西にありしが文永十年今の地に移すど、本堂に阿彌陀佛の像を安置するが故に俚人阿彌陀寺と呼び終に村名をも阿彌陀村と稱するに至れり(阿彌陀村は元と北原と稱せり)

高御位山 是阿彌陀停車場の北一里十五町許り(麓成井村より登り十八町)印南郡西志方村の西に在り大己貴、少名毘古の二神此山に留まり給ひしと言傳へ昔しば山上に祠あり生石子神社(石ノ寶殿)と団体なれば例年九月生石子より神輿の渡御を行ひしと云ふ、山は悉く巖石より成り阪路曲折、其の途中一ノ丸、二ノ丸、御坐岩等の奇石あり山頂に到れば南に海を隔てて阿彌の巒峯を遠望し風色また秀麗なり

市川 是阿彌陀、姫路の間を横断せる長流にして姫路に近きと十町許

其水源は但馬の朝來郡に發し生野銀山の麓を過ぎ西南流神西郡に入り寺前村にて小田原川を容れ山崎村にて又九神東郡の岡部川を合せ姫路の東を過ぎ阿成村にて海に入る延長凡そ十二里なり

●姫路停車場 (兵庫縣播磨國飾東郡國術村に在り)

●姫路市 是舊酒井氏の城市、播州第一の都邑にして東西三十町、南北廿六町、市坊一百を有し戸數六千四百五十戸、人口二萬五千四百人、市内を大別して船場、内町、神谷、野里の四部とし街衢股賑、往來頻繁、就中國道筋なる福中町、俵町、壁町、二階町等を以て市中の目貫と爲す、市の北端に舊姫路城あり五層の天主閣雲表に聳は老樹之を圍みて白鷺常に群を爲す故に古へより白鷺城の名あり城は元と赤松貞範の守る所にして嘉吉元年其末孫赤松滿祐將軍義教を弑し奔りて城山に據りしより以來本城は山名宗全の所領に屬し應仁元年赤松政則復た之を奪ひ返し文明元年より舊主の子孫小寺豊職をして城を守らしむ天正五年羽柴秀吉此城に移り

後ち木下家定を封じ慶長五年池田輝政に當國を賜はり播備淡三州の領主として之を姫路に封ず輝政乃ち本城を再營し慶長十三年始めて五重の天主閣を築き九ヶ年にして竣工すと現に存するものは即ち是なり此城今は陸軍の管轄に屬し歩兵第八旅團の兵營となれり、市内また姫路市役所、飾東郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、姫路病院、尋常中學校、姫路紡績會社、姫路汽船會社、第三十八銀行、姫路私立銀行等あり、遊廓は野里梅ヶ辻に在り割烹店は西魚町に多く又物産は姫路文庫其他の革細工、鍋、釜及び鑄物類、陶器、高砂染等にして國道筋には其商店櫛比せり、例に依り市内の旅店を掲ぐれば左の如し

こん庄 (井上庄左衛門)	姫路市字福中町	すめたに屋 (山田孫兵衛)	同	字京橋口
米 清 (後藤清三郎)	同	上 中井屋 (中井 佐平)	同	上
かな五 (結城五一郎)	同	上 龍 萬 (……………)	同	字橋本新町
網千屋 (……………)	同	上 化蝶亭 (……………)	同	字大黒町

射立兵主神社 是停車場の東北十餘町、姫路城に近き處に在り縣社に

して五十猛命、大己貴命、九所神を合祀し舊名を伊和明神と呼び通稱を總社と云ふ天平寶字七年の創立にして攝社未社多く境内に影向ノ松、鬼石等あり、毎年十一月大祭を行ひ又七月十三日より十五日までの間社前にて舞踏を催し俗に之を修羅踊りと云ふ

白岡梅林 是停車場の北一里のところにあり但馬街道の傍ら白岡村の山腹に在り、山に倚りて數千株の梅樹を培養し花は單瓣あり重瓣あり白きあり紅あり春王の三月花の正に盛んなる頃は東西數町の間彩霞飄、芬芳馥郁、其景は殆ど天郷梅林と伯仲す又梅林の傍らに白國神社あり國方姫命を祭る今は白國の産土神なり

廣峯山(廣峯神社) 廣峰山は白岡村の北に在りて同村より直ちに阪路に差掛り登ると十八町にして山頂に達す、巔に廣峯神社あり縣社にして素盞鳴尊を祭り奇稻田姫、忍穂耳尊、天穗日命、天津彦根命等を合祀し天平六年吉備大臣之を創建す始めは同郡白幣山に在りしを天祿三年今の

地に移す社殿は壯麗を極め其後ろに九ヶ所の神穴なるものあり如何なる用意の爲めに造りしものか未だ詳らかならざれども參詣人は之を一拜し穴に賽錢を投ずるを常とす、神社の西廣峯の山續きに古へ廣峯城あり廣峯昌俊の築く所にして昌俊は建武の亂に足利に屬し數度の勳功を顯せし者なるが後ち廢城となり今は僅かに城廓の趾を存す
増位山(隨願寺) 増位山は廣峯の山續きにして其東南に位し廣峯神社の前より相往來すべく距離僅かに八九町に過ぎず山の半腹に隨願寺あり往昔厩戸の皇子(聖德太子)自ら其像を嚴に鑄し給ふ後ち天平七年僧行基山麓を過ぎて出井村に泊せし時藥師の示現に依りて寺を創建し自ら藥師如來の像を刻みて之を本堂に安す降つて天正年中堂宇は別所長治の兵變に罹りて燒失し同十三年時の城主秀吉に請ひて本堂を舊地に再建す今存するもの即ち是なり、其山麓に風蘿堂及び墓塚あり共に芭蕉翁の遺跡にして風蘿堂には翁の木像を安置す

書寫山(圓教寺) 書寫山は姫路の西北凡そ一里二十五町(書寫村より登り三十町)夢前川と營生川との間に在り山上には老杉陰鬱として晝猶ほ暗く阪路また嵯峨として登り易からず山頂に圓教寺あり天臺宗、西國巡禮二十七番の札所にして一條天皇の永延二年僧性定の開く所、本尊は長一丈六尺の如意輪觀世音なり又圓教寺道の左傍に王院馬場あり白河法皇書寫山登臨の際鳳輦を駐めさせ給ひし處にして車寄せの跡及び女人堂、紫雲堂あり、茲より西北七八町の處に辨慶學問所の硯水并に烏帽子岩あり土地幽雅にして夏日此山に署を避くる者多しと云ふ、姫路停車場より山麓阪本まで人力車を通すべし。
鹽田温泉 は姫路の北凡そ三里半ばかりを隔てたり飾西郡鹽田村の夢前川東岸より涌出するものにして泉質は炭酸冷泉なり其近傍に温泉浴場を設け樋にて冷泉を導き之を洩して入浴せしむ、去れど地僻にして浴場も亦清潔ならざれば病ある者の湯治として滞在するの外は紳士淑女の遊

山かたぐり來りて浴を取る者甚だ稀なり

○飾磨ノ津　は姫路を距る南一里許りの一港灣にして其街道には人家概ね接續して恰も姫路市中にあるもの、如し殊に姫路に集散する商品の海運は皆此の港灣に據れるが故に商家櫛比、商船輻輳、常に繁昌を極むるの地たり、今は町制を實施し飾磨一市街と細江、惠美酒の二村とを併せて飾磨町と稱し戸數一千二百戸、人口五千七百人を有す

●網干停車場　(兵庫縣播磨國揖東郡旭陽村字和久に在り)

○網干港　は停車場の南三十町餘、揖東郡南端の一港灣にして新在家、興濱、餘子濱各村を併せて小市街を爲し戸數一千七百戸、人口七千五百餘人其港灣は揖保川河口に方れるが爲めに年々土砂填塞し巨船を容るゝに便ならずして漸次繁盛の度を削減するの摸様あるも猶ほ揖保川上流には龍野、山崎等の名邑ありて物産の輸送を此港に一任するが故に播州海港中に屈指せられ其名世に著はる而して其住民には製鹽、漁獵を業とす

る者多し

班鳩寺

は停車場の北十五六町　鵜村の中央に在り天台宗にして釋迦

藥師、觀音の三像を本尊とし太子堂には聖德太子自畫の尊影を祭る其他寺内に三層塔あり彌勒堂あり本堂は方五間許りにして其壯麗なる一地方に於て稀に觀る所なり又寺の東南十四五町の山を檀特山と呼び其近傍に太子の駒繫ぎ石、蹄石等あり、鵜村即ち班鳩寺の在る所は中國街道の一驛にして戸數四百五十戸、人口一千九百二十人、驛内に揖東郡役所、區裁判所出張所、警察分署、郵便電信局、銀行支店あり、此地より龍野町へ一里十町、林田へ一里三十町又驛内名ある旅店を餅屋長造、綿屋利助、赤穂屋平左衛等の數軒とす

家島群嶋

網干港を距る南へ三里乃至五里の海上に無數の群島あり其

中家島なるもの最も大にして丹鹿島之に亞ぎ外に松島、鞍掛島、袋島、隱家島、坊勢島、西島等あり、其形ち奥州の松島に似たりとて網干より船を

雇ひ各島を巡覽する者あれども其廣さは東西六七里に渉るを以て夏季の長日と雖も一日には巡見を了り難く且其費用も亦低廉ならざれば寧ろ網干の海岸より之を遠望して其景を賞するに如かず、家島には家島神社、及び二三十戸の人家あるも其他の小島には人の居住するもの無けれど島毎に多く稚松を生じ水天一碧の間に其色を銜ふなど真に瀬戸内の一奇景なり

●龍野停車場 (兵庫縣播磨國揖西郡神部村字正條に在り)

○正條村 是停車場の所在地、中國街道の一驛にして南は室津二里、北は龍野町へ一里十五町、東は揖保川に瀕し南北には小丘を繞らして地勢平夷、古へは繁華なる一市驛なりしも一時は衰微の極に達し家を近村に移す者多かりしと云ふ去れど停車場設置以後は大に衰運を挽回し今は戸數六百餘戸に及び旅客の來往また隨つて頻繁にして村民爲めに喜色を帶るものゝ如し、驛内に郵便電信局、警察分署、履信學校等あり又旅店は井

筒屋忠七、小畑屋久兵衛、前田屋五右衛門等を佳しとす

○龍野町 停車場の北一里十五町、揖保川の西岸に位する名邑にして舊脇阪氏の治所、今は揖西郡役所の所在地なり北に高卓を負ひ、南は遙に田野相開け廣袤は東西十一町南北八町、戸數一千五百三十戸、人口六千六百五十人を有し古へより有名なる醬油の産地にして世に龍野醬油の名あり又揖保川にて産する鮎を以て此地の名物とす、町内重立たる建物は前記の郡役所を始め區裁判所、警察署、郵便電信局、町役場、高等小學校等にして此の小學校の西に龍野神社あり之に隣れる樓屋を聚遠亭と呼び脇阪氏の別業とす、亭は小高き丘の上にありて眺望に富み春時櫻花の爛漫たる頃は風致最も佳なり、旅店は鍵屋ねふ其他數軒、

○室ノ津 是停車場の南二里を隔てし所にあり、海濱にある港にして古へ室の泊又は室の浦と稱し金剛山は其北に聳ね金崎岬は西南に斗出して港内水深く船舶の碇泊に便利なると播州の各港に最たり故に往時封建

の世に在りては四國九州中國の諸侯參勤交代の折途を此地に取り室津より上陸するを常とし嶋津細川諸家の如きは此地に陣屋を設けし事もありしが維新後俄かに衰頽し今は家數僅々五百戸に過ぎずと

加茂神社 是縣社にして古へ室の明神と稱し室津村の南端明神山に在り本殿には別雷神を祭り其左右に片岡社、太田社、貴布禰社、若宮等あり境外には松柏蒼然として林をなし海より望めば樹間に社殿の隱見するを認め得べし維新前までは毎年五月小早月の祭りを執行し此地の遊女數十人錦の袴を着して練出るを例とせしが維新以後終に廢絶せり又社には今猶は寶物として狩野之信の繪馬、平ノ重衡の琵琶を藏すと

●那波停車場 (兵庫縣播磨國赤穂郡那波村字陸村に在り)

○那波港 是停車場を距る南の方十町許りの處に在り、小港壘の如く灣入して能く風波を禦ぐも灣内水淺くして巨艦大船の投錨に適せず、港に沿ひて人家櫛比一部落を爲す是れ即ち那波村にして戸數四百八十戸、

人口二千一百人、其西南一里半に阪越港あり、那波、阪越の中間に峻嶺ありて鷹取峠と云ふ赤穂街道中の難所なり

○赤穂町 是那波停車場より阪越を経て里程二里二十町ばかりを隔てたり、同所より西南に方れる海濱、有年川の西岸に在り、戸數一千五百四十戸、人口六千九百三十人、元と淺野家の城市にして今に其城墟を存す其他赤穂郡役所、警察署、郵便局等ありて郡中第一の商區とす又此地多く鹽を製し世に赤穂鹽とて持て囃さるゝもの則ち是なり然れども地名の古へより人口に膾炙するは製鹽の業にあらずして四十七士復讐の擧にあり、大石良雄等以下の義士は實に此地より起りしものにして其遺跡處々に散在す是等は旅店山野屋、瓢箪屋に就て其案内を請はゞ懇切に旅客を各所に導くべし(赤穂より室津へ毎日便船あり)

華岳寺 是赤穂町の東、加里屋町にあり淺野家代々の菩提所にして本堂には淺野長矩の位牌、大石良雄信仰の一寸八分觀世音等を安し其左に

四十七士の墳墓、木像堂には同じく義士の木像あり僅かの見料を投ずれば寺僧出でて木像堂に誘ひ一々義士の略傳を講ず其辯滔々水の流るゝが如し堂を出でて之と相並びたる門を入れれば碑あり忠義塚と云ふ寛延三年藤江熊陽翁が義士の忠膽を頌する爲めに建設せしものなり

大石氏の宅趾(赤穂城) は町の南端舊城地の内に在り今は空地となりて雑草擅まゝに繁茂したれど其門のみは猶ほ存在し又地中に一樹の櫻あり良雄の愛樹なりしとて之を大石櫻と稱せり(華岳寺地内にも大石櫻あり孰れが眞物にや)此頃有志者は紀念として其宅趾を永遠に保存し且同地に大石神社創建の舉ありと開けり楮赤穂城は天正年間備前岡山の城主宇喜多直家始めて之を築き後ち慶長五年池田輝政の岡山に封せらるゝに及びて郡代を置きて之を守らしめ次で淺野、永井、森の三家之を領し王政維新の際廢城に歸したるものにて目下は周圍の石垣のみを存せり

●有年停車場 (兵庫縣播磨國赤穂郡有年村字横尾に在り)

○有年村 は東西二村に分れ停車場は東有年の東、有年川の對岸に在り一村の戸數九百戸人口三千九百七十戸、中國街道に衝り其西一里半にして舟阪峠あり之を播備の州界とす、千種川(有年川の上流)の東岸を溯ぼると五十町にして上郡あり又東南一里二十町にして阪越港に到るを得べし、有年は古へ繁華なる宿驛なりしも今は唯だ寥々たる一小村落に過ぎずして近傍また名所舊跡に乏し、旅店は網屋、瓦屋等數軒あり

白旗山古城趾 は停車場の北二里廿五町許り赤松村に在り峯巒嶮峭として聳之其中腹蒼樹の蒼鬱たる間に城趾あり山を乃ち白旗山と云ひ西麓には千種川(有年川の上流)の水環流して巖巖屏立、實に天險の要地なり、天永年中源ノ秀房此險に據りて城を築き建武年中赤松圓心此に籠りて南朝に叛す、又白旗山の西麓十餘町千種川の對岸に寶林寺と云ふ一草庵あり古へは名刹にして圓心が別法禪師に歸依して建立する所、今に別法和尚の木像并に赤松家代々の遺物を藏せり

●三石停車場 (岡山縣備中國和氣郡三石村字三石に在り)

○三石村 は中國街道に於る山間の一村落にして今は近村八木山、野谷を併せて三石村と稱し戸數四百六十戸、人口二千二百四十人を有す、其の近傍の山より蠟石を産し之を三石蠟石と呼ぶ又宿の東北七町溪間に深谷の瀧ありて水流二條に分れ一を男瀧と云ひ高さ五丈四尺、一を女瀧と云ひ高さ三丈、盛夏炎熱の頃は茲に來觀する者多し、驛内の旅店は橋本屋九郎志、福田屋五左衛門等を佳しとす

●吉永停車場 (岡山縣備中國和氣郡英保村字吉永中村に在り)

○吉永中村 は英保村に屬し戸數僅々五十戸に満たざる寒村にして近傍また其勝を探るべき名所に乏し只だ南一里に閑谷學校の舊地あり又北四里餘、美作國英田郡瀧ノ宮村に天ノ岩門別社なるものあれども山路險惡なるが故に此地より參詣する者は頗る稀なり

閑谷學校の遺趾 は停車場の南凡そ一里字閑谷新田に在り此校は寛文

年間舊藩主池田光政が碩儒熊澤蕃山翁を聘して子弟を教育せしめたる校舍にして其後延寶二年聖堂を建て次で元祿十四年聖像を鑄造して之を安置し堂を大成殿と稱し其翌十五年終に巍々たる講堂を建設し傍らに祠を營みて光政の靈を祭り之を芳烈祠と稱せしが後ち改めて閑谷神社と號せり維新以後一たび中學を此地に置きしも土地偏僻なるが爲めに之を廢し今は西穀一氏茲に私塾を開けり、故人が學事に熱心なると其用意の周到なるを忖度せんとする者は必ず往て一覽すべき遺趾なり

○臥龍の松 閑谷學校を通り抜け南二十餘町にして國道に出で西行一里にして片上港に出づ(同港より赤穂へ日々押切の早船出船す片上より赤穂まで海上六里)片上より西一里六七町(伊部の西半里)字大内に臥龍の松あり枝幹蜿蜒として屈曲し綠葉四方に繁茂して其形ち龍の蟠まれるが如く播州の名木に優るとも之に劣らざるの古松なり

●和氣停車場 (岡山縣備前國和氣郡本庄村字福宮に在り)

○和氣村　は停車場を距る北八町許り津山川と吉井川との落ち口にありて片上港より作州津山町に至る縣道に衝れり、戸數四百餘戸、人口一千七百十人、此地より津山川を溯ぼると一里餘、川に臨み奇巖峨々として山をなし岩石の間に青松綠樹雜生し風致清雅を極むるの地あり之を天神山と稱し夏日舟を其流れに泛べて景の奇なるを賞する者あり又和氣より津山までの縣道は始終津山川に沿ひて北行し距離凡そ九里半、道は平夷ならざれども亦車を通ず其途中周匝村より分れて倉敷に至るの道あり故に津山倉敷に到らんとする者は和氣にて下車すべし

驚ノ湯温泉　は和氣停車場の正北七里、英田郡倉敷の手前半里許り字湯ノ郷村に在り和氣より津山街道を北行し若戸、矢田、若水、鹽田等の小村落を過ぎて周匝村に至り同所より右折し倉敷川の東岸に沿ひて行くと二里半乃ち温泉場に達す其道は平坦と云ふには非ざれども車を妨ぐるもの唯だ二三の峻坂あるのみにして四時間を費さば同所に到るを得べく其

車賃は峻坂あるを以て、左まで低廉ならざるなり浴室は明治廿三年の新築に係り西洋風の二層樓にして樓下は一番より四番迄の四槽に分ちて浴場に充て樓上は浴客の休憩所となせり泉質は鹽類泉にして無色透明、打傷、水腫病、中風、癩麻質斯、貧血性、子宮病等に特效ありと云ふ又温泉旅舎は柏屋、龜屋、和泉屋、加茂屋等を上等の部とし其他に人家百戸許りあり過半は温泉の爲めに生活する者にして山陽道温泉場の最好處、山中の一賑地なり浴客は旅店の欄に凭りて四顧せば翠巒綠樹自から神を養ふに足るべきものありと雖も葉舟を倉敷川に泛べて漁鮎の遊を試むるも亦時に取りての一興なるべし、温泉場より倉敷まで僅々半里同所には電信局、警察分署等あり又歸路は小舟を雇ひて津山川の流れを下らば凡そ三時間にして和氣停車場に着するを得べし夏季は乗合船の日々出船し、尙ほ貸切船もあり

藤野の櫻園

は和氣停車場の東凡そ一里藤野村字日笠の猿日神社境内

にあり同境内より日笠川の堤に沿ひ若木の櫻千餘樹を植付け春時花の盛りなる頃は遠近より來觀する者多く樹下宴を開きて歌を謠ふあり堤上墨を磨して詩を賦するありて地方には珍しき雜沓を極むと云ふ

●瀬戸停車場 (岡山縣備前國繁梨郡物理村字瀬戸に在り)

○瀬戸村 は物理村の内に屬し南一里餘にして國道の船橋村に出るの道あり戸數百戸餘り村民は農商相半し又二三の旅亭あり

西大寺 は停車場の南凡そ三里を距る所にあり、上道郡西大寺村に在り郡内有名の巨刹にして寶龜年中僧安隆の創建、始めは屏戴寺と稱せしを後醍醐天皇今の名に改めたりと毎年一月一日より二七日の間修正の法會を執行し國家安全五穀成就の祈禱を爲し十四日の夜法會了りて後ち牛王を參詣人に投與す是れ所謂會陽なるものにして參詣の人々裸體被髮となり先づ身體を東大川の水に清め之を拾ひ取らんとを競ふ其喧噪雜沓云はん方なくして亦此の地方の一奇觀なり

●長岡停車場 (岡山縣備前國上道郡古部村字共甘村に在り)

○長岡村 は停車場の西南七八町國道に當れる一小村落にして今は財田村に屬す岡山市を距る僅かに一里二十町、財田村一村の戸數六百四十人口二千八百三十人、其西北二十餘町の國府市場は古へ備前の國府を置きたるの舊地にして平家物語に末殿配流の時國府の邊湯迫と云ふ處に流す云々と見ゆ今も其北隣に湯迫村あり

關白屋敷跡 前記の湯迫村に在り是れ則ち治承の昔し關白松殿(基房)の配流せられし處なり又其近傍に武士屋敷といふ地あり松殿配流の時警固の武士等が居住せし舊址なるべし

●岡山停車場 (岡山縣備前國御野郡石井村即ち岡山市の西端に在り)

○岡山市 は舊池田氏の城市、山陽道屈指の都會にして備前國御野郡旭川の西岸に在り市區の廣袤は東西凡そ二十町、南北一里餘、市坊九十二を有し戸數一萬〇八百戸、人口四萬六千百餘人、街衢は縱横に通じ就中西

大寺町、榮町、紙屋町、上の町、中の町、下の町の如きは豪家軒を並べ商業繁盛を極む、市の北隅に岡山城あり一に鳥城と稱す五層の天主閣及び櫓の外壁を焼板にて覆ひ其色黒きが故に鳥城とは名けしもの乎、城は何年何人の築きしや詳かならず按ずるに文明年間松田元成が州の半を攻略せし時新築せしものか否らざれば宇喜多直家が元成の玄孫松田元堅を殺して其領地を奪ひたる頃に築きしものなるべし直家は天正年中岡山に移りて浦上宗景を逐ひ自ら國主と稱して此城を守る後ら其子秀家に傳へしも秀家關ヶ原に敗れし後は徳川氏小早川秀秋を此地に封じ慶長八年池田輝政の子忠繼を封ず爾後池田氏代々封を此地に受け明治維新に至りて廢城し今は唯だ其天主閣のみを存せり又岡山縣廳は弓ノ町に在り明治十八年の新築に係り巍然たる西洋造りの高樓なり其他地方裁判所、區裁判所、市役所、郵便電信局、監獄署、尋常師範學校、尋常中學校、病院、醫藥學校、紡績會社、倉庫會社、精米會社、廿二銀行、山陽新報社、岡山日報社等あり又

劇場は高砂座を最とし旭座之に亞ぎ、遊廓は東西中島町を限りて之を許可し金花樓、中富樓等の大樓多く、料理店は石關町の大黒屋、紺屋町の魚嘉(旅店兼業)、上出石の三好野花壇(同上)等最も繁昌せり例に依り市内重立たる旅店を擧ぐれば左の如し

三好野 (若林 かれ)	岡山市字西大寺町	丸 高 (高橋 達江)	同	字西大寺町
自由舎 (三宅浦次郎)	同	河波屋 (……………)	同	京橋東詰
不 甚 (布角 力造)	同	宇天瀬町	同	上
	津山屋 (津山伊三郎)	同	同	

偕樂園 は上道郡操村に在りて一に東山公園と稱す明治十年新設の公園にして西に旭川の清流白布を洒せしが如きを瞰下し西南に鳥城の天主閣を望み又晩春の頃には近傍の田圃に菜花の盛りなるを觀るべく其眺望の絶佳なるは岡山市の近隣に於て之に優るものあるを知らず、園内三勳祠あり和氣清磨、楠正成、兒島高德の靈を祭り社傍に櫻、梅を植也又招魂社ありて西南の役戰死せし志士の忠魂を鎮め其他東照宮、玉井ノ宮等ありて四時どもに遊歩を此園に試むる者頗る多し

後樂園 日本三公園の一にして岡山城の北に流れを隔て、一區を爲し竹林其四方を圍み面積凡そ二萬七千坪を有す抑も此園は舊藩主池田綱政の創設にして貞享三年其臣津田重次郎に命じて工事を監督せしめ翌四年十二月始めて其工を起せしものなり園の廣さ東西百九十七間、南北百十七間地勢は西南の方稍や高くして岡阜の狀を爲し雜樹繁茂して宛がら深山の如く東北の方には平夷にして園外の諸峯を遠望し得べし園は舊藩主が或は稼橋の艱難を視察し或は藩主の武技を練習し又は儒臣を招きて經典を講せしむるの用に供し其他近隣諸藩主を延て饗宴を開くの場所に充たるものにて其初めは御茶屋座敷と云ひ後には單に後園と呼びしを明治四年後樂園と改稱して一般官民の偕樂地に充らる今「後樂園眞景及び詳誌」に據りて園中の勝を擧ぐれば左の如し

鶴見橋 は岡山市出石町より後樂園に入るの街路、旭川の上に架したるものにて長さ七十間餘、橋を渡れば園の北門に到り塙を隔て、暫軒

あり暫軒は屋を二棟に分ち窓を開けば旭川を眼下に望み北には秦嶺諸山を遠見し最も避暑に適す暫軒の風は則ち十勝の一なり
 鶴鳴館 は建坪凡そ百四十坪の廣間にして北門の右に在り二ヶ所に玄關を設け東の玄關より入れば本館に至る館の前に古松一樹あり昔し里長平四郎の庭にありし古木なりとぞ
 延養亭 は園中第一の建物にして鶴鳴館の東南に並び建坪七十七坪餘去明治十九年聖駕西巡の際玉座を設けたるは則ち此亭なり、亭は東南に向ひ岡山城の天主閣、瓶井山の三層塔、其他の諸山を簷下に望み得べく亭前には奇石羅列して苔滑かに草青く亦一個の好風景なり庭中鶴多くして能く人に馴る延養亭の鶴と稱して十勝の一に數へらる
 望湖閣 は一に榮唱とも稱し延養亭の西北に在り建坪五十七坪許り棟葺の回廊を設けて斜めに延養亭に通ず、閣の前にある泉池を花葉の池と稱し昔しは榮唱橋ありて二色の岡に通せしも今は其橋廢れて跡を存

せず又池に臨みて巨石あり高さ四間餘之を大立石と呼ぶ
 花葉は榮唱の南に方れる園地の名にして北に門あり外面に直ちに西
 門に通じ之を花葉口と稱す、園地は自から岡阜の狀を爲し喬樹陰鬱と
 して枝を交へ一たび爰に來れば宛がら深山幽谷に遊べるが如き思ひを
 爲すべし此處より礫石を敷たる徑路を過ぐれば茂松庵に到る
 茂松庵は昔し舊藩主の茶事を修めし所の茶室にして全体の構造素樸
 なるも亦自から雅致を存す老松枝を垂れて檐を蔽ひ吟籟耳に充ちて而
 も喧すしからず、其南に四天王堂あり夫より東北に方りて地藏堂あり
 地藏堂は古へ舊藩主の鎮守神として安置せしものなりとぞ
 簾池軒は南門の東にありて園中の勝を望むには第一の場處とす屋の
 廣さ二十一坪餘之を二室に分ち屋背は竹林を隔て、旭川の清流に接す
 又屋前に池あり周圍五十五間之を簾池と云ふ
 藤棚は簾池軒の東に在り東西二架に分れ西にあるものは花白く東に

あるものは其色紫なり、傍らに一樹の老梅あり花白く香清くして幽
 韻餘りあり名けて臥龍梅と云ふ形の臥龍に似たるが故なるべし
 蘇鐵は藤棚の北に在り幹數十株赤砂の間に蟠まる四方に鐵柵を繞ら
 し樹下毎に一微草をも止めず、蘇鐵の東に池を鑿ちて燕子花を植ゑ且
 八個の小板橋を架す蓋し參河の八ッ橋に擬するなり
 流店は八ッ橋の北に在り建坪十二坪餘の樓閣にして下は棧道左右に
 分れ中央に一條の水道を引き其中に奇石を布置す板を以て樓外の流れ
 を遮れば水石に激して樓下に滲入するの仕掛けなり其水は東に繞りて
 在頭より南に注ぐものと相合し屈曲して八ッ橋の下に出づ眞に奇構と
 謂ふべし、流店の水も亦古へ十勝の一に算へられしものなり
 梅林流店の東に櫻樹の林を爲せる處あり其間を潜りて東南の方に出
 れば一帯の梅林あり數は一百株に過ぎざるも素葩冷絶の間に淡紅交は
 り幹は槎枒として苔之を蔽ふ亦た一奇觀なり其東竹林の間に一門あり

て園外に通ず是れ則ち東門にして其門外を櫻馬場と云ふ
唯心山 は園の中央に崛起せる岡阜の名にして園中第一の勝景なり山
頂稍や平坦にして遠望に富み園中の勝は皆眉睫の間に集まり來り北は
遙かに龍山の山脈を望み時に汽車の黒烟を吐きて走るを認むべし其側
らに一小亭ありて唯心堂と名く、最も觀月に宜し

島の茶屋 は唯心山を北に降りたる處に在り屋前に泉池を鑿ち池中に
三個の小島嶼を設く池を境澤と云ひ此邊多く逆を生ず

新亭 は園の東北隅にあり窓を開けば園外の曠野を望み其の東西を千
入の森と稱し楓樹數十株天を蔽ひ霜一たび至れば満目の錦繡燦爛とし

斜陽之に映すれば其色四邊に照射して一段の奇觀を呈す、森の東南に
稻荷祠及び辨天祠あり、千入の紅葉は亦十勝の一に數へらる

〔席料〕以上掲げたる園内各家屋を借らんとする者は園の看守に就て打合
せを爲す制規なり家屋は總て左のごとし

鶴鳴館
茂松庵
籠地軒
流店

鳴ノ茶屋
釣殿
唯心亭
新亭

觀騎亭
觀射亭
寒水細響軒

宗忠神社 は停車場の西凡そ十五町御野郡上中野村に在り神道黒住教
會の本社にして社殿壯麗、境内廣寬、雜樹蔚然として之を圍み地方罕に見
る所の靈區たり、今又黒住教の起因を原ぬるに昔し上中野村に黒住左京
なる者あり今村宮の神官を勤めしが常に太陽を信仰すると深く終に天照
皇太神より天地生々の靈機を授かり日神の大道を覺悟したりとて自ら黒
住教なる一派を敷くに至れり、左京は嘉永三年齡七十一にして死去し後

ち安政三年宗忠大明神の神號を賜はり明治九年神道黒住派として一派の
允許を蒙り本社は明治十六年の草創に係るものなり現時の建物は本社、
拜殿、神饌所、守札所等にして大祭は毎年三月執行す

眺望閣 は大阪の眺望閣、凌雲閣等に倣ひて近頃建築せし七層の高樓

にして市の北部縣廳前に在り其高さ凡そ一百尺岡山城と相拮抗して巍然
雲表に聳ゆ、閣は八角形にして都て木造、内に勸工場を設け又茶亭等を置
き客をして登臨眺望せしむるの趣向なり眺望閣の下園中には茶亭料理店
等ありて遊人常に群集し市中屈指の賑地なり

岡山寺 是市内磨屋町に在り孝謙天皇の天平勝寶年間報恩大師勅を奉

じて建立し其後村上天皇の天曆年間に僧信源一の伽藍を寺内に建設す岡

山市中有名の巨刹にして賽人絶ゆると無し

蓮昌寺 是市内仁王町に在り法華宗、僧日像の基開にして興國五年松

田元賢之を建立し後ち天正年間宇喜多直家再建す、昔しは宇喜多家の香

華院にして今猶は本堂に其位牌を藏すと

備前吉備津神社 是停車場の西一里強り津高郡一ノ宮村に在り縣社に

して大吉備津彦命を祭り推古天皇元年の創建、今の社殿は慶長九年池田

照直の造營せしものなり社地は吉備中山の背後に當り本社は結講善美と

盡すも其壯觀なるは備中の吉備津神社に及ばず、社記に曰く垂仁天皇百
濟の温羅を征するに當り吉備津彦命をして之を討たしむ命一戰にして温
羅を亡し後ち齡二百八十餘歳にして吉備中山に薨す其後仁徳天皇の御宇
一ノ宮大明神の神號を賜ひ勅して神殿及び末社七十二宇を創立せしめら
る今の吉備津神社(備中)是なり、其後推古天皇の御宇に至り靈地を分ち
て此處に命を祭り社殿壯觀古へは中國第一の美觀なりしと

●庭瀨停車場 (縣備中國賀陽郡庭瀨村字庭瀨に在り)

○庭瀨村 是國道の一驛にして一小流を隔て西に都宇郡の撫川村と相
接し連簷一市街を爲せり驛内都宇郡役所、區裁判所出張所、警察分署、郵
便電信局等あり、庭瀨一村の戸數八百戸、人口三千三百二十人又撫川にて
は一種の團扇を製出す此地の名物として其名遠近に聞ゆ

吉備津神社 是停車場の北三十餘町、賀陽郡真金村字宮内に在りて備
前の吉備津神社と相距る僅かに二十町、國幣中社にして吉備津彦命を祭

り仁徳天皇の御宇之を草創すと（或は云ふ推古天皇元年備前吉備津神社と同時之を草創すと）中國街道の側らに石の大鳥居ありて茲より本社まで數町の間は兩側に松の並木あり之を櫻の馬場と云ふ馬場より石階を躋れば直ちに拜殿の前に到り其背後に本殿あり東西九間餘、南北十間半、結構頗る壯麗偉觀にして山陽道中嚴島神社に亞ぐの大社なり拜殿の西に廻廊あり長さ百八十間細谷川の古蹟に至るの通路なり細谷川の溪流に沿ひて溯ぼると五六町にて茶臼山に到る茶臼山は吉備中山の一部分にして山腹に吉備津彦命の山陵あり又廻廊の中央より右折したる處に御釜の御殿あり此御殿は人の吉凶を占ふ所にして賽人廿五錢以上の賽錢を投ずれば阿曾女と稱する者柴を竈に燃やし供米を篩に入れ御釜の蒸氣に翳して其禍福を占ふ願主吉なれば釜の鳴動する聲微かなれども若し凶なれば其聲轟々として雷の如しと云ふ

總社 是停車場の西北凡そ三里賀陽郡總社村の北に在り縣社にして大

己貴尊、須勢理姬命を祭り大化年間創建なり社殿清麗、境内に雜樹枝を交へ且無數の石燈籠ありて參詣絶ゆるとなし、總社村は岡山より高梁町に至る街道に方り戸數百戸許りの村落なり

高松稻荷社 是眞金村（吉備津神社所在地）の西北凡そ一里同郡高松村字稻荷村なる妙教寺々内に在り、稻荷大明神を祭り俗に高松稻荷と稱す社殿は壯麗ならされども近在村民の信仰淺からず毎月二十五日の縁日には參詣人殊に群集し神前に供する線香は積んで山を爲す又社前石階の兩側には茶店料理屋軒を並べ近傍士女の來り遊ぶ者多し

○高梁町 是岡山市の西北凡そ十里、備中國上房郡高梁川の東岸にある名邑にして昔しは松山と稱し板倉氏の舊領地なり、土地狹隘なれども鳥根縣への街道に方るを以て旅客の來往絶ゆることなく殊に高梁川に舟楫の便あるが爲めに商品の運輸自在にして豪農豪商また藪からず、町内に上房郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、町役場、高等小學校等あり其

東北隅松樹の森々として繁茂せし處を舊城趾とす（高梁町に赴かんとするには岡山、庭瀬、倉敷の内孰れの停車場にて瀛車を下るも差支なければ庭瀬より赴く方其距離最も近ければ茲に掲げぬ）

●倉敷停車場（岡山縣備前國窪屋郡倉敷町字萬壽に在り）

○倉敷町 是窪屋郡役所の所在地にして兒島半島の咽喉に位し巨商軒を聯ねて一市街を爲し街衢繁盛、交通至便、備中南部に於ける屈指の一商區なり、町内に警察署、區裁判所出張所、郵便電信局、紡績會社、精米會社、倉敷銀行等あり又四國へ渡らんとする旅客は此地にて汽車を下り陸路五里（人力車賃三十錢）兒島郡下津井港に出れば海上五里にして九龜又は多度津に渡るを得べく下津井よりは日々各港へ汽船の往復あり、九龜多度津間には讚岐鐵道ありて琴平神社への參詣自在なり

瑜伽神社 是倉敷停車場の南四里を隔てし所にあり兒島郡林村字瑜伽山上に在り古へは蓮臺寺と稱する佛刹なりしが維新後神佛混淆を禁じ縣

社瑜伽神社と改稱せり、本社は家津御子神を祭り速玉之男神、能野夫須美神を合祀し大寶元年の創建、後ち天平寶字五年大に社殿を造營す又境内は眺望に富み殿堂もまた壯麗を極め三備地方より琴平神社へ參詣の人々は必ず此處に立寄るを常とし拜殿に柏手の音絶ゆると稀なり

●玉島停車場（岡山縣備前國淺口郡尾長村字長尾に在り）

○玉島驛 是停車場を距る西南二十町許り淺口郡中部の海濱に接し河邊川（大川の支流）は北より來りて町の東部を過ぎ北は高梁、川邊等の諸川と舟楫相通じ運送至便にして岡上に亞ぐの商地なり、廣袤は東西廿五町、南北二十八町、戸數一千八十餘戸、人口五千人、驛内に淺口郡役所、玉島區裁判所、警察署、郵便電信局、玉島紡績所、精米會社、武江銀行、有信銀行等あり又郷社羽黒神社あり素盞鳴命、玉依姬、大國主神三休を祭り社殿美麗、一町内は悉く其氏子にして毎年大祭の日には山車を曳き練物を出す等非常の賑ひを極むと、又玉島港灣は東西五町、南北廿三町、深さ二尺

にして此處より四國山陽の各港へ汽船和船の往復あり、宿屋は山中屋伊三郎、兒島屋芳次、犬飼利平

● 鴨方停車場

(岡山縣備前國淺口郡六條院宇東村に在り)

○ 鴨方村 是中國街道の六條院村に接する小村落にして戸數五百戸、人口二千三百人、地は南北に丘陵を負ひ北なるを小坂山、南なるを龍王山と云ふ、龍王山の南麓には阿倉不動瀧あり又鴨方の北一里小阪村よりは砥石を産出し西一里半新庄村にては炮烙を製出す

● 笠岡停車場

(岡山縣備前國小田郡笠岡町に在り)

○ 笠岡町 是備中の南西隅、水島洋の北岸に位し海上二里にして神島其他の小群島と相對し戸數二千一百餘戸、人口八千六百四十人、今は町村制に據りて隣村富岡村と合併す、町内に小田郡役所、警察署、郵便電信局、明十銀行、山陽製絲會社、倉庫會社、吉備土村會社等あり又笠岡港灣東西五町、南北三町、深さ一俣より三仞二尺迄、水深くして巨船の投錨に適せ

されども和船は常に港内に輻輳し商業の繁昌なる玉島の次に位す又港に舊置の燈臺一基あり

● 福山停車場

(廣島縣備後國深津郡福山町に在り)

○ 福山町 是深津郡の西隅蘆田川の東畔に位し市街少くし海に隔たるも潮水溝渠に斗入して運輸の便を通じ豪家楯比して市中殷富、亦國內の一賑地なり、其區域は東西十九町南北廿二町、市坊三十五を有し戸數四十九十餘戸、人口一萬五千五百人、町内に深津、沼隈、安那郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、尋常中學誠之館、各銀行支店、日本運輸會社代理店、大阪商船會社代理店、製絲會社、精米會社、福山爲換會社等あり其港灣には汽船和船の出入忙はしく宇船町には汽船問屋(旅店兼業)軒を聯ね又停車場の設置以後は特に貨物の輻輳するを見る、旅店の重なるものは佐久間五郎右衛門、松村彌外數軒とす

福山城 是元和の初め水野勝成の築く所にして後ち元祿年間松平忠雅

代りて城を守り寛永年間松平氏の桑名に移るや徳川氏阿部正邦を此に封じ王政維新に至りて廢城となる町の西隅に天主閣の聳ゆるもの即ち是なり、今は外廓を毀ちて田圃となし本丸の濠渠内を以て公園地となし猶ほ五層の天主閣、櫓及び石垣を存す、園内に阿部神社ありて舊藩主阿部氏の遠祖大比古命を祭り近傍に櫻、桃を栽ゑ境内に二三茶亭ありて客の休憩に便す、四時どもに遊人の杖を曳く者多し

吉備津宮 是三備吉備津神社の一にして福山町を距る西北四里品治郡宮内村に在り福山より府中市に至る街道の途中新市村より右折すれば三十町にして本社に達す、吉備津宮は郷社にして吉備津彦命を祭り創建年月は詳らかならざれども一説には推古天皇の勅に依り備前、備中の同社と共に草創せしものならんと云ふ社殿境地どもに狭小にして前記の二社に劣るもの、如く祭日の外は賽人もまた稀なり

○鞆ノ津 是沼隈郡東南隅の海濱に位し福山町を距ると南の方海陸と

もに三里、前に仙醉、辨天、玉津の諸小島を擁し灣は蕨の形をなし浪靜かに水深くして船舶の碇泊に適し市街も亦随つて繁昌を極む、市街の北に沼名崎神社あり國幣小社にして素盞鳴尊、奇稻田姫を祭り本社は天和二年の創建に係り其他末社六社あり又東岸に福禪寺あり眞言宗、僧光勝の開基天曆六年の創建にして初めは觀音堂と稱し慶長十五年僧榮高再興の後ち今の名に改む寺内に對潮樓ありて前に水島灘の諸群島を一望し沼名崎神社の境内と共に此港の絶勝を以て稱せらる（福山港より鞆津までは大阪商船會社定期汽船航海の外に日々數回和船の往復するあり陸路よりするも人力車を通ず

●松永停車場 (廣島縣備後國沼隈郡松永村に在り)

○松永村 是中國街道の一驛にして尾ノ道を距る一里半、沼隈郡の西部に位し其南は一港灣を爲し灣口に向島の東部を望み北は本郷、杵摩、栗栖各村を経て府中市に至るの道路あり一村の戸數八百戸、人口三千四百

六人、其北は今津驛と接して一市街を爲せり

●尾ノ道停車場 (廣島縣備後國御調郡尾ノ道町字東御所に在り)

○尾ノ道町

は備後の南方三成川の河口に位し中國街道に方り後に愛岩、大寶の諸山を負ひ前に港灣を擁して向島其正面に横はり島と町との間一小海峡を爲して能く巨船大舶を容れ大阪商船會社其他の汽船定期航海し商船の出入最も繁く市街の般賑なる瀬戸内諸港に冠たり、町内に御調、世羅郡役所、區裁判所、監獄署、尾ノ道病院、郵便電信局、第六十六銀行、諸品會社、日本郵船會社代理店、大阪商船會社代理店等ありて戸數四千一百戸、人口一萬七千七百七十八人を有す又後山大寶山には千光寺、愛宕山には西國寺あり共に町内有名の梵刹にして曾て勝景を以て稱せらる、例に依り此地の旅店を擧ぐれば左の如し

天畫樓	(濠中吉助)	尾道ステーション前	平尾	(平尾 忠吉)	同	土堂町	
濱吉本店	(同)	上	尾道町字十四日町	丸山	(丸山 ふさ)	同	久保町
富嘉	(位藤嘉一)	同	土堂町	なが久	(小川久兵衛)	同	上

右の内天畫樓は停車場設置後の新築にして規模宏大客室随つて多し千光寺 は尾ノ道町の北大寶山の中腹に在り町の北端より數十級の石階を躋れば本殿に達す本殿は東に向ひ其南端は崖に臨みて舞臺の如し此處より瀬戸内の小群島及び四國の青山を望む其景極めて佳なり、本堂の東に巨石の屹立するありて之を玉の岩と稱し巨岩と護摩堂との間を過れば右に方丈あり、護摩堂以東には數多の岩石散在し其重なるものを蛙石、千丈石と云ふ又同所より裏道を降りたる阪の中腹に重ね岩あり其形ち巨石を三層に積重ねたるが如きを以て此名ありと云ふ、相傳ふ昔し玉ノ岩の頂さに夜光の玉ありて能く海上數十里を照せしと

●三原停車場 (廣島縣備後國御調郡貢村に在り)

○三原町

は尾ノ道を距る西方三里半、御調郡の西南隅沼田川の北畔に位し市坊十八、戸數一千四百二十戸、人口八千八百四十八人、其港灣は巨船を容るゝに便ならずと雖も亦山陽道中名港の一に數へられ帆檣林立

常に商船の輻湊するを見る又市街は繁盛にして尾ノ道、福山、鞆ノ津に
亞々の商區なり、町内に三原城あり天正年間小早川隆景の築く所にして
天主閣及び石垣を存す、三原の東一里東野村の海濱を糸崎と云ひ古名を
長井ノ浦と稱す神功皇后征韓の途次御船を寄せられし舊地にして同地に
長井ノ水の古跡あり又此地の旅店は原真藏、其他數軒にして孰れも汽船
回漕の業を兼ね

大善寺 三原町の西に在り創建の年月は詳かならざるも天正年間小早
川隆景の再興にして淨土宗なり、本堂には惠心僧都の阿彌陀如來を安置
し釋迦堂には隆景の像及び十六羅漢の像を祭り又當寺には華頂御殿御
寄附の如意輪藏あり靈驗殊に著るしとて來賽する者多く殊に六月十六日
七月十七日の縁日には頗る熱鬧を極む

宗光寺 同町字川東に在る曹洞宗の寺刹なり、小早川氏の菩提寺にし
て始めは高山城内に在りしを隆景三原に治するの時此地に移す、寺地は

三原の市街より登ると一町餘の丘陵に在りて後山を愛宕山と云ひ之に登
臨すれば眺矚開豁にして近傍十勝の名あり、堂宇は本堂、禪堂、書院、
衆寮、願主堂等にして本堂には釋迦如來の像を安置す

西野梅林 三原停車場の西十餘町西野村に梅林あり其廣さ方十町許り
にして字大西、小西、掛田、願掛の四ヶ所に亘り梅樹凡そ一萬株を植う、
傳へて言ふ昔し菅丞相筑紫へ謫遷の途次此地に上陸して一株の梅を植う
里人等其の舊跡の湮滅せんとを恐れ其傍ら又數株を増植し天正年間小早
川隆景更に村民に命じて數百株を培養せしむ今存するものは過半當時の
栽植に係るものなりとぞ、地は西南三原の舊城と相對し東南は向島、院
島、佐木島、生口島其他大小の島嶼を望み其間の一海峡は宛然小湖水の
觀を爲し風景頗る秀麗なり

加羅加波神社 三原停車場の北半里山中大字千川に在り、郷社にして
天照大神、素盞鳴尊を祭り御調郡中の舊社たり、社殿は丘陵の上に鎮し

礎道之に通じ四方には老樹蒼鬱として繁茂し其間に本社、拜殿、神饌所、社務所等あり、本社祭神は俗に疫病除けの神と稱し毎年四月の大祭には近郷近在より参詣する者引きも切らず

●本郷停車場 (廣島縣安藝國豊田郡本郷村に在り)

○本郷は國道の驛次にして三原より西三里三町に當り沼田川の北岸に位する一小市街なり、是より線路は右に迂回して漸く國道と離隔し沼田川に沿ふて稍や西北に向へり、本郷驛は戸數凡そ二百五十戸にして茲より南三里餘町にして忠海町に到るべし

佛通寺 本郷驛より東二里高山村大字許山に古刹あり佛通寺といふ其の境内は古來風景の絶佳なるを以て世に名高し、停車場より一里道あり丘陵の間を貫きて高低一ならず佛通寺山に近づけば道漸く峻しくして腕車を通せず旅客は輕装して最初より歩行する方宜しからん、當寺は臨濟宗にし應永二年の創立に係り開基を小早川隆景とし開山を愚中和尙と

す、其の寺域は元と周回六里餘を有し山には古松老杉鬱々として日光を遮り其間に一條の溪流あり潺湲として素練を引くに似たり、境地の諸處に巨巖の屹立するあり皆形ちに因りて其名を異にし山中を分ちて三十二勝とす、又堂宇には本堂、觀白堂、喜悅堂、開山堂其他數字ありて本堂には大元より渡來せし華嚴釋迦の像を安置す

●河内停車場 (廣島縣安藝國豊田郡大河内村に在り)

○大河内村は上河内、中河内、下河内、河戸村の四村を合せたる新村の名にして沼田川の北岸に在り、山間の一村落にして戸數凡そ五百戸、人口凡そ二千二百を有す、其近傍には案内すべき名所舊蹟なし

●白市停車場 (廣島縣安藝國賀茂郡東高屋村に在り)

是れ亦山間の一驛次にして戸數僅かに一百二十戸を有す、其の西南十五町許り字郷村に郷社白鳥神社あり、景行天皇四十三年の創建にして今は社殿稍や頽廢に傾き再建の計畫中なりと云ふ、社域は小丘の上に位して

老樹鬱茂せる間に在り祭日は陰曆三月十五日、八月九日なり

●西條停車場 (廣島縣安藝國賀茂郡西條町に在り)

○西條町 は山陽道(國道)に於けるの屈指の驛次にして元と四日市と稱し賀茂郡役所、警察署、郵便局等あり戰國の頃は菅田氏の城を築きし處にして是時より人烟漸く増殖せしものなりとぞ市街は東西に長くして西條川其西を流れ北に鷺山あり南は高原二里に亘り其の中央にある丘岡を鏡城山と云ひ山上に古城趾あり、又此地より竹原へ五里三十町(西條より海田市に至る間八本松、瀬野の二停車場あれども近傍名所古跡の案内すべきもの無ければ其記を略す)

●海田市停車場 (廣島縣安藝國安藝郡海田市町に在り)

○海田市 は國道の驛次にして海田灣の北岸に位し瀬野川東北より來りて市街の南を限る、地は北に楊倉山を負ひ南は平坦にして市街繁盛、戸數凡そ五百戸を有す、此地より一の國道あり南を指し五里六町にして

吳港に達す、其の海灣は水淺くして船船の碇繋に便ならず

多家神社 海田市の北一里弱府中村に在り、縣社にして神武天皇を祭り本社、拜殿、神樂殿其他八宇あり、創建年月は未だ詳かならざれども文祿年間毛利氏入國以來社領五十石を寄附せられしと云ふ

○吳港 海田市の南五里六町の海岸に在り海田市よりは國道の通ずるありて坦々車を驅るに便なり、元は一寒村なりしが明治二十年海軍鎮守府を此地に設置し其の港灣を軍港に充てられし以來戸口年を追ふて増加し今は郡役所、區裁判所、警察署其他の官衙あり、灣内水深くして且能く風波を防ぎ實に我邦第一の良港なりと云ふ、其西に一海峽を隔て、江田島あり島中に海軍兵學校を設く

●廣島車停車場 (廣島縣安藝國廣島市大字大須賀に在り)

○廣島市 は廣島縣廳の所在地にして安藝國沼田郡より東は安藝郡に跨がり市の廣袤東西一里南北三十二町、戸數二萬三千六百、人口八萬を

を廣めて今日の偉觀を爲せり假山泉水あり亦架橋島等ありて各之に雅名を附し文化年中國儒賴惟文を作り名けて縮景園と云ふ池の南に亭あり清風館と云ひ其風光頗る閑雅なり

●宇品停車場 (同郡宇品港に在り)

○宇品港 は廣島市の南に在り街路は大手町より御幸通を經卅餘町にして達し線路は同市荒神町より分岐し一直線に南行す此距離三哩半當港は明治廿二年の築港にして石を疊る波止塲は海中に斗出する數百間灣内深くして能く巨船を入る山陽道中屈指の要津となれり、商賈軒を列ね船客貨物常に輻輳し頗る繁盛を極む、西に宇品島あり曾て石川丈山が風月無邊塵外境、晚來江上喚舟還、と其景を賞せし賦あり又島上に觀音堂あり

●横川停車場 (同郡横川村に在り)

○横川村 は本線路の一驛にして廣島を距る二哩弱、
武田山城址 は一に銀山と云ひ郡の南端山本村に在り古へ武田信光の

末孫信武足利將軍に従ひ安藝の守護となりて此地に治す後戰國の頃遂に毛利氏に屬せりと云ふ南に茶臼山あり

●已斐停車場 同佐伯郡已斐村に在り

○已斐村 は横川を距る一哩半餘、街道の一邑にして稍賑はへり

●廿日市停車場 (同郡廿日市町に在り)

○廿日市町 は街道の要路に當り一都市にして常に旅客絶えず殊に繁華をなせり茲より津和野への街道あり、又極樂寺山は北二里、山中に古刹あり之を極樂寺と云ふ、湯の山鑛泉は水内村に在り

●宮島停車場 (同郡池ノ御前村に在り)

○宮島驛 は廿日市を距る四哩弱、國道の海岸にして地ノ御前村は嚴島へ渡る地なるが故に今此驛名を附せり

嚴島神社 は陸前の松島、丹後の天橋立と共に日本三景の一にして廣島市の西南一名宮島にあり其周回七里餘紅楓溪を蔽ひ青松枝を交へ風光

絶佳なり抑々當社は素盞鳴尊の御子市杵島姫、田心姫、湍津姫の三姫神を祀り本殿は東北に向ひ海上を正面とす推古天皇二年の創建なり後平清盛安藝守たりし時大に之を修營す梁間六間三尺、桁行十三間二尺、拜殿、幣殿、高舞臺、平舞臺等之に連なり其左右に長く曲折せる廻廊を設く幅二間二尺延長百四十八間餘、満潮の時は汐其床下を浸す其左に客神社あり本殿、幣殿、拜殿等相並び天忍穗耳尊、天穗日尊、天津彦根尊、活津彦根尊、熊野樟日命を祀る傍に池あり鏡ヶ池と云ふ横手の廻廊を出れば三笠濱に至る右折すれば千疊閣あり此處を龜居山と稱し豊太閤九洲より凱陣の折柄之を創設せしと云ふ其名の如く疊千疊を敷り之に並びて五層塔あり又正面の海中に大鳥居あり廻廊の南火燒前を距る八十餘間高七間二尺棟長十二間一尺額是有栖川宮殿下の染筆なり廻廊の右傍に反橋又御幸の松あり其近隣に大國神社、天神社、大願寺、住吉神社、石風呂大元神社、寶山神社、愛染院、瀧木坊、寶庫、花園、三翁神社、豊國神社、

荒胡子神社等あり昔の山宇御山には御山神社あり本社と同しく三柱の姫神を鎮座す上の方に求聞持堂、山頂に頂上石あり此邊楓樹最も多く境内の鹿能く人に馴て食を求む、嚴島町には旅舎、料理屋等軒を並べ旅客茲に數日を暮すも飽ことを知らず實に絶勝の靈地にして亦日本三景の名に愧ざるなり、旅店數軒あり孰れも當名所の案内をなし又名物色楊子、杓子、木匙、盆類、櫻海苔、雪花積、櫻餅などを嚮家多し

●玖波停車場 (同郡玖波村に在り)
 ○玖波村 は宮島を距る六哩餘、街道の一驛なり

●大竹停車場 (同郡大竹村に在り)
 ○大竹村 は玖波を距る二哩半餘、右に同し

●岩國停車場 (山口縣周防國玖珂郡岩國町に在り)
 ○岩國町 は元吉川氏の城市にして街道の要衝なり人家稠密にして殊に繁華の地たり、西南に錦川あり錦帯、臥龍の二橋を架す、名物は岩國

縮ちぢ生糸等なり

錦帶橋きんたいきょう は一名算盤橋そろばんはしと云ふ岩國町より横山村に涉り川中に石を壘たみ

て四個の橋臺をなし上に半月形の五橋を架す頗る奇觀の名橋なり

白山比咩神社 は同所大字横山にあり縣社にして菊理姫神、大己貴尊

外一座を合祀す、境内に吉川神社あり吉川廣家を祀る

吉香神社 は全所にあり縣社にして吉川元春以下數代の靈を祀る社地

は元吉川の城趾なり屬地に梅林あり又櫻樹を交ゆ頗る佳境なり

●藤生停車場 (同郡藤生村に在り)

○藤生村 は濱街道の一小驛にして岩國を距る四哩半

●由宇停車場 (同郡由宇村に在り)

○由宇村 は右に同じ藤生を距る五哩餘

●大島停車場 (同郡大島村に在り)

○大島村 は右に同じ郡中東南端にして光景なり

●柳井津停車場 (同郡柳井津町)

○柳井津町 は郡中南端の海濱にして水運最も便利あり船舶常に出入し百貨大概備はりて殊に富饒の地たり此地は柳井縞しぼ、醬油しょうゆ、葛藤玉くわふたたま等を名物とす

●田布施停車場 (同郡熊毛郡田布施村)

○田布施村 は山道の村落にして曾て覽るべきものなし郡の南端寶積港ほうしやくは象ぞうノ鼻岬なみさきを抱いだきて良港をなし深さ九俣市街は港に臨み峨眉山うしろを脊せに負おひ常に汽船寄港し稍繁華の地たり近時鐘かね語かたごを此地の産物とす

●島田停車場 (同郡島田村)

○島田村 は田布施を距る六哩半、之より海岸に出で國道に近ちかづく

●下松停車場 (同郡野郡豊井村)

○下松村 は豊井村に属す、島田を距る六哩半餘

●徳山停車場 (同郡徳山村)

○徳山村 は毛利氏の城市にして街道の要衝に當り市街は徳山灣に臨み富家塙を並べ汽船會社などあり頗る繁盛にして百貨備はれり、食鹽、茶、紙、澤庵漬等を物産とす

遠石神社 は大字遠石に在り、縣社にして應神天皇、神功皇后、三姫神を合祀す、推古天皇御宇茲に社を營みて鎮座す又末社數宇あり、境内には老樹繁茂し神園には花卉を培植す、此地は小丘にして朝倉山又鏡山と云ひ八景あり

●福川停車場

○福川 は徳山を距ること四哩二十八鎮。

●富海停車場

○富海 は福川を距ること七哩五十一鎮。

●三田尻停車場

○三田尻 は佐波郡の南端にある港灣にして山口接近の要津なるを以

て、船舶常に輻湊す、市街は甚だ繁榮にして佐波郡役所、警察署、郵便電信局、銀行、會社等あり、北の方十四町にして國道の宮市驛に達す、宮市は市街繁盛にして三田尻と伯仲の間にあり。

●大道停車場

○大道 は三田尻を距ること四哩六十八鎮、南に大海、秋穂、西に鑄錢司等の部落あり、白沙翠松相連り、線路の兩側に接し、風光甚だ佳なり。

●小郡停車場

○小郡 は大道を距ること六哩十七鎮、山口行の旅客は此に下車すべし。

山口町 は元毛利氏の治所にして、今や山口縣廳の所在地なり、東西二十二町、南北一里餘、市坊の數六十三、戶數三千四百餘、人口一萬四千餘、一ノ坂川斜に市街を横ざり、椹野川其の南を流れ、西南の一方遠く開け、三面は山を負ふ、市街の最も盛なるは大市町、中市町、米屋町

とし、商賈連橋、百貨調はざるはなし、地方裁判所、區裁判所、郡役所、警察署、師範學校、中學校、郵便電信局、病院等あり、今市内及び附近の勝地を左に案内せん。

豊榮神社 山口町の北方上宇野合村にあり、別格官幣社にして贈正三位大江朝臣毛利元就を祭る、近年境内に櫻樹を栽るしを以て、春時の眺殊に佳なり。

築山八坂神社 山口町字上堅小路町にあり、素戔鳴尊、奇稻田姫命、田心姫命、湍津姫命、市杵島姫命を祭る、應安年中大内弘世の創建にして所々に遷座し、元治元年毛利敬親今の地に移して社殿を造營せり。

瑠璃光寺 山口町の北上宇野合村にあり、文明三年陶弘房の創建する所にして此の地方有名の巨刹なり、禪宗にして僧須益の開基なり、五重の塔は巍然として雲間に聳え、建築宏壯なり。

湯田温泉 山口町の南數町、下宇野合村字湯田町にあり、鹽類泉にし

て淡黄色を帯び、無臭透明にして微しく鹹味あり、地は四面山を繞らし、數戸の浴舎は其の側にあり、慢性皮膚病、鉛水銀等の慢性中毒、疥癬、等によろしく、浴客常に充満す。

●嘉川停車場
○嘉川 は小郡を距ること二哩三十八鎖。

●阿知須停車場
○阿知須 は嘉川を距ること二哩六十六鎖。

●船木停車場
○船木 は阿知須を距ること六哩三十二鎖。厚狹郡役所々在在地にして市街稍殷賑なり、區裁判所、郵便電信局等あり。

●小野田停車場
○小野田 は厚狹郡高千帆村に停車場を設置す、船木を距ること六哩十七鎖。

小野田セメント製産地 是停車場より三十餘町にあり。

●厚狹停車場

○厚狹 是小野田を距ること二哩六十八鎖、此の地商業繁盛の區なり。湯の峠温泉 是停車場の東北十八町にありて四時浴客絶へず、されど書立つるほどのものにあらず。

●埴生停車場

○埴生 是厚狹を距ること五哩十五鎖。糸根の松原 是停車場の西南九町にあり、翠松群生して一大松林をなし、風光甚だ佳なるを以て、四時來遊するものあり。

●小月停車場

○小月 是埴生を距ること三哩七十一鎖。

●長府停車場

○長府 是國道の一驛にして豊浦驛の屬する村なり、南北に長く東西

に短く、西北に山を負ひ、東は海に面す、郡役所、警察署、郵便電信局等ありて、街衢殷賑なり、山口町を距ること十六里二十六町とす。

松崎の磯 長府村の南端にあり、高丘海濱に接して突起し、東南は斷崖絶壁直ちに水際に迫り、眺曠最も佳なり、山腹に八幡社あり、慶長年間毛利秀元の勸請したる所なり。

●一ノ宮停車場

○一ノ宮 是長府を距ること三哩廿七鎖、地に有名なる住吉神社あり。

住吉神社 是停車場附近にあり、國幣中社にして表筒男命、中筒男命、底筒男命を祀れり、社記に據れば神功皇后三韓の事終りて後此に鎮め祭りしものありと云ふ、本社之建物にして今残れる神殿は、應安三年大内弘世の再建にして、五百餘年を経過せり、唐庇、拜殿等は、天文八年毛利元就の再建なり、社地は一帶の丘陵にして老樹森々として繁茂し、庭園あり、神池あり、一見以て其の舊趾にして自から神威の高さを仰しむ。

●播生停車場

○播生 是下關の最東端にある停車場なり、故に其の行先の便宜に任せ、此にて下車すべし、一ノ宮を距ること二哩六十五鎮とす。

●下關停車場

○下關 是赤間關市と稱す、長門國豊浦郡の南端に位し、東西一里二十五町、南北二十五町餘、戸數六千許、人口三萬餘、市役所、區裁判所、測候所、警察署、水上警察署、郵便電信局、銀行、會社、病院、新聞社等ありて市街頗る繁盛なり、此の地は西海の咽喉に當り、大船巨舶、常に港内に幅濶し、山陽道中廣島に亞ぐの都會なり、旅舎の最も著名なるは天真樓、大吉、川卯、船場屋、新盛舎等なり、又割烹店には春帆樓最も名高し、日清兩全權委員が、講和談判をなしたるは實に此の料理屋の一室たり。

引接寺

市内字外濱町にあり、永祿三年の創建にして淨土宗鎮西派に

屬す、寺域は高地にありて磴道これに通ず、其の笠松と稱するは數百年を経たりし老松にして、形恰も青織を張りたるがごとし、明治二十八年清國講和全權大使李鴻章の來るや、當寺を以て其の旅館に當てたるは皆人の知る所なり。

龜山八幡宮

市内字外濱町にあり、郷社にして應神天皇、仲哀天皇、

神功皇后を合祀す、貞觀元年の勸請にして、大内義隆これを再建したり、社は小丘の上にあり眺望佳なり、西門の傍に能舞臺、ね龜銀杏、岸の松等あり、又拜殿の傍に蘇鐵の樹あり、豊太閤征韓のとき彼地より持歸りしを、此に寄附したるものなりと云ふ。

専念寺

市内西南部町の山手にあり、推古天皇の十九年、百濟國璋明王の第三子琳聖なるもの我國に來り、聖徳太子に謁し、佛教弘法のことを謀り、此に一字を建て、長樂山福王寺と號す、是れ其の開基にして赤間關に於ける佛教を布ける濫觴とす、山上の眺望絶佳にして花晨月夕來

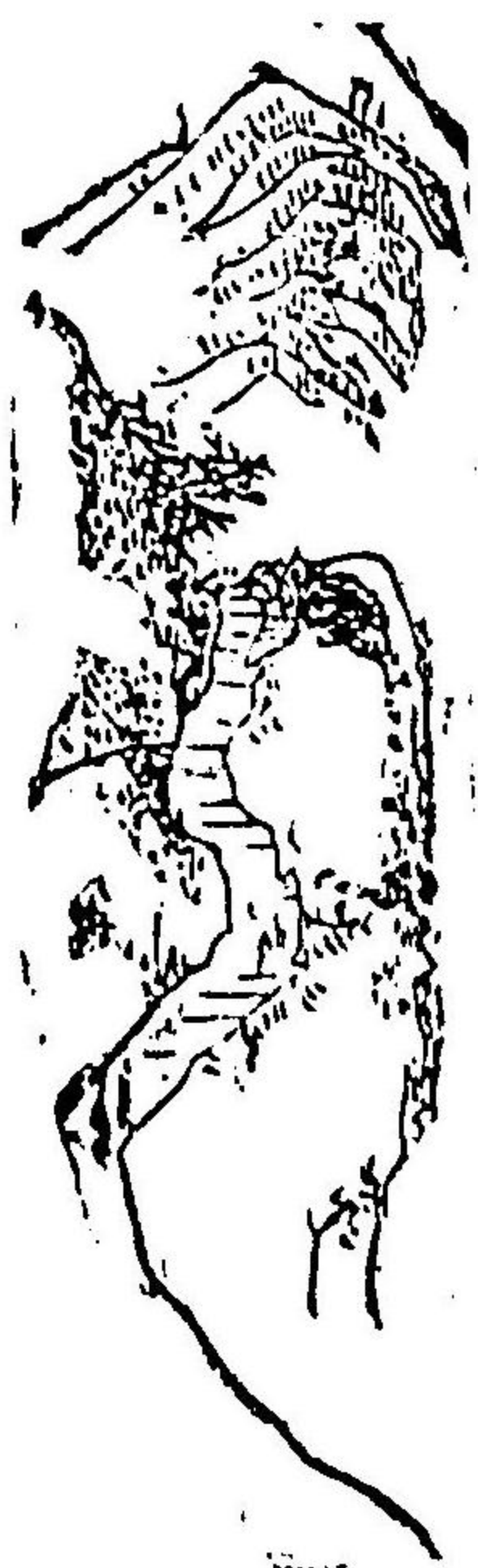
觀するもの多し。

福泉寺 市内豊前田町にあり、文政年間豊浦郡より此に移したるものなり、寺地は三面丘陵を負ひ、南の一方市街に通ず、櫻樹多きを以て春時の觀望最も佳なり、後山を日和山と云ふ、三十三番の觀音及び稻荷社等あり、觀月の勝地として中秋此に登臨するもの少なからず。

赤間宮 市内阿彌陀寺町にあり、官幣中社にして安徳天皇を祭る、此の地に昔阿彌陀寺あり、文治の役、安徳天皇の此の海に崩じ給ふや、土人等其の御遺骸を海中に獲て、これを寺内に葬りしが、翌年長門國に勅して、此に御陵墓を建てしめ、以て勅願寺となせり、明治維新後天皇社と改め、官幣中社に列したりしが、後赤間宮と改稱せり、社地は紅葉山の麓にありて、前は硯の海に枕み、斜に門司ヶ關と相對し、左に壇の浦の古戰場あり、右に大里を望み、遙に九州の翠巒等を仰望し、眺矚絶佳の地なり。

壇の浦 は平氏滅亡を以て有名なり、其の舊跡は、市の東端、字壇の浦町にありて、古は壇の浦と稱せり、此を訪ふもの誰か今昔の感なからんや。

小門海水浴 市の西端にあり、前は小門の海峡を隔て、彦島と相對し、其の間僅に五町に過ぎず、潮流最も急激にして萬渦巻き來り、岸には奇石怪岩の起伏するあり、沿岸に一樓あり、これを襟流亭と云ふ、これに沿ふて海水浴場あり、場内別つて數室となし、別に温浴槽を設置せり、三伏の候來り浴するもの多く、其の繁盛附近の海水浴場に冠たりと云ふべし。



●飾磨新井間

●飾磨停車場しがま

○飾磨 是播州の一要害にして、商船常に輻湊し、市街殷賑なり、姫路市に至る一里許の間は、人家相接續せり、播但鐵道は此より起りて姫路市に至り、山陽鐵道に接續し、更に分岐して但馬に向ふものあり。

●天神停車場

○天神 是飾磨を距ること五十鎖。

●龜山停車場

○龜山 是天神を距ること一哩二十八鎖。

●豆腐町停車場

○豆腐町 是龜山を哩ること一哩二十二鎖。

●姫路停車場

○姫路 是山陽鐵道停車場所在地にして大市街なり、詳細は山陽線の部に記述せり。

●京口停車場

○京口 是姫路を距ること一哩二鎖。

●野里停車場

○野里 是京口を距ること一哩三十三鎖、此の附近に紹介すべき勝地少なからず、今其の最も著名なるもの、みを擧げん。

白國神社 野里の北四町餘水上村大字白國にあり、里俗播磨の四ノ宮と稱す、傳ふる所に據れば天正年間の創建ならんと云ふ、其の東北は直ちに白國梅林に接し、地は高丘にして遠く播磨灘を望むべく、風色絶佳の勝區たり。

白國梅林 是前記白國神社に隣り、山に倚りて數町の間悉く梅樹なり、

紅白單重の瓣べんを飾かざるときは、其の眺得ながめも言はれず、姫路を距ること遠とほからざるを以て、花候には群集して雜踏はつたふを極きはむ。

廣峯神社 野里より北方二十五町城北村廣峰山上にあり、縣社にして素戔鳴尊すさのなるみことを祭る、前記白國の梅林より登ること二十八町にして本社に達す、天平五年、吉備大臣歸朝きよともの際、神託を蒙かより、上奏して勅を奉じ、同六年本社を造營し、後天祿三年、西峰より廣峰に遷うつしたるものなり、社地廣壯くわうさうにして老樹生茂おひしげり、自から神威しんゐの尊たまたきを仰あやがしむ。

隨願寺 廣峰山の山續つゞき増位まゐ山の半腹はんぶくにありて著名なる天台宗の古刹こせつなり、今を距ること千六百餘年前、聖德太子しやうとくたいしの開基なり、天正中兵火にかゝりて悉く烏有うゐに歸したりしが、豊臣秀吉の許を得て再建さいけんしたるものにして現今げんこんの堂宇即ち是これなり。

●仁豊野停車場

○仁豊野 は野里を距ること二哩五十二鎖。

●香呂停車場

○香呂 は仁豊野を距ること一哩七十鎖。

●溝口停車場

○溝口 は香呂を距ること一哩七鎖。

●福崎停車場

○福崎 は溝口を距ること二哩三十鎖、北條中村等へ旅行せんとせば此に下車すべし。

●甘地停車場

○甘地 は福崎を距ること二哩九鎖。

●鶴居停車場

○鶴居 は甘地を距ること三哩三十七鎖。

●寺前停車場

○寺前 は鶴居を距ること三哩十二鎖。

法樂寺 是寺前の北二里餘にあり、春は櫻花の爛熳たるを見るべく、秋は錦繡を晒せる楓樹を見るべし。

●長谷停車場

○長谷 是寺前を距ること三哩六十九鎖。川上銅山へ到らんとせば、此の驛にて下車すべし。

●生野停車場

○生野 是但馬にありて、古來有名の鑛山なり、町の北にありて鑛坑縦横、鐵路を敷きて盛に銀、銅、鉛等の鑛物を採掘運搬し、これを製煉所にて製す。

●新井停車場

○新井 是生野を距ること五哩十五鎖にして播但鐵道の終點なり、路稍遠けれども城の崎及び玄武洞を案内せん。

城の崎温泉 是新井を距ること北の方十四里、此の間道路稍平坦なれば、車馬を通すべし、又豊岡町を距ること北の方二里二十餘町にあり、

城の崎川の西岸湯島村大字湯島に湧出す、鹽類泉にして無色透明、溫度は泉口に於いて小異なきにあらずと雖も、概して華氏の百度乃至百十度にあり、鴻の湯、曼荼羅湯、御所の湯、口の湯、柳の湯、地蔵の湯の六ヶ所より湧出す、皆宏壯なる浴舎を設け、五十餘戸の旅館は、軒を列ね、油筒屋、三木屋の二軒は最も宏大なり、山水秀美、一里弱にして北海に至るべく、空氣清爽、最も避暑に適す。

玄武洞 是は碩儒柴野栗山の命ずるところにして石柱洞とも云ふ、豊岡の北一里十町鶴野村にあり、水成岩の豎立して蜂巢のごとく連れり、洞の全長四十間、左右中の三房に分る實に一大奇觀なり。



中國鐵道

川金口々野柏玉山岡 道鐵國中

●岡山停車場

○岡山 は中國鐵道の起點にして、山陽鐵道に連絡せり、作州津山まで長三十四哩七十六鎖、二時十五分間にて達することを得べし、例によりて左に勝地の案内をなさん。

●玉柏停車場

○玉柏 は岡山を距ること四哩二十六鎖。

●野々口停車場

○野々口 は玉柏を距ること六哩十四鎖。

●金川停車場

○金川 は野々口を距ること一哩三十一鎖とす。
妙覺寺 金川より三町ばかりにあり、不受不施派の本山にして賽客常

に絶へざと云ふ。

●建部停車場

○建部 は金川を距ること四哩四十五鎖。

●福渡停車場

○福渡 は建部を距ること二哩二鎖。此の地は因幡街道と伯耆街道の集合點にして市街稍繁盛なり。

●弓削停車場

○弓削 は福渡を距ること六哩三十二鎖。

●誕生寺停車場

○誕生寺 は弓削を距ること一哩六十八鎖。

誕生寺 法然上人(圓光大師)の誕生地にして淨土宗の崇信する所なり、停車場より三四町ばかりなり。

●龜甲停車場

甲龜削弓寺生誕渡福部建 道鐵國中

○龜甲 は誕生寺を距ること三哩三十七鎮。

●津山停車場

○津山町 は美作國中にありて第一の都會なり、東西三十町、南北十

二町、人口一萬二千餘を有し、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、
中學校等ありて市街殷賑なり、鳥取市へ十八里、交通便利なり。

徳守神社 津山町字宮脇町にあり、天照大神を祭れる縣社なり、風景

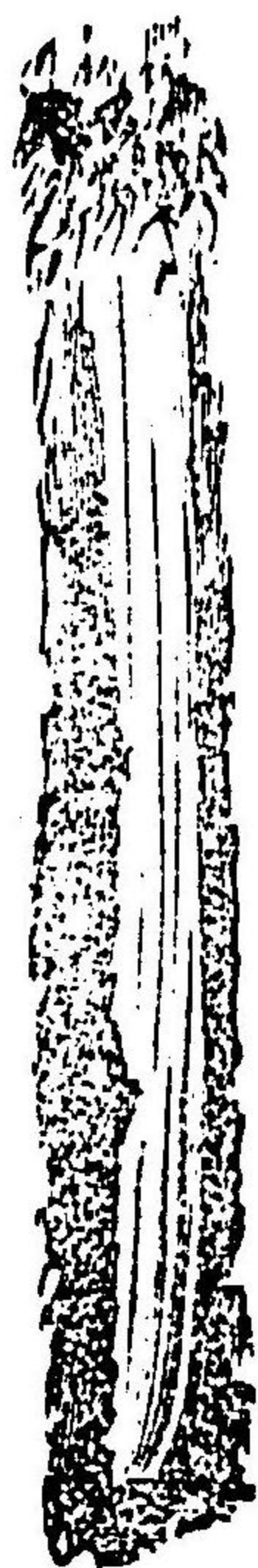
の記すべきものなしといへども、喪人常に絶へず、例年九月二十三日の
祭典には殊に熱鬧を極むと云ふ。

津山公園 津山町の東北數町苦田村にあり、衆樂園と號す、もと松平
氏の庭園にして泉池あり、屋亭あり、風色頗る閑雅の地なり。

總社神社 津山町の西北二十餘町、西苦田村大字總社にあり、大貴己
命を祭れる縣社なり、中山、高野及び本社を併せて世に美作三社と稱せ
られ、參拜するもの多し。

中山神社 津山町の西北一里餘一宮村大字西一宮にあり、境地の内外
に名勝多く鍋淵神仙山、猿休石、水無瀬池、兒呼坂、牲殿谷等は其の著
名なるものなり。

津山川 は津山町の南端を流れ、備前の和氣驛まで舟楫を通ずるを以
て、汽車の便に依らざらんと欲せば、これに便乗するを便とす、舟は日
々津山町より下れり。



山陰鐵道

●境停車場

境町 是伯耆の西端にして、夜見が濱の西北端にある一市街なり。前
は中江瀬戸を隔て、出雲國島根郡森山村と相對し、以て中海の咽喉を扼
す。市街は繁盛にして物貨の集散甚だ少なからず。其の港は、東西二十
三町、南北八町、深さ四仞乃至五仞餘、波常に靜穩にして、大船巨舶は、
岸に横着となすことを得べし。

夜見が濱 伯耆の西端にある一の挾地にして、斜に海中に突出するこ
と五里餘、幅最も廣き所は一里に過ぎず、左は中海に臨み、右は外海に
瀕し、境町は其の北端に位し、米子町は、これが咽喉を扼せり。東北は、
一帶の砂濱にして青松到るところに叢生し、中海に向へる西南の海邊に
は、諸處に小嶋の波に洗はるゝありて、風色絶佳の一仙境たり。詩人は、

此の地を呼んで、大天橋と云ふ。蓋し丹後の天の橋立に對し、數十倍の
大なるものなればなるべし。此の地の區域頗る廣大なるを以て、一望の
中に集むること難しといへども、境町の對岸なる出雲の鷹尾山に登り、
南方を望むときは、一大長洲は、脚下より起りて蜿蜒、遠く伯耆の陸地
に接續し、其の右に澄める一碧の中海は、大鏡面を見るがごとく、白帆點
々、これを彩りて一幅の活畫圖に對するの思あり。

美保關港 出雲にありては最も良港にして東西三町、南北五町、深さ
五仞より十四仞に至る。北海航行の船舶にして、風波を避くるものは、
皆此に來りて投錨す。岸頭に立て望むときは、美保灣を隔て、西南には、
夜見が濱の長洲、青松を戴きて突出し、明媚の風光筆舌の盡す所にあら
ず。近年此の海岸に海水浴場を設けしを以て、夏期に至れば浴客群集し、
甚だ繁盛なりと云ふ。

美保神社 美保關市街の西北にありて、事代主命、三保津姫命を祭れ

る國幣中社なり。神代の鎮座にして、出雲大社に亞ぐの舊祠なれば、特に神祇官八神殿にも奉祀せられ、歴朝の天皇、御崇信淺からず、今上天皇亦御劍を奉納して御崇敬あらせたまひぬと承りぬ。往時二萬六千餘坪の社域を有したりしが、明治初年に至りて、八百五十餘坪となれり。本殿、通殿、拜殿、舞樂殿、祭器庫、社務所、隨神門等あり。地は、三面に山嶽を環らし、背後に森林を負ひ、鳥居を出づること數十歩にして海岸に達す。毎年四月七日、青垣柴の神事と云へるを行ふ。今其の一斑を擧げんに、一隻の神船を艤裝し、これに神輿を遷し、綠葉を以て、一の垣を造る。其の高さ一丈六尺、幅一丈、これに柳を挿し、注連を張り回し、中央には唐櫃を安置す。唐櫃の中には、波剪御幣なるものを納めたり。斯くて神船を港内の中央に漕出し、以て神事を行ふ。此の間は幾千百の賽客、海岸に群集して神船の歸り來るを待ち、其の岸に着くや、皆先を争ひて、神船に飛び乗り、柳を折り、垣を破り、波剪御幣を得んとす。

故に其の雜踏名狀すべからず、或ひは海中に陥り、或ひは陸上に倒れ、實に一奇觀を呈す。波剪御幣と云へるは、水難火難を除くべしと稱する神符なり。

華藏寺 美保關の西方二里ばかり、本莊村大字別所なる枕木山の麓にあり。天長二年、智元上人の草創にして天台宗に屬せしが、後臨濟宗に屬し、現今南禪寺に隸す。枕木山の絶頂に登れば、眼界忽ち開け、因伯備石の諸山を遠望し風光頗る絶佳なり。

松江市 出雲國內に於ける第一の都會にして元は、松平氏の城市たり。東西二十一町、南北二十七町、市坊三十三、戸數六千に近く、人口二万九千内外を算す。大橋川は、其の南部を横ぎり、河南を白瀉と云ひ、河北を末次と云ふ。其の西に一丘陵あり、即ち舊城趾にして、當時の天主閣は、今猶ほ存在し、老樹蒼鬱し、其の間に近頃花卉を栽植し、以て市民の遊園地となせり。大橋川に架せる鐵橋を大橋と云ふ、其の附近は、

船舶の發着場にして、西すれば宍道湖を横斷して沿岸の名邑に往復するあり、東すれば大橋川を下りて美保關及び米子等に渡航するを以て、船客貨物は常に輻湊する所なり。島根縣廳、地方、區裁判所、市役所、師範及び中學兩校、縣立病院、稅務署、小林區署等の官公衙あり、市街殷賑、富家連檐、就中百瀉本町、天神町、末次本町等のときは、最も繁盛なり。

天神内公園 松江市天神町の南にあり、南は天神川を隔て、南山の綠蔭と相對し、西は宍道湖を擁し、風光甚だ明媚なり。天神社は其の中央松樹の翳鬱たる中に鎮座し、社殿甚だ高潔なり。園の廣袤は、東西二町、南北五十餘間、内には酒樓、露店相連り、盛夏の候に至れば、涼夜を趁ふて節を曳くもの少なからざれば頗る雜踏を極む。

須衛都久神社 松江市字茶町にあり、伊弉册尊、素戔鳴尊を主神とし、速玉男命、事解男命、菊理姬命を合祀す。昔は域内廣濶なりしが、今

は僅に五百餘坪あるのみ。本殿、幣殿、拜殿、神饌所、祭器舎、祈禱殿、神馬舎、攝社末社五座、神門等あり。毎年四月及び九月各九日に例祭を執行し、賽人群集、雜踏名狀すべからず。

宍道湖 は出雲、楯縫、意宇、秋鹿及び島根の五郡に跨り、東西四里十町、南北一里二十二町、周回十三里二町、斐伊、宇賀、來待、玉造、乃白の諸川を受け、松江市よりは、大橋川、天神川等を経て中海に通じ、北方は、佐陀川を以て外海に通ず。東岸に一の小島あり、嫁か島と云ふ、全島は岩石を以て骨子とし、古松を戴きて皮髪とす。風景甚だ絶佳なるを以て、夏の夜、小舟を附近に泛べ、以て涼を納るゝもの少なからざるなり。又湖中には鱧、鯉、鮒、白魚等を産し、就中鱧を以て最たる名産とす。此の湖に生ずる鱧は、四腮を有すること支那松江の其の物に同じ、是れ松江の稱の起る所以なりとかや。

玉造温泉 松江市を距ること二里餘、玉造村大字玉造にあり。湧出口

に於いては百四十九度、浴槽に於いては百五度の温熱を保つ。塩類泉にして無色透明なり。佝僂質斯、腺病、子宮病、咽喉加多爾及び諸種の皮膚病等に効ありと云ふ。地は、東西南の三面に丘陵を繞らし、北は開けて宍道湖に接し、玉造川其の中央を貫流し、風色佳なり。夏日は、浴客特に多し。

●大篠津停車場

大篠津 は境を距ること三哩三鎖。

●後藤停車場

後藤 は大篠津を距ること六哩。

●米子停車場

米子町 は後藤を距ること一哩三鎖。伯耆國內第一の都會にして山陰國道の衝に當り、西に米子港を控たり、市坊の數三十三、東西十五町、南北三十二町、戸數二千五百餘、人口一万三千に餘り、町内に區裁判

所、郡役所、監獄署等の官公衙あり。米子港は、東西二十町、南北三十町、深さ一丈餘、海路六里にして松江市に達すべし。船舶の往來絶ゆることなく、甚だ殷賑なり。

勝田神社 米子町大字博勞町にあり、創建の年月詳かならずといへども、天忍穩耳尊を祭れり。境内一千九百餘坪にして老松鬱茂し、隣地なる馬場と稱する堤上には、數多の櫻樹あり、花時の眺に宜し。

●熊富停車場

熊富 は米子を距ること一哩七十四鎖。

●淀江停車場

淀江 は熊富を距ること五哩一鎖。

大山寺 大山の北面半腹大山村にあり、天台宗にして延曆寺に隸す。初め養老年中、金蓮上人、此の地に一字を草創したりしが、後延曆寺第三世慈覺大師、此の地に巡錫して留まり、丈六の地藏菩薩を安置し、始

めて大山寺と號す。今の本堂は、天承年間の再建に成りしものにして常行堂又は萬行堂と云ふ。當時方二十四間に餘れる巨大のものなりしが、漸次修繕することに縮少す。然れども其の木材は、皆創立時代のものにして、棟楹の類、一としてこれを變更せざるものなれば、實に一千年以上の古堂と云ふべし。境内五千二百餘坪にして本堂、觀音堂、阿彌陀堂、鍾樓、總門等あり。又賽路の左右には、金剛院外十七寺あり。此の寺地は、大山の半腹に位するを以て、大山原を隔て、光麗山、鍋山の間に國道の部落と汽車の煙を吐きて馳するを見るべく、西北には夜見が濱、美保關を香露の中に望み、風致の秀麗なること山陰道中の第一たり。賽路は澁江より約三里半。

大神山奥社 大山寺より東南に當れる大山の劍が峰の半腹にあり。國幣小社大神山の奥の宮にして大己貴命を祭る。もと神佛混淆して、奥の院と稱せしが、明治初年これを分離し、大神山奥社と稱す。本社の後を寶珠山と云ひ、老杉森々として繁茂し、大山寺の境内に於ける眺望と異ならず。

●御來屋停車場

御來屋 は澁江を距ること五哩五鎖。

名和神社 名和村にある別格官幣大社にして元弘の忠臣名和長年を祭る。長年の事蹟は衆人の夙に知悉する所なれば、此にはこれを略しぬ。船上山 西南は、大山山脈に連り、東南は勝田が山と相對し、北麓は、一の高原をなして船上原と稱す。後醍醐天皇、隱岐より竊に伯耆に逃れ出でたまふや、名和長年、迎へ奉りて御座を設けたる舊趾にして、我邦歴史上特に著名の地なり。

船上神社 船上山の宮址より東一里ばかりの處にあり。傳へ云ふ懿徳天皇御宇の創建なりと云ふ。伊弉册尊を祭る。中世僧智積なるもの來りて、佛寺を造營し、本社を鎮守神となし、智積寺と號せしが、明治初年、

神佛混淆こんかうを禁じ、智積寺を廢し、船上神社と稱せり。元弘中、後醍醐天皇の潜幸せんかうせらるゝや、智積寺を以て、一時行宮に充てたまひしことありと云ふ。



徳島鐵道

●徳島停車場

○徳島市 は阿波國第一の都會にして徳島縣廳所在地なり、東西一里十七町、南北二十八町、京坊三十衢に分れ、人口六萬三千餘あり、もと蜂須賀氏の鎮城ちんじょうのありし所たり、地方裁判所、區裁所、市役所、郵便電信局、警察署等ありて、市街殷賑いんしんなり、徳島鐵道は、徳島市より起り舟戸に達するものにして、其間二十一哩三十九鎖とす。

城山 はもと鎮城のありし所なり、高さ十二仞じん、綠樹蒼蒼りよくじゆおさうとして吉野川を帶をび、海口に隣りす、今やこれを開きて公園となし、士女嬉戯しにょきぎの所とす、園内幽雅いゆうがにして山巔は眺望ていぼうに富とめり。

瑞巖寺ずいがんじ は城山の西南瀧の山にあり、眞言宗の古刹こまつなり、其の東に峙そはたてる頂上に三重の塔あり、これを大塔と稱す、此の邊より眺望最も佳なり。

撫養港 ウツヤ は徳島市を距ること北方四里十三町にありて、古來有名の要津なり、郡役所、郵便電信局等其の市街にありて、徳島に亞げる般賑なる市街なり。

鳴門 なるど は撫養港の前なる大毛山、其の西に三町を離れて高島あり、これより北へ四町ばかりに島田山ありて、此の三島の鼎足のごとく對合したる海峡を云ふ、海潮の盈虚によりて萬瀉の巻き起るもの、實に一大奇觀なりと云ふべし。

●藏本停車場

○藏本 は徳島を距ること二哩三鎖。

●府中停車場

○府中 は藏本を距ること二哩六鎖。

●石井停車場

○石井 は府中を距ること二哩二十一鎖。

高瀬の渡 わた は吉野川にあり、石井より北方凡そ一里とす。

地福寺 は停車場の傍にあり、藤花を以て其の名著はる。

五百羅漢 ごひゃくらかん は板野郡松坂村にあり、莊嚴院地藏寺と號す、天台宗の巨刹なり、僧空海の創建したるところにして、西國第五番の札所なり、天明年中僧定宥なるもの羅漢の木像五百軀を作りて安置す、皆等身の高さとす、賽客常に絶へず、石井より北方三里とす。

●牛島停車場

○牛島 は石井を距ること三哩二鎖。

●鴨島停車場

○鴨島 は牛島を距ること二哩廿八鎖。

●西麻植停車場

○西麻植 は鴨島を距ること一哩十五鎖。

●川島停車場

○川島 西麻植を距ること一哩十六鎖、麻植郡内に於ける名邑にして郡役所を置く、吉野川の岸に沿ひて稍殷賑なり。

●學停車場

○學 は川島を距ること二哩十一鎖。

●山崎停車場

○山崎 は學を距ること一哩六十鎖。

○山崎 螢橋 ほたるばし は停車場より僅に三町に過ぎず、初夏の候、螢火群をなして水邊に飛翔す、最も奇觀なり。

●湯立停車場

○湯立 は山崎を距ること一哩二十六鎖。

●船戸停車場

○船戸 は現今徳島鐵道の終點にして吉野川に瀕し、阿波國北部に於ける咽喉の地なり、對岸岩津との間に渡船あり。

讚岐鐵道

●高松停車場

○高松市 は香川縣廳所在の地にして、もと松平氏の城市なり、市街は海に望み、東西二十五町、南北十七町、人口三萬九千餘、市坊六十二、地方裁判所、區裁判所、師範學校、中學校、監獄署、郵便電信局、市役所、病院、香山郡役所等みな市内にあり、然れども其の繁華は丸龜市に一步を譲らざるを得ざる觀あり。

高松舊城 市内の北端海岸にあり、天正十六年國守生駒親正、これを築きたるものにして今猶儼然として舊觀を存す、瀬戸内海を航するものは船中より望見するを得べし。

石清尾八幡神社 市の西南端宮脇村の丘陵の半腹にあり、延喜十八年の創建にして縣社なり、應神天皇、仲哀天皇、神功皇后を合祀せり、高

松市街を眼下かんとに瞰み、海波の漂搖ひやうえうするを望のぞむべく、風光佳なり。

栗林公園 市の南端栗林村にあり、もと國守松平氏の遊息地いうそくちにして、

紫雲山の東麓にあり、林叢りんそう四方を繞り、園内幽邃いゆうすいなり、舊時は東海道五

十三驛の勝地しょうちを象かたりしものにして、今猶富岳、琵琶湖等に擬なしたるもの

ありて残り、假山泉池の奇趣きしゆ、多く其の比ひを見ざる所なり。

屋島古戰場 は高松市の東一里餘にあり、屋島山は其の山巔平坦さんてんへいたんにし

て屋上のごとく、遠く海中に突出とつしゆつし、其の東方の海邊は、即ち古戰場の

地たり、此の邊舊跡へんきゅうせきの探さぐるべきもの多し、今二三著名ちやうめいなるもの、みを擧

げ、これを左に紹介せうかいせん。

八島寺 屋島山の頂上にあり、天平勝寶六年、唐の僧鑑真和尚かんしんの創建

にして眞言宗なり、麓ふもとより登ること八町にして寺門に達す、源氏の白旗しろはた、

源平合戦記、同合戦の圖、其の他古文書等の寶物ほうぶつあり。

獅子の靈巖 前記八島寺の西一町ばかりにあり、懸崖けんがいに獅子の靈巖れいがんと

稱する一大岩石ありて突出とつしゆつし、其の形獅子の跳躍ていやくするに似たるを以て此

の名あり、山陽一帶の山は、海を隔て、北方雲煙の裡うちに隠見かくけんし、女木、

男木、甲かぶこの、島嶼たしましよは基布きふし、五劍山は東方に聳たつね、眺矚てうしやく開豁かいかく實に絶佳の

地なり。

佐藤織信つりのぶの墓 屋島山を東に下りたる路傍にあり、織信は八島の戦に

戦死す、義經の臣なり。

佛生山 香山郡百相村にあり、法然寺と號す、高松市を南に距ること二

里、建永の昔淨土宗じやうどしゆの開祖法然上人此の地に謫たくせらる、即ち其の舊趾きゅうしをト

して當寺を造營したるものなり、地は高丘にあり、遠近の眺望に佳なり。

● 鬼無停車場

○ 鬼無 は高松を距ること三哩十二鎖。

● 端岡停車場

○ 端岡 は鬼無を距ること二距十一鎖。

○國分 は端岡を距ること一哩四十三鎖。

●鳴川停車場

○鳴川 は國分を距ること二哩六十六鎖。

白峰寺

は停車場の東北一里半にあり、松山村大字青海に屬す、貞觀二年智證大師自作の千手觀音の像を安置し、長寛二年崇徳天皇の廟を創建す、而して後弘仁六年始めて伽藍を建立せり、寺地は白峰山の上にありて、綠樹蒼蔚たる官林に圍繞せられ、北は斷崖壁立し、内海の風光を瞰下することを得べく、眺矚甚だ佳なり。

木丸御所跡

は停車場より南十五町府中村字鼓ヶ岡にあり、一に甲智の御所と稱す、崇徳天皇長寛二年崩御せられたる地なり、丘上に小祠あり、里人之を天皇社と稱す。

八十八の清水

は西の方二十五町西庄村街道の傍にあり、其の水清冽

にして讚岐第一の清水なりと云ふ、一に彌蘇婆と書し、又野澤の水とも呼べり。

●坂出停車場

○坂出町 は鴨川を距ること二哩七十二鎖にして、東西二十五町、南北十五町に亘れる一名區なり、阿野歌郡役所、警察署あり、商船は常に其の港内に出入し、市街殷賑なり、此の地は殊に製鹽の業甚だ盛なり。

●宇多津停車場

○宇多津 は坂出を距ること二哩にして、其の人家は、殆ど坂出町と接續す。

●丸龜停車場

○丸龜市 は宇多津を距ること一哩十八鎖、東西十二町、南北十三町元京極氏の城市にして市街殷賑なり、第九師團、市役所、郵便電信局、警察署、區裁判所。中學校等あり、團扇は此の地の名産なり。

●多度津停車場

○多度津 是元京極氏支封の地にして、丸龜を距ること三哩九鎖、海岸は、石を以て波止場を築き、汽船商船の碇泊に便す、地に警察署、郵便電信局ありて、市街殷賑、商賈櫛を並べり。

海岸寺 多度津町の西、海岸續き白方村にありて、其の海濱を屏風ヶ浦と云ふ、寶龜五年僧空海此の地に出生したる舊址なり、今其の境内に産湯の泉、湯手掛の松等あり、境内の風光甚だ佳なり、彌谷寺 三野郡大見村彌谷山の中腹にありて多度津町を西に距ること

一里半、車馬を通ずべし、僧行基の開基にして、僧空海の再建になれり、山中岩石突兀として坂路崎嶇、其の巔に登れば、四方眼界を遮るものなく、坐ながらにして近傍八ヶ國の風景を見ることが得べし、故に古にありては此の寺を八國寺と號せりと云ふ。

●金藏寺停車場

○金藏寺

は多度津町を距ること一哩七十三鎖。

●善通寺停車場

○善通寺

は金藏寺を距ること二哩三十鎖にして有名なる善通寺の所在地なり。

善通寺 是停車場を距ること東南十町にあり、弘法大師生誕の舊址として名高く、且つ四國第七十七番の禮拜場に當れり、空海の唐より歸朝するや、父佐伯美通の名を取りて、當寺を草創せり、境内廣く、堂塔巍然たり、寛喜二年後堀河天皇の綸旨に曰く、善通寺は三國相承の燈を我等に挑げ、五智瀉瓶の水鎮へに此所に湛ふ、一天の下誰人か其寶雨に潤はざらん四海の内孰の盃か其智水に浴せざらん、と云々。

●琴平停車場

○琴平町

は善通寺を距ること一哩二十鎖にあり、市街は象頭山の麓に位し、旅館の大なるもの連櫓して甚だ殷賑なり。

金刀比羅神社 ニヒロラ は昔時象頭山金毘羅大權現と號し、松尾寺と稱する梵刹ぼうしやくに屬せり、明治維新後、神社となりて國幣中社に列せられ、金刀比羅神社と改む、祭神は大己貴命なり、地は象頭山の半腹に位し、數百の石階かゐを上りて達す、其の間九町あり、社殿しやてんは嚴げんとして正面に聳そびゆ、其の壯觀さうくわん目を驚おどろかす、境内櫻の馬場に櫻樹多く、花時の觀望甚だ佳なり。



伊 豫 鐵 道

伊豫鐵道は其の延長線短しといへども、一條に通ずるにあらざして、支線しせんを出したる所二三あれば、今便宜べんぎのため其の區間を劃くわして左に記載さいすべし。

松山横河原間

●松山停車場

○松山市 は伊豫國第一の都會にして東西十五町、南北十餘町あり、西北を古町といひ、東南を外側とがはと云ふ、市坊の數一百、戸數一萬餘、人口三萬二千あり、元久松氏の城市にして今や愛媛縣廳所在の地なり、裁判所、警察署、郵便電信局、市役所、師範學校、中學校等ありて、市街しがい賑にんなり。

松山城 是丘陵の高さ五十三間、周回三十餘町、古松老樾、蒼蔚として樓閣其の中央に突起せり、慶長八年、加藤嘉明の築くところなり、明治七年、本丸を以て公園となし、二の丸三の丸はこれを縣廳に充てしが、陸軍省の所管となりて一番町に移轉す、城樓は、今や松山分營の衛るところとなれり。

●立花停車場

○立花 是松山を距ること六十七鎖。

●久米停車場

○久米 是立花を距ること二哩五鎖。

●平井停車場

○平井 是久米を距ること二哩三十三鎖。

●田窪停車場

○田窪 是平井を距ること一哩七十二鎖。

●横河原停車場

○横河原 是田窪を距ること二哩、即ち終點なり、此の附近案内すべき個所なし。

松山高濱間

●松山停車場

○松山市 是前に記載せるを以て略す。

●古町停車場

○古町 是松山を距ること一哩三十一鎖、道後線に連絡する處なり。

●三津停車場

○三津 是古町を距ること二哩五十六鎖、此の地三津ヶ濱と稱し、港は濶く、汽船常に繫泊し、市街八衢に分れて殷富なり。

伊豫小富士 三津ヶ濱の沖八町に興居島あり、周圍六里二十七町、其の南部に高さ一千餘尺、峯頭富士山に似たる山あり、これを伊豫の小富

士と稱す。

、上公老越、翁蔚とし

○高濱

懸灘

は三津を距ること一哩四十九鎖にして海濱にあり。和等の諸島恭布羅列し、眺矚比類なし。

●高濱停車場

○松山市

●松山停車場

○立花

●立花停車場

○石井

●石井停車場

は松山を距ること六十七鎖、横河原への接續點なり。

●森松停車場

○森松 是石井を距ること一哩三十七鎖にし終點なり、南の方一里に磯部村あり、伊豫砥の産出地なり。

松山郡中間

●松山停車場

○松山市 前に詳記せるを以て略す。

●余戸町停車場

○余戸 是松山を距ること二哩十五鎖。

●出合停車場

○出合 是余戸を距ること七十二鎖。

●松前停車場

○松前 是出合を距ること一哩二十四鎖。

●地藏寺停車場

○地藏寺 是松前を距ること一哩三十四鎖。

士と稱す。

●高濱停車場

○高濱 は三津を距ること一哩四十九鎖にして海濱にあり。
燈灘 は高濱の邊一帶沖合の總名にして、野忽那、津和地、忽那、怒和等の諸島碁布羅列し、眺矚比類なし。

松山森松間

●松山停車場

○松山市 は前に詳記せり。

●立花停車場

○立花 は松山を距ること六十七鎖、横河原への接續點なり。

●石井停車場

○石井 は立花を距ること一哩二十五鎖、

●森松停車場

○森松 は石井を距ること一哩三十七鎖にし終點なり、南の方一里に磯部村あり、伊豫砥の産出地なり。

松山郡中間

●松山停車場

○松山市 前に詳記せるを以て略す。

●余戸町停車場

○余戸 は松山を距ること二哩十五鎖。

●出合停車場

○出合 は余戸を距ること七十二鎖。

●松前停車場

○松前 は出合を距ること一哩二十四鎖。

●地藏寺停車場

○地藏寺 は松前を距ること一哩三十四鎖。

●郡中停車場

○郡中 は地藏寺を距ること一哩二十七鎖にして終點なり。

道後線

●古町停車場

○古町 は前に出せるを以て略す。

●木屋町停車場

○木屋町 は古町を距ること僅に三十三鎖に過ぎず。

●道後停車場

○道後 は木屋町を距ること一哩三十四鎖とす、以上は松山高濱間の古町停車場よりの案内なるが、若し松山より直接道後に至らんとするときは、一番町停車場より乗車すべし、僅に六分時にして相達す、而して古町といへるも松山市の内にして、市の西北に偏したる部分の總稱なり。道後温泉 は道後村字湯之町にあり、一の湯、二の湯、三の湯は一屋

の中にありて、其の泉源は一の湯の東北隅の地にあり、臼の形に穿ちたる巨石を三層に疊み、恰も壺のごとくに造れり、鑛泉其の内に湧き出づるものにして之を湯釜と稱す、これより石の筒をつたひて各槽に引くものなり、四の湯五の湯も亦一屋の内に構造す、此の二屋の外、更に一屋を起し、之を新湯と稱す、浴槽は皆花剛石を以て造り、其の上に廣壯華麗なる二層若くは三層の樓を設く、泉質は半透明無臭無味の亞爾加里にして、其の分拆表は、實に左のごとし。

○亞爾加里	少量	○鐵	痕跡
○礬土	痕跡	○硫酸	僅微
○鹽酸	痕跡	○硼酸	痕跡
○硅酸	痕跡	○炭酸	僅微
合計零、三四瓦			

即ち以上のごとくにして、一の湯は百十度の温度を有し、二の湯以下は

いづれかも十度内外づゝ、遞滅す。

伊佐爾波神社 道後村大字道後に鎮座する縣社にして、比賣大神を本殿に、應神天皇を中殿に、仲哀天皇を左殿に、神功皇后を右殿に奉祀し、なほ田心姫命、湯津姫命、市杵島姫命を中殿に、天照大神を右殿に合祀せり、寛永七年久松宜長の再建するところにして社殿頗る壯嚴なり、遙に北方に燧灘の翠波を見るべく、松山市は眼下にありて、遠近一眸の中に集り、眺囑甚だ佳なり。

湯築城址 道後湯元町の出口にあり、建武年間、河野道治初めてこゝに築き、子孫世々居城せし處なり、河野通直に至り、豊臣氏のために滅され、遂に廢城に歸す、近年此の處を開きて公園となし、大に風致を添へたれば、浴後來遊ぶもの頗る多し。

石手寺 道後村大字石手にあり、神龜五年聖武天皇の勅を奉じて國司越智玉澄の創建するところにして、安養寺と號したりしを、弘仁四年、

僧空海、錫を當寺に駐め、これを改めて眞言宗となし、天長八年石手寺と號す、境内に櫻樹多く遊觀に適せり、崇徳天皇讚岐より潜幸ましくて「名にしたはは、又も來て見ん花の春夕影のこす雲のふる寺」と詠ませたまひしとぞ、覺理法皇も亦當寺に潜居ましくて、上皇の昔をしのばせたまひて「今もなほ春はかはらじさく花のむかししたふて雪のふる寺」と詠ませたまひしとかや。

兩新田靈社 湯山村の内河中村の字東岡にありて上下の兩社に分れたり、上の社には新田義宗を祭り、下の社には義宗の從兄脇屋義治を祭り、もとは新田大明神と稱へたりしが、明治三年今の社號に改めしと云ふ、義宗義治は出羽國羽黒山に遁れ居たりしが、明徳四年能得道範に迎へられて此の地に來り、遂に此の地に卒せり、大日本史に義宗戰死のこゝとあるは非なり、種々考證ありといへども今は左までとはとて茲に省さぬ。

九州鐵道

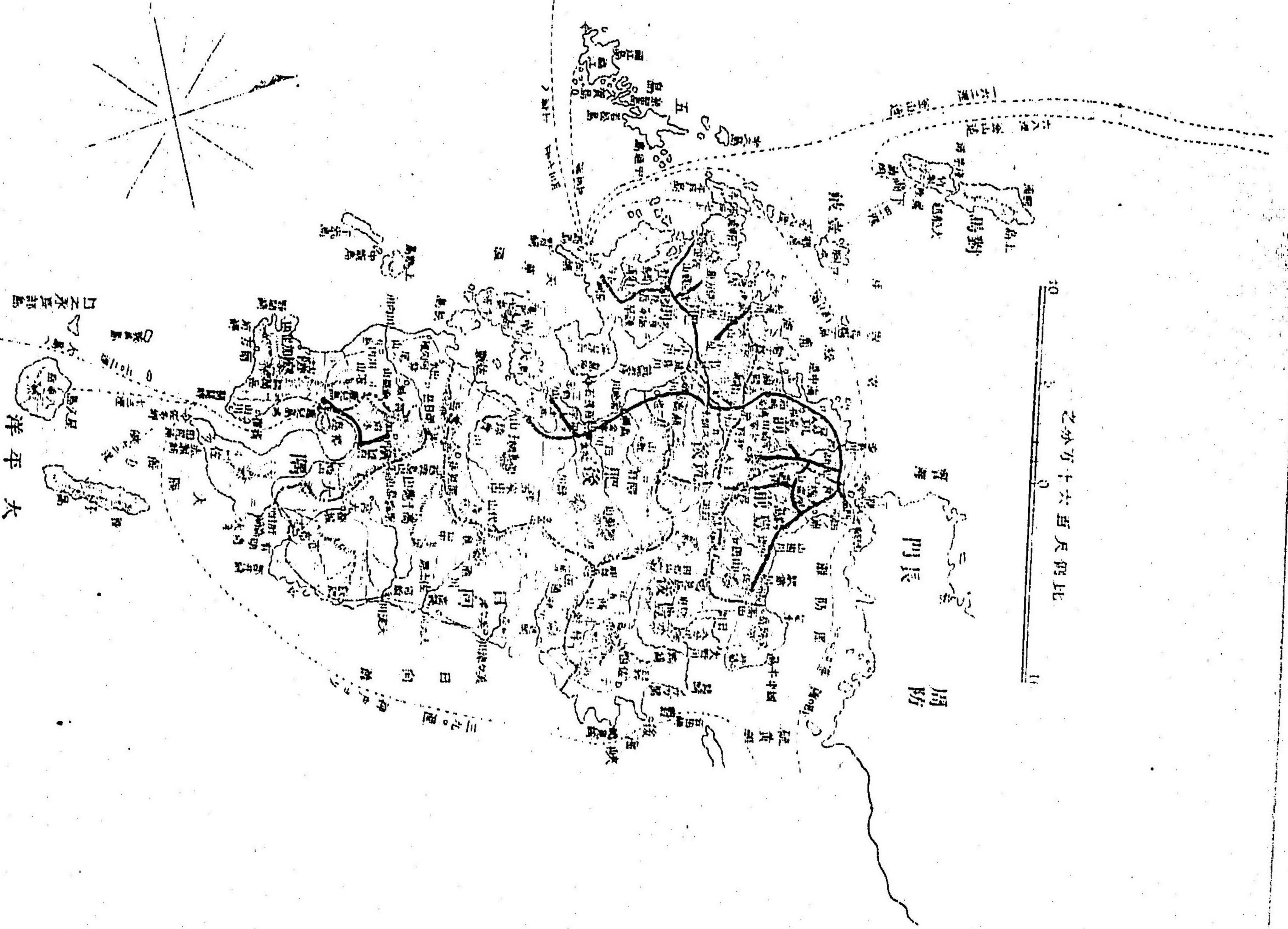
●門司停車場

(福岡縣豊前國企救郡文字關村字楠原に在り)

○門司港 是商業上九州樞要の地にして長門の馬關と相對し其距離僅々海上二拾餘町、洋和の兩船舶此港に來つて疾風を避け怒濤を竄るゝもの多く隨つて碇泊繫船に便なり港灣水深く東に門司山あり南に三角、風師山聳ち立つ其狀湖の如し硯海の稱偶然にあらず、往昔百濟、新羅入貢の港にして地名に今尙ほ遺趾あり高麗濱、新羅濱等是なり、馬關より門司へ小蒸汽船日に數十回來往し旅客の便に供す別に又た和船の渡しを營むありて繁榮日に倍蓰す、市街には會社旅店等宏莊なる建築年々増殖するのみ其重なるものは長崎税關門司出張所、警察分署、郵便電便局、海軍倉庫事務所、門司砲臺監守所、登記所、日本郵船會社出張所、大坂商船會社出張所、門司築港會社、石炭坑主會社、門司新報社、九州鐵道會社

臺灣之界線

第五圖 西海道



等あり

清瀧公園 是停車場の南方三角山の半腹の所に拓く、園の一隅に俱樂部

部あり花晨月夕遊優の場に供す、頗る樹木巖石の配置按排悉く所を得て
奇趣佳景に富み眺望また絶佳、其眼底は門司の全景遠く馬關の人煙及び
速戸の峽間臨眺筆に及ばず去て溪間細路を辿れば清泉奇巖を破つて墜ち
瀏々響をして夏猶は寒く池畔橋あり池中魚族住む風光天然にして巧を須
ひず寔に唯一の良公園たり

甲宗八幡社 是停車場より東方門司山麓に鎮座す、祭神は品田分命、
玉依媛命、息長足姫命を合祀す神寶には應神天皇の甲冑を藏し今は神躰
に代ふ門司六郷の産神と崇め古來小倉府内五社の一に措く此地海に面し

眺望佳なり

速戸の瀬戸 是北に周防灘西に玄海灘を控へ海面凡そ五町餘りを指す
海潮常に両灘の激浪に接帖され急湍滾々として捲くに似たり故に一名を

早吸の戸と呼ぶ、速戸神社は此岸上速戸崎に鎮座せり仲哀天皇九年の建設に係る祭神は比賣大神、彦火々出見命、鵜萱葺不合命、豊國姫命、阿曇賤良神の五座なり毎年陰曆大海日に行ふ神式を和布刈の神事といふ

門司古城跡　は速戸神社の東方門司關山の巔にあり文治五年茲に築城す下總前司奉行たり後元和元年之を毀つ現時粵に砲臺を築き海峽防衛の爲め第六師團之を管守す、三角山は古城の砦なりしと云ふ

門司屋關の古跡　は入道前關白の歌に『春秋の雲井のかりもどくまらず誰が玉章の文字の關守』と詠れし如く古代關を据へ置れし所にして堀川帝嘉保年間まで存せし由散木集に見ゆ然れど其の跡は定かならず唯舊門司に關守の井戸といふあれば其近傍にや

小森江　は文字關村字大里の東にあたる海濱にして近傍新羅崎、久豆豆あり、往昔高麗國より入貢の船舶此海濱に來つて碇泊せしより高麗入江と呼びしを轉訛して何時しか小森江と稱したり、同地海岸に船繋ぎ松

あり神功皇后三韓征伐の砌り御船を繋ぎし松なりと聞く、大里は安徳帝の行宮ありし地なりとて内裏と呼びしも享保の頃大里に改む

岸柳島　は童子も知る宮本武藏が佐々木岩柳を討ちし所にて元は松島と呼しが其頃より今の名に換はしと、汽車門司を發して凡そ二十町遙か海上に見認る一小島は即ち之れなり目下赤間ヶ關避病院を茲に置く

●大里停車場　(福岡縣豊前國企救郡柳ヶ瀬村大字大里に在り)

○大里　は赤間關の通路にして豊東郡の海濱今津へ越す道あり、幕政の頃は九州大名參勤交代ありて此地大ひに繁昌す維新後は寂莫として空しく寒村となれり

柳浦内裏　は大里に在りしと云ふ、柳浦は此邊の總稱にして往昔養和天皇行宮を此地に置きしより人呼んで柳浦内裏と稱せしも憚る所あり大里と改めたりと、行宮跡を柳村と云ふ貴船社あり今は柳神社と號す、此地に海水浴あり

武藏山砲臺　は停車場より二十町餘り海岸に赤阪延明寺跡と云へる山上に在り風景に富み、宮本武藏の墓、長州奇兵隊戦死の墓等あり

●小倉停車場　(福岡縣豊前國全救郡小倉町に在り)

○小倉市　は元小笠原氏の城下にして門司を去る一里廿四町海を北に受け町の中央に紫川(一名蒲生川)貫通して運輸の便を助け、門司の爲め昔日の賑ひなきも又九州の要港たり、港灣は深さ二仞(トツ)にして數隻の小蒸汽船赤間關に往來す此地に福岡地方裁判所小倉支部、小倉區裁判所、全救郡役所、小倉警察署、監獄支署、私立小倉病院、高等小學校、第八十七國立銀行、豊陽銀行、東京千壽製紙會社、住野鐵工所及び郵便電信局あり名産には有名なる小倉織を製織すれども現今上等の製品を出さず、城址は當時第十一團の兵營となり僅かに舊觀を存す、旅舎は門司と同じく回漕業を兼業する方多し

嵐山　は停車場の南方二里の處に在り慶長の頃京師の嵐山に摸して小

倉城主細川氏の築く所なり櫻川を廻らし春天菴郁として其名に恥すと又た螢狩もよろし

神道蓮門教會　は小倉市堺町はくへきせきぐわこうだいに白壁赤瓦宏大なる結　人目を愕かす院

内に蓮門妙法塔あり高さ丈餘參詣の老若數千群集す

神理教會本院　は小倉より一里三十丁、徳力驛に在り講堂は方十間尤も莊嚴うらやまなり教法は他の神道と殊にして饒速命の神傳の由亦什寶じうぼう多し

永照寺　は小倉市寺町に在り俗に九州本山と稱する巨刹きやくなり其他八阪神社、福聚禪寺、到津八幡社、愛宕山、清水觀音等あり

足立山及妙見宮　は小富士の稱あり小倉町の東に聳ゆる高山にて停車場より廿四丁あり四季共に遊覽の客陸續たり足立山の稱は人皇四十六代孝謙天皇御宇和氣清應わきのきよまさる此地に温泉を得て足痛全癒せしに起因すと傳ふ、紫川河口舊臺場近場は納涼に適地なり

●黒崎停車場　(福岡縣筑前國遠賀郡黒崎村に在り)

○黒崎町 是小倉を隔る三里餘にして一小市街を爲し昔時は頗る殷盛なりしとぞ關所跡あり目下旅客稀に荒涼たり此町には舊蹟多し春日社、祇園社、龍潜寺、浮蓮寺内紅梅地藏尊等ありて外に花尾城趾、帆柱城趾、道伯山城趾などあり尤も此等城趾は黒崎停車場にて見るを得可し汽車中より左に聳ゆる高山は即ち帆柱城趾其北は尾花城趾なり又發車の時遙かに望めば道伯山を認む

●折尾停車場 (福岡縣筑前國遠賀郡洞南村に在り)

○折尾 は筑豊興業鐵道線路と交叉し居れば隨て旅客の往來頻りにして百貨又た輻輳し爲に繁華の一小市街を爲す、廣渡組と呼ぶ回漕問屋あり、停車場には高く空を摩する架橋あり之れ九州鐵道の線路にして下は興業鐵道の線路なり故に旅客若し若松、直方、小竹、幸袋等へ行かんには茲にて乗り換ふるを要す

吉田堀川 は吉田切拔よしたきりぬきと唱ふ停車場より七八丁にて達す此工事は古へ

黒田長政水害を憂ひ開鑿して遠賀川えんががの水勢を分たわかちり其土功頗る壯看なり

●遠賀川停車場 (福岡縣筑前國遠賀郡島門村に在り)

○遠賀川驛 は遠賀川に沿へり天武帝東征の十一月天皇筑紫の國崗水門に至り給ふ之よりして遠賀の稱ありと傳ふ川下に葦屋の港あり一に岡港とも呼ぶ遠賀郡役所ありて商船來往し昔時は葺屋釜の名に知らる、此川は常國一の大河なり

●赤間停車場 (福岡縣筑前國宗像郡赤間村に在り)

○赤間 は俗に七浦三里と云ふは此近傍にして郡中の漁場多く爰に在り故に人家も他より多く商業も發達す又名勝舊蹟に富む
宗像神社 是有名なる社にして赤間より二里を去る田島に鎮座し靈驗灼然あきなり官幣中社たり日ノ神の御子田心姫命、湍津姫命、杵嶋姫命の三柱なり神寶多く藏せられしが折々の天災の爲め今僅かに隋すいの陳仁稜筆阿彌陀經を鐫せし石經あり字畫清婉人愛玩せざる者尠し其他足利尊氏寄進

の鏡等あり大祭は舊曆九月一日に行ふ參詣殊に多く賑ひ比なし

岩窟不動 是宗像社より五丁餘を隔つる鎮國寺の傍なり岩穴中に在る

石像の不動一丈三尺六寸穴不動と稱し參詣多し鎮國寺は眞言にして僧皇鑑の開基にして本地は大日、釋迦、藥師、阿彌陀、觀音の五躰の巨像なり

孝子竹丸正助墓 是赤間より東方一里許、吉武村大字武丸の南丘に碑

あり正助は享保の人父は正三郎至孝にして父母を敬愛し一村其德に化したりと死後寛政年間當時の國主其至誠を感じて墓碑を建てたり

節婦お政の墓 是赤間より西方五丁許佐屋峠の小丘に在りお政は天明

年間の人父は松尾七兵衛婦德兼備の名あり山陽遺稿或は吉田良春氏の節婦小傳等に詳かなり享和元年十八歳にて没す近年建碑の舉あり

山田地藏は停車場より三十町山田村にあり此地方米、蠟、鶏卵を名物とす

●福岡停車場 (福岡縣筑前國宗像郡西郷村に在り)

○福岡 是福岡へ五里廿丁、此地宮地岳明神の傍らなれば祭日には乗

客雜沓し爲めに賑ふ、津屋崎鹽を産物とす近傍鹽濱あり

宮地岳神社 是停車場より北へ十八丁許、福岡へ着車前西北に見ゆ、太

宰府天満宮に次ぐ大社にして信徒多く參詣群集し祠前石階の左右旅店酒樓軒を列ぬ、祭神は多紀毘賣命、狹依比賣命、多紀都比賣命を合祀す例祭、大祭、小祭數回執行す宗像七十二社の一にして由緒あり

鐘の御崎 是福岡より四里なり東北五丁許の海面に往古三韓より持歸りし巨鐘を沈没せしめたりとて此名あり風穩かに浪波靜かなる時船に棹さし眺むれば海底に朦朧と形を認み得ると云ふ

●古賀停車場 (福岡縣筑前國糟屋郡内村大字古賀に在り)

○古賀町 是停車場の西海岸に在り西方新宮へ一里、新宮は玄海灘に面し一市街を爲す、又た米を産出し又松露茸の名産あり

●香椎停車場 (福岡縣筑前國糟屋郡香椎村に在り)

○香椎町 是停車場に近く一小市街を爲す郵便局あり椎茸を名産とす

香椎宮 是社格官幣大社にして祭神は中殿に神功皇后、左殿は八幡、右

殿は住吉明神、大祭は毎年舊曆九月九日、此處は仲哀天皇神功皇后行在の御地なりしと松楠の大樹空に聳へ社殿は疊々たる石階の間に立つ幽邃清

淨閑雅無垢の靈境にして參詣四時踵を接して絶ゆるとなし綾杉、老藤一

双の名樹あり綾杉は神木にて神功皇后三韓より御凱旋の砌り御手植なり

と聞く本社は日本四所宗廟の一に居れば古來より朝廷の尊信淺からず屢

々勅使を遣され官幣を捧給ふ

名嶋 是停車場より十八丁斗り又た多々良鐵橋を通過の際海岸を望め

ば松栢茂れるは即ち名嶋の辨天祠にして帆橋石と云ふ奇石あり近傍名嶋

の城趾あり、多々良川は建武元祿の兩度激戰ありし地なり

草場山温泉 是停車場より十町草場山の中腹に在り満山矮松に埋めら

れ遠く博多玄海の帆影を望み頗る清快なり此泉は溫度低く沸かさゞれば

用ひ難し効能は疝氣、疝瘻、胎毒、疥癬等に著し春夏來浴者最も多し

●箱崎停車場 (福岡縣筑前國糟屋郡箱崎村に在り)

○箱崎 是博多町を隔つる十八丁餘、近傍名勝古蹟多し又八幡宮、郡

役所等の所在地なれば旅客の乗降頗る雜沓す、檜物職多く海濱漁家多し、

地藏松原、千代松原共に絶景の地たり千代松原は特に十里松の名あり

箱崎八幡宮 是停車場の近傍、東公園を距る十四五丁、博多へ一里餘

千代松原の林中に鎮座す官幣中社にして祭神は八幡大神、神功皇后、玉

依姫命を奉祀し歴代の帝殊に尊崇あらせらる創建は天平寶字三年なり、

樓門は文祿年間の建立にして關貫は後藤作の千疋猿其額「敵國降伏」は延

喜帝又は醍醐帝の御筆なりとも云ひ曾て工作に釘を用ひず、社殿の壯嚴

舉て盡し難し青松白沙西北に面して博多灣に臨む石華表は海汀に欹然た

り毎歲八月十五日神祭には放生式と云ひて流鏝、猿樂、角力等の催しあ

り又た陰曆正月三日には八幡社の市始めと稱して箱崎馬出両村の人民陰

一尺三四寸なる木球を垂懸す皆な裸躰にして奪ひ得たる方の村は其年五穀豊熟すと傳へたり而祭日とも博多の商家名々錦繡を纏ひし子女を伴なふて所々に遊燕す

釜掛の松 は箱崎宮の西南千代松原にあり往昔豊太閤薩を討て凱陣の歸途此地に延留せしが其際千利休京師より同じく此地に來り茶筵を張りて鬱を慰む其時此松に釜を掛けたるより古蹟とす太閤此松の下にて『あつき日に此木のもとに立寄れば波の音する松風ぞ吹く』と詠れたり云ふ

米一塔 は箱崎の東地藏松原にあり往昔京師一條大納言家に木嶋米一丸と云へる青年ありしが其妻の姿色艶なりしより他の猜みを受け米一丸は詐られて博多に下向し此地に横死す妻十六歳なりしが悲嘆の餘り京師より遙々此地に來り墓前に自害す此事歷今は小説に脚色せり

●博多停車場 (福岡縣筑前國福岡市博多町に存す)

○福岡市 は筑前の大都會にして福岡は往古福岡と呼び慶長年間黒田長政筑前に管領を拜し初めて茲に築城し改めて福岡と稱す商賈軒を列し船舶日に往來し舟楫の便と車輛の運輸とを併用し繁榮日に倍蓰す福岡縣廳、全地方裁判所、全區裁判所、第六師團福岡戍衛、高等中學修猷館、勸業試験所、測候所、郵便電信局、博多長崎税關出張所、大林區署、市役所、警察署、福岡日々新聞社、福陵新報社等なり

○博多 は上古太宰府外九國二島を總轄する官廳ありし、此地は元より世に聞えし市街にして港灣の良好なる袖の湊の古稱あり太宰府繁隆の頃は屯兵を置かれ外賊襲來の防禦に備へられし事あり故に博多を名付て石城府と云ふと諸史に見へたり『ちどりなく袖の湊をどひこかし唐船もろこしふねのよるの寢覺めに』と定家の詠みしも又た證とするに足る長政入國の頃は博多福岡箱崎に石壘ありしも長政築城の時之を取り拂ひて今は跡無し市街に九州運輸會社、三井物産會社出張所、大坂商船會社支店、内國通運

會社支店、筑前鐵工會社等あり劇場には永樂社、教樂社四時興行し柳町の遊廓には三吉屋、惠比須屋其外二十四軒銀燭の光り羞明し、博多八景あり濡衣夜雨、箱崎晴嵐、若杉秋月、奈多落雁、博多歸帆、横岳晚鐘、崩山暮雪、名嶋夕照を云等ふ

東公園　は博多の東端千代松原の中央に在り閑寂幽靜慢歩杖を曳て花月を弄するに適す園内一方亭(和洋料理)青松館(貸席)の外玉突き、楊弓、吹矢、借馬等の設けあり遊客日に來て賑ふ園の近傍又た料理店あり集成樓とも妓妓を蓄へて客の請に應ず、官軍戦死之碑、元寇紀念碑ともに爰に建設せらる十里の松原とは千代松原の一名にして青松萬里白砂恰も碎玉の床を逞るに似たり

櫛田神社　は博多祇園町にありて筑前の總社なり天平寶字元年河内國櫛田神社を勸請せしより此名あり祭神は大若子命、天照大神、素盞鳴命

を合祀す毎年六月十五日祇園祭を行ふ本日は山笠を造りて昇き各町を廻り社内に据ゆ山笠は永享四年より始まり十二本なりしが今は六本を製す十三日を流れ昇き十五日を逐山と唱ふ山笠は臺に六本の棒を縛り臺の上には軍武者の人形を飾りて美麗を競ふ之を觀る者近郡近村より蝟集し來り雜沓を極む、世に元弘三年菊池入道寂阿官軍に屬し探題英時を攻めんと此社を過ぎ寂阿馬の進まざるを怒り義兵を沮む不忠の鬼神と其翁を躬りし由傳ふれど开は此社にあらず櫛田八幡と混同せし説にて誤謬なり

網敷天神　は網輪天神とも云へり博多網場町にあり其地は菅相公左遷となりて此浦邊を過ぎ玉ひしに網引き漁父の叢相公を請じて曳き除せし綱にて圓座を作り供せしかば茲に神靈を勸請して社を建て名に冠せり此社應長以前は袖の湊の近傍にありしと

聖福寺　は博多御供所町にあり安國山と號し建久二年千光國師唐より歸朝の後始めて禪法を講じたる有各の古刹なり扶桑最初禪窟の四大字は

後鳥羽院の震筆にかゝり源頼朝の開基なりし故其位牌今に存す小早川隆景の石塔曾我兄弟の手に死せし王藤内の墓等あり參詣の旅人常に絶ゆるとなし石童丸の濡衣塚は石童橋の東にあり

福岡城址　は現時第六師團第二十四聯隊の營所たり昔は廓門を今の天神橋口町の西中橋前に置き左右那珂川に沿ひて長石堤を築けりと黒田長政筑前全州を領し福岡を福岡と改稱せしは曾祖父右近大夫高政備前邑久那福岡にありて生地なるより採て福岡城と號したり

警固神社　は福岡市街に接したる那珂郡警固村乃ち福岡藥院の近傍なり祭神は中座を警固大明神(神直日命大直日命八十柱津日命を合紀)左方を小鳥大明神白山權現とし、右方に神功皇后八幡大神を觀請す

西公園　は福岡舊城の西端荒戸の海に臨みし荒戸山上にあり風光美を以て賞せらるる玄海の帆影遠く博多灣の孤舟雷山天拜の峰々圖書も及ばず山頂荒津神社を祭り祠前に鐘美亭と呼ぶ貸席あり席舎廣濶爰を眺望の最

とす其他松下處々に榻を出す茶店あり

芥屋の大門たほご　は筑前の西端志摩郡芥屋の北方五丁激浪怒濤の間に突出する巨大の奇巖なり福岡より六里村内旅店あれば遊覽に便なり此奇巖に怪洞ありて入口廣濶潮水浸入し小舟を操り入るを得可し進むと百間天然の角柱叢立し或は長く或は短し將に墜落するの狀を呈す尙は行く數十間舟楫の便なし尙は進む時は沙汀あり歩いて進むを得可きも窟中慘憺暗黒にして双眼眩す實に怪不思議妙工の神を得たるものなりと他に奇巖多く迅雷の響音を發するものありと

古來博多の名物として人の知る松離子は維新前までは正月七日に催し箱崎八幡社に打離しつゝ參詣せしが現今にては紀元節に催すととなれり濫觴は保元の頃此地小松内府の所領なりしかば内府の恩に感じ之に報ひんと小松離子を催し徳を頌歌せるより今日の如く華美を競ふに流れたりとぞ、名産には博多織、博多絞、石堂醬油、土人形、水晶魚なり水晶魚

は諸見川にて漁獲す味ひ淡白にて尤も妙なり

●雜餉隈停車場 (福岡縣筑前國那珂郡雜餉隈村に在り)

○雜餉隈 是博多を去る二里の驛なり那珂御室席田郡役所、雜餉隈警

察署等ありて國道の驛次なれば賑はわり、物産にはコークスあり

水城趾 是汽車停車場を發して數十丁左の車窓より看るを得べし日本

記に天智三年筑紫に於て大堤を築て水を貯へ水城と號く云々今の水城村

は其昔水城關ありたる趾にて太宰府廳の境域なりし由關門の柱石今尙ほ

存す『夕きりや立へだつらむ岩垣の水城の關に舟もかよはず』と光俊の詠

みしは爰の事なり太宰府の要害として異邦蠻夷の入寇を禦ぐ爲めに築く

堤の高さ五間根盤二十七間堤欹損して一町の間無し樹木野草繁茂して東

の堤百五十八九間西の堤三百三十間餘堤の中絶て水無し今は田地と化し

て耕作鋤耘の場となれり去れど比類なき堤防と謂ふ可し

御笠森 是大野村字山田にありて土俗に依れば神功皇后白熊鷲を追討

の際道に一陣の狂風に遭ひ給ひて御笠を奪はれ御笠は風に隨て此森の樹
に懸れりと津守の歌に『大野なる御笠の森の云々と詠みしも爰の事なり
今は森の蔭絶て僅かに楠の老樹一二株を殘せり

宇彌八幡宮 是臨月の産婦遠きを厭はず安産を祈願するを以て女子の

參詣殊に多し停車場より北方一里餘米山の麓に鎮座す祭神は神功皇后及

び應神天皇なり抑も此地は往古神功皇后三韓より凱旋し爰に御産あつて

應神帝の御降誕ありしを以て宇彌八幡と稱す境内に子易の木と崇むる老

槐あり皇后此の木に縋り給ひ御安産ありしと傳ふ又た女子之に賽す

る夥多し神殿より遙かなる海邊を胞衣の浦と號す帝の御胞衣を箱に納め

爰より流しまいらせたりとて浦の名に呼びたり

刈萱の關 是水城村字古賀にあり人皇三十八代天智帝の御宇宰府守衛

の爲め茲に關を置る後土御門帝の御宇文明の頃迄存せしが何日の頃にか

取棄てられ宰府往還の路傍に纔かに其趾を殘す世俗劇場にて知る佐藤左

衛門繁氏石童丸は此地に居れりと星巖の詩に『刈萱關外雨浸々。濕氣吹衣夏亦寒。忽喜天南呈霽色。高良依約見峰巒。』

●二日市停車場

(福岡縣筑前國御笠郡二日市村に在り)

○二日市 は福岡又は秋月、甘木、日田等の東方より博多へ出て又は太宰府への參路なれば人家多く賑へり近傍又た名勝古跡あり風土殊に宜しく警察署、郵便局、村役場、高等並に尋常小學校等あり

太宰府舊趾 は停車場より二十町に過ず元國府村の東觀音寺西築山と稱する小山の西手田中に大なる礎石纒かに残る往昔は此地に鎮守府を置き西都と呼べり里俗御笠の里とも唱へり大門の趾は其南手に都府樓の趾は北手にあれど今は耕地となれるを憂ひて紀念碑を建設せり爰より西に行ば學業院趾あり太宰大貳吉備公の創立なり

觀音寺 は昔西國第一の巨利天智帝の御建立にして普門山清水寺と號し遍額は小野道風の筆として珍藏す別に秘藏の古鐘あり今日は舊觀無きも

十三の觀世音菩薩は尙ほ偉像にして往昔の壯を追想せしむ

太宰府天滿宮 は停車場より三十三丁雜餉隈より道路平坦にして二里

には足す小祠宇崇麗紫宸殿を摸し數多の堂塔殿廡は皆な悉く美術を蒐め結構雄大九州に冠す祠前に賽するもの日に千餘人庭園の風趣又た到れり祭神は云ふ迄もなく人皆の知る即ち贈大政大臣菅原道真公の靈なり、延喜の五年始めて神殿を安樂寺に建て同十九年に造營成り此時始めて菅相公を神とし崇む天滿大自在威徳天神の號を奉る明治維新の後國幣社を更めて官幣小社とし太宰府神社と改稱せらる宰府町の繁榮は一に神徳の餘惠にして豪商巨家薨を列ぬ境内の池は周圍百八間架する所の反り橋二つ池中に嶋ありて別に橋あり梅櫻各一株を植う瀑布飛沫を放つて遊鯉を驚かし噴泉高く騰つて睡鼈夢を破るの景清絶佳絶筆紙に盡し難し、公の遺愛飛梅は神殿の前に在て昔日の馨り床しく相輪の塔は樓門の左りに建つ例祭は八月廿五日なるも別に春夏秋の三季祭四月十一月の更衣祭殊に舊

曆正月七日晝七草の御供ありて薄暮よりは鷲かへの神事を行ふ此日九鐵は臨時に汽車を往復して參詣の群客を運ぶに至る宰府の近傍又た遊覽の地多し即ち東方に竈山西は天拜山岩踏の碧流北は大城山南は葦屋の宿尙は探勝すべき處多し、名物梅ヶ枝餅或は天拜山延命艾の類は祠前茶店等にて鬻ぎ寶物の拜觀は寄附金を爲す者に限り隨時望みに應ずべく梅の御符は社務所に於て授與す本社は一千有餘年の古社なれば寶物は元より多く亦看るに足る可きなり

天拜山　は停車場より三十丁市村大字武藏と云へる處にありて登り四丁と唱へらる山路羊腸崎嶇登山者其峻を困む満山櫻楓を以て封するに似たり春秋の好景又た一驚、博多灣の白帆點一幾箇波穩かなるの日白鷗と交叉して一幅の好畫圖たり山巔巨松天を突く故に遠く數里の間より望むを得可し山上に天神の社あり麓には新天神の祠其傍ら木柵を以て圍へるは天拜石なり往昔管相公讒を時平に搆へられ罪なふして配所の月、身は

左遷の果敢なき誰に語らんよすがさへ絶へてしなくば玉の緒の乱れて死する我ならし何事も皆な天なりと塵の浮世はしら糸の麓の瀧に齋戒したに訴へ申せしかば山の名さへも今の世に天拜の字を冠するになむ

湯町の温泉　は武藏温泉の稱あり停車場より十丁天拜山の麓なり往古天武天皇白鳳年間藤原虎磨初て尋ね得たりと温泉は無色透明にして硫黄化水素の臭氣を帶ふ其効驗神の如く慢性リユーマチス、各種の神經病及ひ疥癬微毒の類、下腹又は全身の充血喉頭及び氣管支加答兒、子宮卵巢の慢性炎によろしと此泉外浴に限らず服薬として其効差異あるを見ず近歲俗室を清潔にし旅店數軒あり各々面目を一新なして毎戸湯壺の設けあり其外にあるは川湯、薬師湯のみなり

竈門山　は筑後の高山にて國の中央に聳ゆ太宰府鳥居より二里俗に寶満山と稱す大江匡房の歌に『かまと山また夜をこめてふりつゝもる峰の白雪明てこそ見め』とあり筑紫の總鎮守と古來より崇められ峻嶺霧濃か

にして森陰樹下暗く烟氣絶續眼に遮る屢なり登山道二つに分れ西方は太宰府より南方は大石村より山中尤も多きは楓櫻樹に亞しやくなんで石楠しやくなんの類なり貴窰門府神社の祠あり祭神は玉依姫命例祭を毎年四月十六日に舉行す此邊筑紫の近海は云ふに及ばず手を翳かざせば乾の隅には壹岐對島摸糊として眼底に映し天拜山其他近郡の風物掌に在るが如し奇絶の勝地加ふるに満山奇岩怪石突起し春は白雲の櫻鬢さくら秋は紅黄の錦を織て天工を銜ふ尙は東に巡り益影の井戸、窰門石、兒落しの岩、妙美水、獅子瀧、馬蹄石等順次歴訪せよ日を重ねるも倦む莫なむ

板寺 は二日市より太宰府へ賽路の途次にあり、太宰府十二勝區の一に數へらる例年八月天神の大祭に菅神の神輿遷幸ありて少焉の間休息あるを以て當日のみ賑ふ「神輿去後無人賽」。「一片斜陽照古祠」の句あるに至る然れども由緒ある舊跡なり

染川 は太宰府の南手に流るゝ小川なり『つくしなる思ひをめ川渡りなば水やまさらんよとむ時なく』と後撰集に眞忠の歌あり

觀世音寺 は太宰府の川邊にして往古宰府の繁昌せし頃は寺格もよろしく數百の僧侶を扶持せしと云ふ天智帝僧某をして開基を命せられし古梵刹なれば當時の結構想ふべし今は名のみ高くて微々振はず然れども寺寶多く藏す中に羅陵主假面國納利假面は巧妙無類と賞せらる遍額は小野道風筆なり

戒檀院 は觀世音寺の西に隣る禪宗にして日本三戒檀の一に居り唐の監眞和尚此寺に於て受戒せるより人々の歸依信仰を篤ふす九州に在て僧侶たらん者は來て入戒せしと名む

四王寺山 は停車場より一里、満山矮樹稚松を以て埋めらる山嶺礎石あり之れ圓滿山の跡なりと傳ふ圓滿山は人皇五十一代平城帝の大同年間に創建せられ四天王の像を祈願佛とし四五の僧侶朝夕讀經修行せしめられしが烏兔うう忽いつ忙ぼう後星霜の間明滅所を失ひ今は其礎石のみ大城山の別名

あるは太宰府の古昔鎮城ありしを以てならん又時々一の化石を發見するもあり此化石は四王寺の米廩焼失の折山積の米穀炭となり雨露に曝され遂に石となりしものにして其形狀珍なれば愛玩する人多し

有知山寺跡

は四王寺山と同じく停車場より一里にて大字内山にあり

寺は建武三年足利尊氏京師より遁れ九州に渡る時の戦乱に流石の莊嚴麗閣も兵燹に罹る、建立は嵯峨帝在位弘仁九年傳教大師の設計なり、山腹の林間窺門山の別社あり其麓には又た刀鍛冶に名高き金剛兵衛盛高入道紹翁の墓あり刀の刀莖を摸形とせる異様の石塔なり

●原田停車場

(福岡縣筑前國御笠郡原田村に在り)

○原田

は山間の一小村落にして筑前肥前の國境の木標を建り

筑紫神社

は停車場を去る十一丁餘延喜式内の神社なり祭神は五十猛

命、御笠郡の惣鎮守と稱せらる筑前國土記に謂ふ筑前筑後の國に荒神あり通行の人を食ひ盡す村人其鬼を慰せんが爲め社を建て其靈を安す云々

筑紫の稱は即ち鬼の人を食ひ盡すと云ふに基くと

城の山古跡

は停車場より廿町餘大字萩原に在り山上筑後に界し小早

川隆景の出城跡あり春は花咲き秋は峰の端の月共及良望を全ふし山下に菊池武光が血刀を洗ひたりし大刀洗川あり此邊菊池大友の古戰場なり

●田代停車場

(佐賀縣肥前國三養基郡田代村に在り)

○田代 是鳥栖へ一里の驛なり此地は往古天領なりし事は古史に審かなり中頃對馬守の所領となり當時は繁昌を極めしが明治十三年鳥有に歸す物産は櫛、蠟、米等あり森木警察署田代分署、村役場、私立椿壽病院、高等田代學校を設けらる小松觀世音は停車場より一里大納言重盛の建立又た太田山にも觀音を安置す八阪神社は停車場の北公園地

●鳥栖停車場

(佐賀縣肥前國三養基郡大字鳥栖村に在り)

○鳥栖

は線路の分岐する處にして一は直行して久留米、熊本、宇土、

八代、の方に向ひ一は右折して佐賀より長崎、佐世保の方へ行く茲にて列

車を乗換ゆる故に旅客は混雜し雜沓を極め百貨は爰に輻輳す
轟木 は停車場より五丁基隸養父三根郡役所、轟木警察署、郵便局、佐賀縣收稅轟木出張所、村役場、高等並に尋常小學校、日本銀行佐賀代理店、轟木支金庫等あり、姿見の池、腰掛石又同村瓜生野に菅公の古蹟等尙は存せり

●久留米停車場

(福岡縣筑後國久留米市字京町に在り)

○久留米

は筑後の西北にして北に筑後川を控へ軌道は西南に連なる前は有馬侯の城下にて福岡に亞ぐ繁昌なり廢藩置縣はいはんちりんの時に三潞縣廳を置き後明治九年福岡縣に属す物産は久留米緋、茶、蒟蒻玉、中次産、傘等なり市内に福岡地方裁判所久留米支部、久留米區裁判所、監獄支署、警察署、郵便電信局、第六區土木監督署、筑後川改修工事事務所、市役所、久留米紡績會社、輕便鐵道會社、内國通連久留米支社、公立久留米病院、上瀧本間の兩私立病院、第六十一國立銀行、深井銀行久留米支店、久留

米通輸會社等あり小學校は日吉、莊島、厚古、兩替四所に散在し亦尋常中學明善校等の設置あり

○水天宮

は久留米市瀬下町に鎮座す、停車場より西五丁筑後川の沿岸

巨松蒼鬱として水に影あり縣社に列す、祭神は安徳天皇、建禮門院、二位平時子を合祀せり例祭は舊曆四月五日より三日間世人船玉神と稱し水難を避くるに靈驗ありとて參詣の多き事太宰府に譲らす社殿は慶安三年當時の國主有馬侯の造營に罹りしが過般有志者改築す神苑も又有志者の寄附金を以て洒麗幽趣の景を寫したり

○久留米

は本市の特有物産にして現今一ヶ年の産額五十万反に及ぶ抑も

此發明者と云ふは天明年間久留米通外町に住みし一少女井上お傳の功なりとて其履歷を書せし紀念碑は明治十八年水天宮境内に建設せり

篠山神社

は舊有馬侯の牙城にあり停車場より東北七丁、祭神は有馬

氏祖先代々の靈を祀る社前に櫻樹數株を植う左側に西海忠死の碑を建つ

其傍に石欄を廻らす中に石の首級一個を置く碑を建て、由縁を誌す寒櫻は寒中花を開くよし境内に在る奇木なり

高山彦九郎の墓

久留米市寺町遍照寺内にあり停車場より十一丁墓前に安政三年戊午十月旦筑前隠士平野次郎國臣と銘せし石燈籠あり

梅林寺 是停車場の上手二丁久留米京町にある臨濟の古刹なり往昔より梅の名勝を以て聞ゆ有馬侯累代の墳墓あり將軍梅と稱する老樹今に存す

筑後川の沿岸なれば風景至極よろし

高良山 是往古高辨禮山と稱す久留米市を離る、東方一里半山頂に高良神社を鎮す國幣中社にして玉垂命を祭り一箇の明玉を神躰と崇む眺望

寔に佳大祭は毎年陰曆九月九日より三日間舉行す創建の歲月知れず

筑後川 是九州第一の大河別に千歳川の名を呼ぶ源は豊後の山中に起り肥筑の間を流れ若松港にて遂に筑紫太郎の名を負ふて海に入る延流實

に三十里日本三大川の一なり菊池武光雄戦の古戰場たり又元寇の時一大

難所と唱へられし船橋の古蹟は御井郡神代村に存す

沸し温泉 是停車場より二里餘の僻地なり御井郡高良内村字温石谷に

あり冷泉なれば沸して湯となす功能は疝氣、小瘡に驗ありと近時浴客増加せしより旅舎など出來賑へり

●羽犬停車場 (福岡縣筑後國八女郡羽犬塚村に在り)

○羽犬塚 是福島町を距る二里三丁の一小村なれども羽犬塚運輸會社あ稍賑はわり

船小屋の礦泉 是停車場より三十丁矢部川の北岸にあり久留米停車場

よりは三里に過ぎず清潔なる含鐵炭酸泉かんてつたんさんせんを噴出し貧血症、痔疾等に効能あれば殊に避暑の候浴客群集す山川の美以て釣す可く以て獵すべし寔に眺望に優れ不便の感なし旅舎は數軒あり

和泉礦泉 是停車場を隔つ五丁然れど船小屋に及ばず旅舎は數軒あり

○福島町 是停車場より壹里二十七丁を隔つ上妻郡の一名邑にして以

前は頗る繁華はんくわの地なりしが汽車開通示來少しく衰へしと雖も今尙近村を支配し頗る商況たり物産には製茶あり又花蒔の製作に巧みなれば他方に巨額を輸出す其他紙、生蠟、蠟燭、竹皮等あり

一條村石神　は停車場より三十丁字石神原の丘山に一祠を建て其中に存す石人の高さ四尺四寸其製粗朴こくはつ所謂上古時代の遺物なり審かなることハ筑後風土記にあり祠の脊後に石窟あり入口の簷のきには彫刻を施しあり吉田村石神　は一條村より二十丁福島より十七丁字磐戸山いわごやまと呼ぶ地に祠あり其側に存す石人は十字架に凭る如く又違ふが如し高さ五尺三寸林中には尙は欲損せる石馬石楯の類あり昔日は數多ありしも福島築城の用に供して今無し惜む可き哉

山内村の石窟　は福岡町より一里十町計り停車場よりは三里に餘れり村内の北手に山あり其半腹に石窟二ヶ所あるなり西手は豎二丈横壹丈餘の倅石たきせきにて結搆し有り宏大なれば觀る者膽を奪はる他は四五丁を隔てた

る字童男山と云へる山に存す石窟は山腹に在て中に石棺二個の有るあり里俗りぞく秦徐福しんのかよ此地に童男を伴ひ來り不老の奇藥を尋ねし處なりと

日向神山の奇巖　は耶馬溪保津に優るの勝あり停車場より六里餘の道程あれば或は遊志を殺ぐの嫌きらあれど決して負く勿れ實に自然の仙郷を成し快云ふべからず大淵村の人家に入て要意を整へととの淵蹊かたせきに投足し行々忽ち山狀變異し天然の奇巧不可思議の象ある可し不動、矜加羅、淵曳かたせき、獅々口など一見妙と呼び佇立去るに忍びざらむ左折右曲又た男徳、女徳、馬蹄、法螺貝、矢櫃やひつ、弓掛、千床等の怪巖羅列し壯絶營ふるにもものなし再び轉回して東せば正面、蹴破の巖並び立ち南に蝙蝠溪あれば青空僅かに見るを得るの蹴破けいの穴あな有りて何人も其鬼巧神鑿に愕然たらざるはなし

水田天満宮　は停車場より三十三丁下妻郡水田村に祀る祭典は七月廿五日に行ひ賑へり創建は嘉祿二年に罹る

征西將軍懷良親王の墓　は山本郡若園村千光寺内に塔あり高五六尺餘

り寺傳に之を懷良親王の墓と謂ふ果して然るやを詳にせず
後征西將軍良成親王の墓　　は上妻郡矢部村の奥東南の深山にあり明治
十一年五月勅裁有て親王の墓と定む發見考證せしは高良神社の神官船曳
鐵門氏なり今は木柵竹柵にて重圍し喬樹四邊に森々たり

●矢部川停車場

(福岡縣筑後國山門郡瀬高町にあり)

○柳川町　　は停車場の西に向ひ壹里三十丁筑紫海に瀕し、矢部川の分
流市街を縦横し船舶の便あり其繁榮は久留米に亞ぎ漸次商工ともに進歩
す福岡市を距る拾六里三十四丁市内に山門郡役所、町役場、第九十六國
立銀行、柳川區裁判所、柳川興産義社並に私立尋常中學傳習館、柳川高
等小學校等あり産物には絹、綿、織物、生糸の類にして殊に屋根瓦、鰻
等其名高し

柳川城址　　は柳川町字本城にあり永祿年間蒲池近江守の築く處幕政の
頃は立花氏の居城たりしが明治五年牙城燒失し僅かに礎を殘す而已

三柱神社　　は柳川町の東高畑村に鎮座す、舊藩主立花氏の靈を祀り文
政九年の創建にして縣社に列す境内に維新忠死の士を祭る池泉草木の美
なるより柳川町の公園とし酒樓茶店散在して遊客を慰す

清水觀音　　は停車場より一里山門郡清水村女山の山腹にありて平城帝
大同元年に建立せらる然るに天正の亂龍造寺の兵燹に灰燼となれるを立
花宗武之を惜み淨財を喜捨して再建す殿堂の側らに五層樓あり參詣多く
旅店數軒あり、女山は有名の古跡にして建久四年曾我兄弟牧野の夜風吹
拂ふ親の敵はうち濕る裳裾の半果敢なくも頼朝の刃に死せしかば其婢某
といふ婦人此世を憂しと墨染の衣かたしく旅寢して兄弟の冥福を祈らんと
諸國を巡り遂に此地に庵を結び塔を築きしと今に存す

○瀬高町　　は停車場の西數町矢部川の分流市街を貫通して舟楫の便を
加ふ物産は製酒にして年々の醸造巨額に上る豪家巨商薈を列らぬ
中山勸業試驗場　　は停車場より一里川邊村字中山に在て舊藩主立花氏

の設くる處時々種苗交換會或は品評會を開き農事の改良を期圖す園内又た牡丹薔薇の類を栽培し珍草抄しとせず
矢部川の礦泉 は停車場より數丁を出でず肺胃症に効ありと稱して來浴する者日に倍す別に眺望なく從て上等の旅舎無し

●渡瀨停車場

(福岡縣筑後國三池郡二川村にあり)

○渡瀨町 は停車場より十二丁を隔つる一小村落にて能勢神社あり此村の産物に素焼の土器あり停車場の南手に其煤烟をあぐ現今十箇を築き盛んに製造す又た温泉嶽は停車場より南に峙立す

●大牟田停車場

(福岡縣筑後國三池郡大牟田町に在り)

○大牟田町 は熊本へ十七里餘、門司へ三十七里許を隔つ大田港を控へ肥後の國境に近く海陸の便あれば倍々繁昌す近來炭鑛業盛んなるに起因し市況日に奮へり曩に鑛山局を此地に置き三池炭鑛を開掘せしより炭鑛鐵道の敷設を見又た別に馬車鐵道にて之を運搬するあり市街に炭鑛

社、紡績會社、警察署、郵便電信局、土木會社、三井物産會社支店、三池集治監、熊本縣監獄出張所等あり

三池炭鑛社 は日本の金傑三井家の所有にして社主は益田幸氏なり日々各所の炭鑛より採掘する所の石炭は實に巨萬なり、勝立鑛業場と云ふは未だ採炭に着手せず七浦炭坑と呼ぶは一晝夜六百噸を掘り宮の浦にては五百噸皆な鐵路にて大牟田港に運搬す大浦の採炭坑は一晝夜四百噸に過ぎず此は馬車鐵道にて同港迄運搬せり

大牟田紡績會社 は停車場の西手に見ゆる煉瓦の巨屋數棟列らぶ處即ち之れなり職工男二百名女五百名器械廿七臺資本金は三拾万圓なり

○三池町 は停車場より壹里、久留米柳川より熊本に通ずる國道なれば繁昌なり三池郡役所、三池區裁判所出張所、直關稅分署、三池郡議事堂等町中に在りて旅客來往隨つて繁し然れども大牟田に及ばず

三池山の梅 は此地に名あり三池町の東に向へば三池山見ゆ其山腹に

寺院あり院の庭にあるもの臥龍の名を冠し老木の梅あり庭より全郡の風土を察す可く好風眺望尤もよろし

岩ヶ崎の奇勝 は遊士の探ぐるに躊躇せざる所大牟田の南二三丁三川村にあり四ツ山の山脈蜿々海中に滑脱せる尖端は西南海波漫々遙かに肥前の温泉、杵島の高山に對し奇石怪巖聳立する間岩ヶ鼻と唱ふ

●長洲停車場 (熊本縣肥後國玉名郡長洲町にあり)

○長洲町 は肥後北部に小市街を爲す漁業場にして腹赤濱の稱古より傳はる又た製鹽に適し長洲鹽の名聲夙に高し此地より肥前島原の海上七里渡船ありて鐵道旅客と共に此市街を賑かす少なからず

腹赤濱 は長洲町海邊の惣稱なり景行帝筑紫御巡遊の折此に御輦を駐めさせられ海上遙かの山々繪も及ばずと宣ふ漁夫帝の御巡遊ありしを榮として漁獲する所の鮮魚を献す其魚の腹赤かりしとて今に濱の名稱に残れり

小岱山 は玉名郡第一の泰山古へは墨摺山と唱へり山勢一様八面より眺むるも變せず又た土俗に蓬萊の象ありと傳ふ龜の形に似たり

四王子神社 は長洲町の中央にて蛇除け猪除けと云ふ神符を出す

●高瀬停車場 (熊本縣玉名郡彌富村繁根木に在り)

○高瀬町 は停車場を距る八町高瀬川の河口を控へ肥後北部の一小邑たり元來高瀬は福岡へ行く街道の大驛なれば幕政の頃は繁華を競ひしが汽車の開通有てより稍其隆盛衰ふ町に警察署、郡役所、區裁判所、憲兵屯所、郵便電信局、直關稅分署、第九國立銀行支店、肥後國產會社、高等小學校等の設けあり

温泉浴場 は立願寺、鳶野、小天の三ヶ所に在り立願寺、鳶野は共に停車場より三丁程にして効能は疥癬、疝癩なり又小天は二里餘海邊に臨み一小村落なれ共眺望宜し且つ名物は河内蜜柑あり浴客常に群集す効能は立願寺等に等し

●木葉停車場 (熊本縣肥後國玉名郡木葉村にあり)

○木葉 は小停車場にして南へ市街を爲す豪家多きも其割りに繁昌せず石灰、屋根瓦を産出し木葉猿このはざると云へる翫器を造る西南の乱に劇戰晝夜に亘り新戰場に名あるは人能く知れり

田原坂 は停車場より五六丁田原村の南西植木、木葉の間に蟠る峻阪なり西南の役賊軍砲を敷き五十餘日の間嚴守し爲めに官軍の兵力を傷めしめ一時は彈丸飛散の害を蒙り草木寸青無く滿目荒冷鬼愀々、今日尙は痕跡の存する所ありと近歲道路を改正し昔日の如く峻ならず其平坦なる處に一大紀念碑雲を突く碑文は谷將軍の撰書は秋月新太郎氏にして大總督有栖川宮碑頭に崇烈の二大字を冠す

招魂社 は田原坂の頂上にあり十年戰死官軍の靈を祀る社内幾多の櫻樹を植ゆれば春日風麗なる日散策に適す眺望又た無きにあらず

遺物陳列所 は又た田原坂に在て招魂社の近傍數十武の地に建つ陳列

品は悉く十年の役に使用せし軍具のみ一見當時の慘烈壯勇の狀を想見するに足り暗涙に咽ぶも少からず

尙は訪ふべきの舊跡多きも爰には唯纔かに其名を記し好事者の一考とし敢て來遊を勸めざる可し池王神社、霜野城跡、延壽院、佐々宗能墓、大橋城址等なり又た春日大明神宮と稱する社あり此は木葉町の鎮守にして養老年間の建造なりと近傍露店を出し木葉猿を賣る同じく養老の頃より傳はり買ふ者は惡疫を免ると言嘯す

●植木停車場 (熊本縣肥後國山本郡菱形村大字鑑田に在り)

○植木町 は停車場より東北にあり十九丁を隔つ熊本へ三里餘山鹿湯町へ三里弱熊本街道にして別に山鹿に通ずる宿驛なれば從來小市街を爲す先に市町村制實施の際數ヶ村を併して植木町とし漸次繁昌に赴く山間に在ては有望の地形をなす町に警察署、郵便局、高等小學校を置く

杵築宮 は植木町に接近の地にあり停車場より數丁推古帝二年三月朔

日建之と社記にあれど他に數説を傳ふれば詳かならず祭神大己貴命外六神なり參詣夥しく靈驗四方に聞ゆ

七國大明神 是停車場より一里餘小野村に鎮座す勸請に就き雜説あり

詳かならず社前に小野泉水と云ふあり傳へ云ふ小野小町産湯の水なりと又た笑ふ可べきは此村に必ず美人生れ十五歳にて死すると

拜所松 是植木町の北外れ繁茂せる老松を云ふ

吉次峠 是停車場の西方吉次村にあり山本玉名の郡界なり十年の役賊

將篠原國幹茲に戰死す山上に一基の塚あり金賣吉次の墓なりと傳ふ怪む可し或は義經に奉仕せし吉次と同名異人ならむ

良實墓 是小野村の林間に在り碑面抹滅して讀むに難し口碑に依れば

小野良實の墳墓なりと傳ふれど確かならず

菱形池同八幡宮 是停車場より一里餘菱形村にあり田畔の一小池にし

て横四五尺縦八九尺水淺し搔き交せる時は澄み常は濁る當社は古へ大社

の山岩洞に白龍窟の三字を鐫り八幡大神始めて出現の地と云へり

温泉場 是近傍になきも停車場より二里餘を行かば山鹿湯町に至る此

地の温泉極めて能く浴客多し

●池田停車場 (熊本縣肥後國池田郡池田村大字池田にあり)

○池田 是熊本市の西北に在り其間僅々廿八九丁故に同市の東北部に

赴く人此驛より下車する尠からず先頃熊本市坪井に通する道路を開鑿せ

しかば旅客と共に貨物の運搬に頗る便益を與ふ清正公の廟は爰より參詣すべし

本妙寺 是清正公の靈廟ある所にして發星山と稱し停車場の西手三四

丁に過ぎず飽訖郡井芹村字中尾と云ふ靈廟は慶長十六年に子忠廣の建設

に罹る拜殿の額に淨池院殿と認む廟の壯麗宏大なり又境内規模廣濶にし

て酒肆茶店軒を列べ階を爽み露店出で其間に一株の櫻を植う花候には満
目花を以て埋めらるゝかと疑ふ廟の東方に大木土佐守、朝鮮人金官殉死

之墓等あり又自然石の巨碑は清正入國以降仁政を布き偉蹟多かりしを贊頌せしものなり古墳尙は山中に散在す、毎年六月二十四日に什寶の縦覽を許し殊に參詣雜沓す本妙寺は廟前石階の下にあり法性山或は中尾山と號し僧日眞の開基にして慶長五年清正大阪の菩提所を爰に遷す法華宗なり殿宇壯嚴を盡せしも明治十年の亂に薩兵茲に陣を張り兵燹を免かれずして灰燼に期す

岩戸山　は停車場の西方一里餘芳野村に在り金峰山背後に聳ゆる通俗靈巖洞を以て聞ゆ靈巖洞とは山下の一大岩窟にして洞中百人を入るゝに易く觀世音の像を安置す奇怪觀人の目を愕かす岩窟に彫刻せる靈巖洞の三字は歸代僧東陵の筆なり傍らに雲巖寺と稱するあり諸種の什寶を珍藏す又羅漢山下の庵、船頭石等の奇石あり、鼓ヶ瀧は岩戸山北澗の小瀑なり水激鼓音を發すと南に山下庵あり檜垣女が接みし所と傳ふ其他鹿子木三河守の逆修の碑などあり

●熊本停車場

(熊本縣肥後國飽田郡春日村に在り)

●熊本市　は商工漸次隆域に進み九州第一の大都會なり市の東に白川横はり西に井芹川を置き坪井川は中央を貫流す故に舟楫の便足り百貨輻輳す鐵路開けしより汽車に托する渺からずと雖も三角、百貫石の両港より運輸するもあり、大分三角等への乗合馬車は日々往來す爲めに旅客幾千の多きに居る、市内に所得税を納むる者六百名を超ゆしと聞く又至る所に料理店の看板を見ざる稀れなり随つて驕奢の風を見る、熊本は往古隈本くまもとと書せしが慶長六年加藤清正築城を企て銀杏城ぎんなん成るの日隈を忌み熊と改む明治の始め飽田郡に白川縣を置き若干も無く熊本縣と改稱し廳を古城内に移す近歲又千反畑町に再轉す、市街區劃整然たるは十年の戦亂に烏有に歸し更に市區の改正をなせしに因由す今其建築物の主たるは縣廳、議事堂、地方才判所、區才判所、監獄署、警察署、郵便電信局、大林區署、市役所、直關稅分署、商業會議所、米穀取引所、電燈會社、九州日々

新聞社、九州自由新聞社等あり、市内の繁華は唐人町鍛冶屋町を最とし朝市場は明八橋の邊一畦野菜鮮魚の山を築く、二本木町は有名の遊廓にして同所より三町白川の對岸に世安の湯あり浴客多し物産には刻煙草、木綿織、絹織物、麥藁帽子、水善寺海苔等類多し

熊本市 は市の中央茶臼山に築かれ東に坪井川西に井芹川を帶し北は京町西は新町の市街に達す銀杏城の偉名高く城樓天に冲す往昔菊池氏の一族山田某の築きたる千葉城は東北の隅に在り後年鹿子木氏之を領す天正十六年加藤清正豊公の命を奉じ更に又た築城を計畫し慶長六年工を起す同十二年巍峨たる鐵城竣功す其壯大結構なる天主城樓七層の高きを重ね門櫓共に悉く天に聳て九州第一の偉觀と稱せられしも明治九年神風黨の暴舉あり翌十年西郷の乱あり累年の兵火に空く影を隠して僅かに宇土櫓の懷舊を語るのみ城内明治六年軍營となり今は第六師團指令部其他步騎工輜重の營舎等悉く建築せられ面目一新す、古府中の跡は市の南端

細工町より東白川今の横手永田崎村宮寺邊一畦なりし當時在廳の跡今尙は存在す

錦山神社 は城北京町臺にあり其眺望風光の絶佳にして常に遊覽の客絶えず頗る賑へり縣社に位し加藤清正公の靈を祀る例祭には參詣又た多し境内に安井息軒翁撰文の碑あり

藤崎神社 は坪井町井川淵に鎮座す従前は城西藤崎臺にありしが十年の變後此地に社殿を新築し遷祀す祠前は白川の流に臨みて光景たり九州五所別宮の一に位し朱雀帝山城の石清水八幡宮を勸請あらせられる其日勅使神苑の側らに携ふるところの藤鞭を三折し祈るに神靈あらば奇瑞あれと忽ち鞭に枝葉生じ花咲く因て藤崎神社と崇む

菊池神社 は市の北方六里祭神は王家に忠誠赤意を碎き累代忠勇の名を普ねからしめたる菊池武光の靈以下を合祀せり近傍其城趾を存す所謂守山城の要害と云ふ今は殘礎のみ

紀念碑 是城內法華坂下にあり角形巨大にして佐賀臺灣鹿兒嶋熊本等の役に忠死せる官兵の姓名を列記す又右側に故山田伯の筆にして谷干城子撰文の碑あり周圍の園庭花草を植へ風致頗る宜し

花岡山 是横手村に在り春日村停車場より山上迄三四丁花季尤も行遊によろし俗に祇園山と稱するは今ま北岡神社と呼ぶ祇園の社昔時此山頂に鎮座せしを以てなり景色の佳なる、熊本全市を脚底に置き遠く阿蘇の山嶽益城の連峰雲烟の際に認め近くは江津湖本妙寺指呼の間にあり山腹神風黨の毒手に殞れし種田少將、明治十年の變に暴徒の狙撃を蒙りし安岡縣令の両墳墓あり山巔に登れば鐘懸けの松とて清正築城の砌此松に釣鐘し自ら撞きて役夫を指揮せしと名む側ら阿蘇の松笠ゆ文祿二年清正征韓の役に阿蘇大宮司の嫡子惟光十二歳にして讒者の毒刃に斃れしより松に名を冠して里人之を弔ふと

金峰山 是市の西に竦立する高山なり往昔地震あり俄然一夜に湧出せ

しものと傳ふ故に里俗朝出山と稱す山巔の社は淳和帝天長九年の春大和國金峰山權現を勸請せりと山上又た眺望ありと雖も山路峻なり

成趣園水善寺 是熊本停車場より一里程託麻郡出水村にあり庭園の美を以て誇る舊藩主細川氏の別荘なり又た水前寺の字を用ゆ園内出水神社あり細川氏累代の靈を祀る縣社に列し社殿古雅にして優美を極む毎歲春秋二季に祭典を舉ぐ此地元來水善寺と稱せし禪刹の跡なり細川氏管領の威力を以て寺を轉せしめ以て懋優消閑の場とす規模結構備前の後樂園に一步を輸せず假山參差老松嘉木點々其趣を添へ奇石怪巖起伏なし冷泉噴出し池を爲す下流は砂取町を経て江津湖に注ぐ風光九州第一と尊す江津湖は江津村にあり細川氏の遊漁地にして周圍一里半中央に島あり近村貸船を業とするものあり水苔、鯉、鮒等を産す

蓮臺寺 是熊本停車場より南へ拾三丁蓮臺寺村なり境内に檜垣の墓とて五輪の塔あり側ら檜垣女の汲みし井といふあり同女は往昔圓融帝の御

宇肥後より出で京師に住み和歌に堪能にして秀逸多し後ち筑前大宰府に

移り亦肥後に歸り府中の裏白川の邊に三輪組の歌を詠じて住し由

長命水 は茶用の良水なり熊本市中之を汲みて賣り歩く者あり飽田郡

嶋崎村なる石上山の麓にあり池田停車場より往けば十丁に過ぎず

谷陰軒 こく陰軒 は熊本停車場より一里飽託郡池上村谷尾崎にあり妙解寺の別

院にて水澗幽石の地園内に有名なる臥龍梅あり又た谷奥に白糸の瀧など

景趣に富む

●川尻停車場 (全郡川尻町)

○川尻町 は熊本市を距る三哩五鎮、國道の驛市にして名邑の一に居

れり加勢川緑川合流して南端を過ぎ水運至便、人家簷を相接し市街職工

多く日用器具を製出す數多、頗る殷賑を極む、

河尻城趾 は外城町にあり、當城は醍醐帝の皇子太宰權帥源高明八代

の孫河尻三郎實明始て此に城きつく是河尻の祖なりと、亦若宮八幡宮あり同

八年の創建なりと云ふ、同所に十六番塔と云ふあり里俗に河尻三郎若宮
五社明神を建立し祭典を擧ぐ遇々猿樂を催す時に花若と云る美童笛を能
す三郎館に歸り妻に向ひ今日の法樂何れが面白かりしぞと問妻女答て花
若の笛就中面白く侍りしと云ければ、偕は妻女花若に戀情れんじやうするならんと
三郎大に憤りいきこほ潜に花若を殺害す妻之を聞て我れ罪なきに斯うたがる疑ひを蒙れ
りとて緑川に投して死す其婢十五人相續ひて水に投死す之を合せ祀りし
ものなりと云ふ

法性寺 は河尻小路町にあり古刹にして年代を詳つまひらかにせず天正年間僧
信譽の中興にして本尊彌陀如來は聖德太子の作なりと云ふ

常清寺 は地藏町にあり寛永年間の創建にして開山は圓明院日及とす
法宣寺 は横町にあり此地には未だ數ヶ寺あり枚舉するに遑いとあらず

●宇土停車場 (同國宇土郡宇土町)

○宇土町 は川尻を去る三哩四十四鎮、舊細川氏分封の城市にして國